

# リアホサ

**全世界へ、24ページ**

防衛的な態度にならずに福音を分かち合う、30ページ

性的に清くあることの祝福、14, 42ページ

わたしはほんとうに改宗(改心)していたでしょうか? 50ページ

教師養成に対する日曜学校の役割、74ページ



第10回回国美術展「ロビンソンの原画により掲載

### 「ベンボー家の農場と池」 フランク・マグレビー画

1840年3月、十二使徒定員会のウィルフォード・ウッドラフ長老はイングランドのハンレーに到着し、改宗したばかりのウィリアム・ベンボーとアン・ベンボーに会った。ウッドラフ長老とベンボー兄弟はヘレフォードシャー地域へ赴き、ウィリアムの兄弟ジョンとその家族を教えた。それからベンボー家の兄と弟は、隣人たちを招いてともに宣教師の言葉を聞いた。その結果このベンボー家の池で13人がバプテスマを受けた。

さらに彼らは以前彼らが所属していた教会の信者（同胞教会という独自の教会を設立していた600人以上の人々）にウッドラフ長老を紹介した。一人を除く全員がバプテスマを受けた。その年、彼らは自分たちが所有していたギャドフィールド・エルムのチャペルを教会に譲渡した。「地を満たす」24ページ参照。



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——  
忠実な友  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 7 家庭訪問メッセージ——  
家族と家庭を強める

特集

- 12 福音にふるさとを見いだす  
ロゼル・ハストウェル・ハンセン  
ふるさとから何千マイルも離れて  
いましたが、初めて礼拝堂に入っ  
たとき、ふるさとに帰って来たよう  
な気がしました。

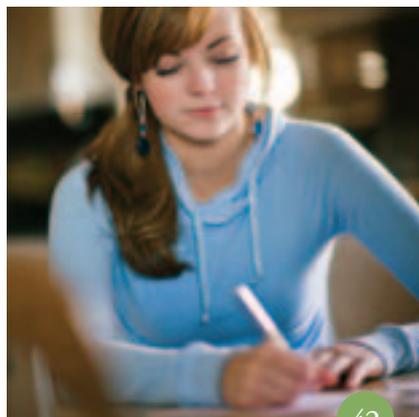


表紙  
表紙——  
「ロシアの奉獻」エミン・ズルフガロフ。  
裏表紙——  
「聖約への備え」エリック・デュアーテ画

- 18 神殿を選ぼう  
リチャード・M・ロムニー  
インドの末日聖徒たちが神殿で  
結婚することの祝福について証し  
ています。
- 24 地を満たす  
イエス・キリストの教会は今世界  
中に広がっています。教会の発展  
を証する絵や写真を紹介します。
- 30 自信をもって福音を分かち合う  
M・ラッセル・バラード長老  
自信をもって行動する必要があります。  
自分が何者であり、何を擁護  
しているかについて確信するの  
です。

シリーズ

- 8 小さな、簡単なこと
- 10 キリストについて語る——  
主はどのような傷も  
癒すことがおできになる  
シルビア・エルボラト・クリステンセン
- 11 教会での奉仕——  
召しによって祝福を受ける  
ジュディス・カスティーリョ・マルテロ
- 14 わたしたちが信じていること——  
性的な清さが人生にもたらす祝福
- 16 福音クラシック——  
開拓者は何をもたらしたのか  
スティープン・L・リチャーズ管長
- 38 末日聖徒の声
- 74 教会のニュース
- 79 家庭の夕べのためのアイデア
- 80 また会う日まで——  
戦うか、逃げるか、それとも  
甘んじて打たれるか？  
R・バル・ジョンソン



42

## 42 フリーダへ

ある若い女性がボーイフレンドと暮らすかどうか答えを求めています。ヤングアダルトの何人かが彼女にアドバイスの手紙を書いてくれました。



こんげつごう なか  
今月号の中に  
かく  
隠れている  
リアホナを  
さが  
捜しましょう。



46

## 46 そこが知りたい

## 48 ポスター——完成まで40年

## 49 わたしたちのスペース

## 50 わたしはこのようにして知りました——徐々に知る

ソニア・パディーヤ・ロメロ

## 52 万事うまくいきます

エリック・W・コピシュカ長老  
特に青少年の時期に自分の証を持ち続けたので、活発な教会員として過ごすことができました。

## 56 永遠の家族

ジョシュア・J・パーキー

家族を亡くしたユアンシーは、自分の家族が永遠に結び固められていることを知り、慰めを得ています。

52



70

## 58 「絶対にだめだ」

トルーマン・E・ベンソン

ぼくの友達<sup>ともだち</sup>は、けしかけられたら何でも<sup>なんでも</sup>すると思<sup>おも</sup>っていました。でもそうではないことが今日<sup>きょう</sup>分かりました。

## 60 わたしを助<sup>たす</sup>けて、導<sup>みちび</sup>いて

アン・メット・ハウランド

新<sup>あた</sup>しい町<sup>まち</sup>で迷子<sup>まいご</sup>になり、助<sup>たす</sup>けを祈<sup>いの</sup>り求めました。

## 62 預言者<sup>よげんしゃ</sup>の約束<sup>やくそく</sup>

トーマス・S・モンソン大管長<sup>だいかんちやう</sup>

モンソン大管長<sup>だいかんちやう</sup>は自分<sup>じぶん</sup>の先祖<sup>せんぞ</sup>の物語<sup>ものがたり</sup>を紹介<sup>しょうかい</sup>して、証<sup>あかし</sup>の大切<sup>たいせつ</sup>さについて教<sup>おし</sup>えています。

## 64 分かち合<sup>わかちあ</sup>いの時間<sup>じかん</sup>——

わたしは イエス・キリストの  
もはんに した<sup>し</sup>がうことが  
できます。

サンドラ・タナー、  
クリスティーナ・フランコ

## 66 かいたくしゃの parasol

マーリ・ウォーカー

かいたくじだいの二人<sup>ふたり</sup>の女<sup>おんな</sup>の子<sup>こ</sup>、クリスチアーナとサラは、長い<sup>なが</sup>たびに、じぶんの parasol をもって 行く<sup>い</sup>ことにしました。二人<sup>ふたり</sup>は、だいじな parasol を手<sup>て</sup>ばなすことが できる<sup>できる</sup>でしょうか。

## 68 わたしたちのページ

## 70 ちいさな おともだちへ

リアホナ 2010年7月号

第12巻7号(09287 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトル

十二使徒定員会: ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリ, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: スペンサー・J・コンディ

顧問: キース・K・ヒルビツグ, 菊地良彦, ポール・B・バイバー

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ビクター・D・ケープ

編集主任: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーグ

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: ライアン・カー

編集補佐: スーザン・バレット

編集スタッフ: デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリー・ポーター・ガント, アニー・ジョーンズ, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジャン・ピンボロー, リチャード・M・ロムニ, ドン・L・サール, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワデル

主任秘書: ローレル・トイスマー

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ: カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オーヌ, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キム・フェンスターマカー, キャスリーン・ハワード, エリック・P・ジョンソン, デニス・カービー, スコット・M・ムーイ, ギニー・J・ニルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: ランディ・J・ベンソン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名: 末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所: 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30

電話 03-3440-2351

定価: 年間予約/海外予約 1,000円(送料共)

普通号/大会号 150円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。  
Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,  
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA  
電子メール: [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org)

「リアホナ」は、[www.liahona.lds.org](http://www.liahona.lds.org) に様々な言語で掲載されています。「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスラマ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ヒンディー語, ハンガリー語, アイスマント語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, シンハラ語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タミル語, テルグ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2010 Intellectual Reserve, Inc. 版權所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール — [cor-intellectualproperty@ldschurch.org](mailto:cor-intellectualproperty@ldschurch.org) にご連絡ください。

**For Readers in the United States and Canada:** July 2010 Vol. 34 No. 7. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

# インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org (英語)

## 成人

「神殿を選ぼう」(18 ページ) は、神殿の祝福を受けているインドの末日聖徒に関する記事です。この記事に関するそのほかの写真を見るには [www.liahona.lds.org](http://www.liahona.lds.org) にアクセスしてください。



## ヤングアダルト

「フリーダへ」(42 ページ) では、スカンジナビアのヤングアダルトたちが、ボーイフレンドと暮らすことを考えている若い女性へあてた手紙を紹介しています。このトピックについてさらに学ぶには、[www.gospeltopics.lds.org](http://www.gospeltopics.lds.org) (英語) にアクセスし「Chastity」(純潔) をクリックしてください。

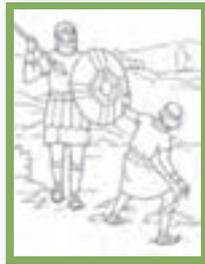


## 青少年



「そこが知りたい」(46 ページ) を愛読している皆さんへ、もっと多くの質問と答え(英語) を見ることができます。[www.newera.lds.org](http://www.newera.lds.org) にアクセスし、「Got a Question?」(疑問がありますか?) をクリックしてください。

## 子ども



[www.liahona.lds.org](http://www.liahona.lds.org) では、かいたくしゃのぬり絵をいんさつできます。

72 ページのダビデとゴリアテのえにいろをぬりましょう。それから、ダビデとゴリアテのせいぶんからのものがたり(えいご)をよみましょう([www.friend.lds.org](http://www.friend.lds.org))。

## あなたの言語で

[www.languages.lds.org](http://www.languages.lds.org) で、「リアホナ」やその他の教会の資料を多くの言語で入手できます。





大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

# 忠実な友

## 救

い主から頂ける偉大な賛辞の一つは、「友」と呼ばれることです。救い主が天の御父のすべての子供たちを完全な愛をもって愛しておられることをわたしたちは知っています。けれども主がこの特別な称号を用いられるのは、主とともに忠実に仕えてきた人だけです。教義と聖約第 84 章の言葉を覚えているでしょう。「さらにまた、わたしは、友であるあなたがたに言う。今から後、わたしはあなたがたを友と呼ぶ。わたしがあなたがたにこの戒めを与えることは必要である。すなわち、あなたがたは、わたしがともにいて、わたしの力をもって福音を宣べ伝えるために旅をした時代のわたしの友のようになりなさい。」(教義と聖約 84:77)

わたしたちは主に代わって人に仕えることにより、主の友になります。主はわたしたちがなるべき友の完璧な模範です。主が望まれるのは、天の御父の子供たちにとって最善のことだけです。御父の子供たちの幸福が主の幸福なのです。主は彼らの悲しみを御自身の悲しみのように感



**完璧な友である  
イエス・キリストは、  
完全に無私の心で  
人に幸福を  
お与えになります。  
わたしたちは  
主に代わって  
人に仕えることによって、  
主の友になります。**

じられます。なぜなら、主は彼らの一切の罪の代価を支払い、あらゆる弱さを受け、彼らのあらゆる苦しみに耐え、あらゆる切望を感じられたからです。主の動機は純粹です。主は認められることを少しも求めず、一切の栄光を天の御父に帰されます。完璧な友であるイエス・キリストは、完全

に無私の心で人に幸福をお与えになります。

バプテスマの聖約を交わしたわたしたち一人一人は、主の模範に従って、主がなされるように互いの重荷を負い合うと約束しました(モーサヤ 18:8 参照)。

これから 2、3 日中に、主の代わりにだれかの友になる機会がたくさんあることでしょう。それはほこりっぽい道を歩いているときかもしれません。列車の座席に座っているときかもしれません。教会の集会で座る場所を探しているときかもしれません。注意して見るなら、重荷を負っている人に気づくでしょう。それは、悲しみ、孤独、あるいは憤りという名の重荷かもしれません。心の中を見る目を頂けるように御霊を



求めて祈った後、そして垂れている手を上げると約束した後でなければ、見えないものかもしれません。

祈りの答えは、旧友の顔かもしれません。何年も会っていないくともその人の必要とするものが不意に思いと心に浮かび、まるで自分のことのように感じるのです。わたしはそのような経験をしたことがあります。場所も年月も越えて、旧友たちがわたしに援助の手を差し伸べ、励ましてくれたのです。そのときわたしの重荷について彼らに告げるのは神以外にはおできになりませんでした。

神の生ける預言者たちは、改宗して教会に入って来る人々の忠実な友となるように、そして流されてしまった人々の救助に向かうようにわたしたちに求めてきました。救い主をいつも覚えているならわたしたちにはそれができますし、そうするでしょう。わたしたちが援助の手、重荷を持ち上げる手を差し伸べるとき、主はともに手を伸べてくださいます。主は助けの必要な人のもとに導いてく

ださいます。主はわたしたちを祝福し、彼らと同じように感じさせてくださいます。仕える努力を続けるなら、彼らに対する主の愛を感じるという賜物をさらに少しずつ与えられるでしょう。そうすることで、何度も何度も忠実に手を差し伸べる勇気と強さを得ていくのです。

そして、この世においても永遠にわたっても、主の忠実な友である人々の仲間を迎えられるという喜びを感じることでしょう。わたしたち皆と、わたしたちが仕える人々がそのような祝福にあずかれるように祈ります。■

### このメッセージから教える

**聖**文や預言者の言葉を読む際、その中から何かを探すように言われると、家族はもっとよく参加するようです（『教師、その大いなる召し』55 参照）。この記事を読んで聞かせるときに、主の友と呼ばれるに足る者となるために助けとなる原則を見つけるように、家族に言いましょう。

『教師、その大いなる召し』にはこうあります。

「キリストのような愛を身に付けていれば、福音を教えるためにより良い備えができる。慈愛を身に付けた人は、ほかの人が救い主を知り、主に従うのを助けるように靈感を受けるからである。」（12 ページ）記事の中から、より良いホームティーチャーになるために助けとなる原則を見つけてください。それらについて同僚と話し合い、仕える人々にとっての「忠実な友」となる方法について祈りの気持ちで考えてください。

## こども



イエスさまは  
わたしたちにとつて  
もっともよいことを  
のぞまれます。



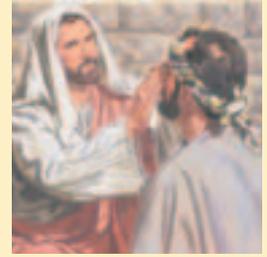
イエスさまは  
わたしたちが  
しあわせなときに  
しあわせです。

### イエス・キリスト、 わたしたちの かんぺきな 友

**ア**イリングかんちょうは イエスさまは わたしたちの かんぺきな 友であられると言いました。イエスさまは このような ほうほうで かんぜんな ゆうじょうを しめされます。

イエスさまは  
わたしたちが かなしみ、  
きずつくときに  
かなしめます。

イエスさまは  
わたしたちが  
天のお父さまのもとへ  
帰れるように、  
わたしたちの つみを  
せおってくださいました。



### イエスさまのかわりに 友になる

イエスさまのかわりに だれかの 友になれば わたしたちは イエスさまの 友に なれますと、アイリングかんちょうは言いました。右の 絵は 友になるために できることを あらわしています。つぎの文が どの絵を あらわすか、A, B, C, Dを かいてください。

- \_\_\_\_\_ わたしたちは かなしんでいる人を たすけることができます。
- \_\_\_\_\_ わたしたちは さびしがっている人の 友になれます。
- \_\_\_\_\_ わたしたちは 教会に もどって来るように だれかを さそうことができます。
- \_\_\_\_\_ わたしたちは いつも イエスさまを おほえていることができます。



## 青少年

### 新入り

マシュー・オカベ

**自**分だけ浮いているような気がして仕方ありませんでした。わたしたち家族は最近国をすっかり横断して引っ越したばかりです。転入したワードには大勢の青少年がいました。でも「新入り」になるのは、わたしにとって初めての経験でした。いちばん大変だったのは新しい学校へ行くことです。まず頭をよぎった思いは「昼食のときにだれと座ればいいんだ」ということです。教会員に出会うかもしれないけれど、第一、一緒に食べたいかどうか分からないのだから、だれかの席に割り込むようなことはしたくありませんでした。

学校の初日はとても長く感じました。とうとう昼食時間のベルが鳴りました。ゆっくりと食堂に入りながら、天のお父様に、だれか知っている人を見つけられるようにお祈りしました。知っている顔がないかと思回しました。だれもいません。わたし

は食堂のいちばん隅のテーブルに行って昼食を食べました。

その日の午後、数学の授業中に見覚えのある顔を見ました。その日の朝セミナーで会ったデビッドです。デビッドはわたしの時間割を見せてくれと言い、昼食時間が二人とも同じだということが分かりました。「ねえ、今日の昼食のとき、どこにいたの？」デビッドが聞きました。

「食堂のいちばん隅で食べたよ。」わたしはそう答えました。「じゃあ、明日は一緒に食べようよ。」デビッドが言いました。わたしは愛にあふれる天のお父様に感謝しています。お父様は、わたしたち一人一人の必要を御存じで、一人一人の祈りにこたえてくださいます。またわたしは、進んで友情の手を差し伸べてくれる人たちにも感謝しています。「誘う」という簡単なことが、すべてを変えてしまうのです。



## 家族と家庭を強める

この資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。  
質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、  
あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

聖文から——創世 18:19; モーサヤ 4:15;  
教義と聖約 93:40; モーセ 6:55 - 58

### あらゆる機会に強める

「家族の状況はそれぞれ異なっています。父親、母親と子供たちがいる家族もあれば、家にはもう子供がいない家族もあります。独身の教会員も多くいますし、独りで子供を育てている人たちもいます。伴侶に先立たれ、独り暮らしの人もあります。

家族の形態がどうであれ、わたしたちは皆、自分の家族を強め、ほかの人たちの家族を強める助けができます。

〔あるとき〕めいの家族の家に泊まりました。その夜、子供たちが寝る前に、短い家庭の夕べと聖文のお話がありました。リーハイの家族について、そしてリーハイが子供たちに、神の御言葉である鉄の棒にしっかりとつかまっていなければならないと教えたことについて、父親が話しました。鉄の棒につかまることで、安全で、喜びと幸福に導かれます。でも鉄の棒を手から離せば、汚い川でおぼれる危険がありました。

これを子供たちに説明するために、母親は『鉄の棒』になって子供たちをつかまらせ、悪魔役の父親は子供たちを安全と幸福から引き離そうとしました。子供たちはこの話をとても気に入り、鉄の棒につかまることの大切さを学びました。聖文のお話の後、家族の祈りの時間でした。……

聖文と家庭の夕べと家族の祈りは家族を強めます。あらゆる機会をとらえて家族を強め、皆が正しい道にとどまれるよう互いに助け合う必要があります。』<sup>1</sup>

中央扶助協会会長会第二顧問 バーバラ・トンプソン

### 何ができるでしょうか？

1. 家族と家庭を強めるどのようなアイデアを、訪問先の姉妹に分かち合いますか。一人一人の状況をよく考えるなら、御霊がアイデアを浮かばせてくれます。

2. あなた自身の家族と家庭をさらに強めるために、今月どのように優先順位を変えることができますか。

詳しくは  
[www.reliefsociety.lds.org](http://www.reliefsociety.lds.org) [英語]をご覧ください。

### わたしたちの歴史から

扶助協会には設立当初から家族と家庭を強めるという責任がありました。預言者ジョセフ・スミスは初期の扶助協会の集会で姉妹たちに次のように教えました。「家庭にあつて、夫に不機嫌な言葉や思いやりのない言葉を浴びせてはなりません。これからは、優しさと慈愛と愛で皆さんの行いを飾るようにしてください。』<sup>2</sup>

1914年にジョセフ・F・スミス大管長は扶助協会の姉妹たちにこう語りました。「家族……に関して無知であったり、理解が不足している人がいれば、そのような人のためにこの組織が存在します。いつでも手の届くところにあつて、この組織が元来授かっている賜物と霊感によって、これらの大切な義務を教える準備をいつでも整えています。』<sup>3</sup>



フォートマイストレーション/ロバート・ケイン

### 注

1. バーバラ・トンプソン「主の手近し」『リアホナ』2009年5月号, 84
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』482
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』185

# 小さな、簡単なこと

「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。」  
(アルマ 37:6)

## 神殿 スポットライト

### デンマーク・コペンハーゲン神殿

デンマークのコペンハーゲン中心部に1931年に建設された赤れんが造りのこの美しい建物は、当初、パイオーバイの礼拝堂として奉獻されました。その後、2004年5月23日に教会の118番目の神殿として奉獻され、「古い殻に包まれた新しい神殿」と称されています。<sup>1</sup>

木製の扉の左右に見事な支柱を置いた正面部分など、建物の外観は当初のまま保存され、修復されてきました。一方、内部は大幅に改築されています。壁画や絵画に描かれた地元の様々な景色は、この神殿の独自性を示しています。建物の両側面には工芸ガラ



この集会所は会員たちによって建てられ、1931年に奉獻された。第二次世界大戦中は防空ごうとして使用された。建物は改修されて、118番目の神殿となった(下)。

ス製の高い窓がそれぞれ5つ設けられています。また、銅製の屋根と銅ばりの丸天井が独特です。

神殿の奉獻に当たってヒンクレー大管長は、天の御父は「ここで奉仕するすべての人の心に触れて、『人の不死不滅と永遠の命をもたらす』(モーセ1:39)という天の御父の聖なる目的と栄えある業を理解させてくださる」ようにと祈りました。<sup>2</sup> ■

#### 注

1. "2004: Year in Review," *Church News*, 2004年12月15日付, 13 参照
2. "Dedicatory Prayer," [ldschurchtemples.com/copenhagen](http://ldschurchtemples.com/copenhagen) 参照



### 日曜学校のレッスンからもっと学ぶ方法

- 週日の間、聖文を読み、生徒用学習ガイドや手引きに目を通しておきます。各課の末尾にある質問を読んで、それらの質問が自分の生活にどのように当てはまるかを考えましょう。
- 出席するクラスで毎回何か新しいことを学ぶことを目標にしましょう。御霊や教師、ほかの生徒から新たな理解が得られることでしょう。
- よく理解できるように祈りましょう。
- よく準備をしてレッスンに臨み、自分の意見や証を積極的に分かち合いましょう。



## インド

**18**49年、モルモン<sup>の</sup>二人の船乗りがインドを目指して出帆しました。到着した二人はカルカッタで個人的に福音を宣べ伝え始めました。正式な伝道活動が始まったのは、ジョセフ・リチャーズが同国に到着した1851年のことでした。彼はインド初の会員となる人々にバプテスマを施し、支部を組織しました。翌1852年には、会員数は189人になっていました。間もなく会員たちは、アジアで最初の教会堂となる小さな礼拝堂を建てました。

それから1世紀以上にわたって伝道活動は悪戦苦闘を強いられました。しかし、教会が人々に認知されるよう、また、会員たちが強められるように、1978年、夫婦宣教師が教会の代表者として働き始めました。

それ以降、モルモン書はインドの主

要な20言語のうち5言語、すなわちヒンディ語、タミール語、テルグ語、ウルドゥー語に翻訳され、抜粋がベンガル語に翻訳されました。1993年には、インド・バンガロール伝道部が創設されました。2007年になると、インド北部と周辺の数か国を管轄するインド・ニューデリー伝道部が組織されました。

教会は、インドの50を超える人道支援団体と共同で活動を展開してきたことにより、現在では国内全域で認知されています。

インドの教会	
会員数	8,200
伝道部数	2
地方部数	6
支部数	30



1853年にインドのカルカッタに到着した末日聖徒の宣教師を歓迎するヘンリー・マキューン。彼は当時12歳の改宗者であった。

下——バンガロール第2支部のギデオン・ブラブハダスとハンセン・ブラブハダス。  
右——ハイデラバード第4支部の神権者集会。



# 主はどのような傷も 癒すことがおできになる

シルビア・エルボラト・クリステンセン

**そ**れは8回目の結婚記念日に当たる1991年12月16日のことでした。その日、ベビーシッターの取った行動がもとで、わたしたちの長男が亡くなりました。まだ生後2か月半でした。

それから何年にもわたって、悲しみや怒り、失意と絶望の日が続きました。のしかかってくる不安は言いようのないものでした。人がどんなことを言ってくれても、どんなことをしてくれてもわたしの苦悩を和らげてはくれませんでした。

多くの本や聖文を読みましたが、いずれも答えを求めて叫ぶわたしの心を満たしてはくれませんでした。

わたしは、当時十二使徒定員会の会員であり、わたしの両親と親しかったジェームズ・E・ファウスト長老（1920 - 2007年）に相談するという貴重な機会を得ました。（ファウスト長老はブラジルで伝道中にわたしの母のフラビアとその家族に出会っていたのです。）ファウスト長老ならきっとわたしを慰めてくれるだろうと思っていました。

わたしが山ほどの質問をしている間、ファウスト長老はじっと耳を傾けていました。わたしの経験が痛ましく、この上なくつらいものであることを理解してくれました。ファウスト長老は幾つかの聖句を分かち合い、そして、わたしが息子と再び結ばれるためには悲しみを乗り越えて、主の御心に完全に従う必要があると言いました。「シルビア、これはあなた自身の問題です。息子さんのことを心配しているようですが、ほんとうに気にしなければならないのはあなた自身のことであり、あなたがどのように生活を立て直すかなのです。簡単なことではないでしょうが、イエス・キリストの贖いを通してあなたは自分の心を癒すことができます。」

それからファウスト長老は、わたしたちの人生においてイエス・キリストが果たされる大切

な役割を理解し、必要とする強さを主から得られるよう祝福してくれました。

ファウスト長老のもとを去るときも、心は沈んだままでした。ファウスト長老の助言は分かりやすいものでしたが、とても実現できるとは思えませんでした。母はわたしにどんな言葉をかけても効果がなかったため、落胆していました。母の言葉を思い出します。「救い主に信仰と希望を託して、時間をかけて傷を癒すのよ。」

喜びを取り戻す心の旅の途中、わたしは受けた助言を真摯に受け止め、救い主にほんとうに信仰を寄せるとはどういうことかを知ろうと決意しました。すぐには何も変わりませんでした。けれども、一日一日、一年一年と過ぎていくうちに、祈りと、強まっていく証により、救い主が傷を癒すことがおできになるとはつきり分かったのです。

わたしのように使徒と会う機会がだれにもあるわけではありません。けれども、救い主を知って、重荷を主にゆだねる機会はだれにも必ずあります。そうです。生活の中にイエス・キリストをお招きすることによってどのような痛みも和らげることができるのです。

わたしは生活の中に主をお招きすることによって、人生に喜びがもたらされることを知っています。主はわたしたちの友であり、教師であり、最後まで堪え忍ぶことの模範を示された御方です。主はまことにすべてのことを堪え忍び、わたしたちの苦しみを御存じです（アルマ7:11-12参照）。主の贖いは、来世への備えとして、壊れたものをこの世で元に戻すという奇跡を起こしてくださいませ。

わたしはファウスト長老と母の言葉にいつまでも感謝することでしょう。どのような苦難を受けても、イエス・キリストはわたしを絶えず支え、希望を与えてくださる御方であることが二人のおかげで分かりました。■



わたしは  
受けた助言を  
真摯に受け止め、  
救い主に  
ほんとうに  
信仰を寄せるとは  
どういうことかを  
知ろうと  
決意しました。

# 召しによって祝福を受ける

ジュディス・カスティーリョ・マルテロ

「**主**はあなたを初等協会の会長として働くよう召されました。」わたしは支部会長からそう告げられました。ローレルのクラスを終えてまだ1年、バプテスマを受けてから2年しかたっていないわたしは、その言葉が信じられませんでした。

「わたしには子供たちを教えられだけの忍耐力がありません」と答えました。

「この召しが神から来ていることを信じますか」と支部会長が尋ねました。「主から召される人は、主によって適格な者とされます。」<sup>1</sup>

支部会長の言葉が自信を与えてくれました。その瞬間に、主がわたしを初等協会が必要としておられるに違いないことが分かりました。どのようにして新しい召しを果たしたらよいのか分かりませんでした。主が導いてくださると確信しました。

最善を尽くして働きたいと願っていましたが、それから数か月後に母が癌であることが宣告されました。さらに、わたしはシステム工学を勉強していましたが、家庭、大学、そして初等協会の責任をすべて果たすことが難しくなってきました。次第に熱意が薄れ始めました。そして、ある日曜日に教会にいたとき、様々な思いからいたたまれなくなって、涙があふれてきました。

ワードのある会員がわたしに気づいて、このようなすばらしい助言をくれました。「ジュディス、試練を乗り越えるいちばんの方法は、福音にすべてをゆだねて、人々に奉仕することだよ。そうすれば、主が重荷を軽くして下さることが分かるよ。」

彼の助言に従ううちに、わたしの態度が変わり、信仰が強まり、主に仕える決意が満ちあふれてきました。困難な状況に変わりはありませんでした。召しを全力で果たしました。そして、毎週日曜日に子供たちと会うのが楽しみになりました。子供たちが自分の証を、行いを通して示すのを目にして、わたしは毎週

子供たちから何かを教わりました。数か月後、わたしは主がわたしの人格を形成してくださり、自分では気づかなかった賜物と才能が高められたことに気づきました。

翌年、わたしはコロンビアのバランキジャを離れました。ボゴタで化学療法を受ける母に1か月間付き添うためでした。その間、わたしは度々祈り、主を近くに感じました。わたしは大学の専攻を変えることを決意しました。主が、子供たちを教えることに生涯をささげるよう望んでおられることを靈感によって理解したからです。大学へ戻ると、特殊教育の単位を取るために勉強し始めました。

天の御父はわたしを備えさせるために初等協会の召しを下されたのです。召しを果たしている間に、自分の天職が分かりました。福音に添って生活し、奉仕に全力を傾けているとき、自分が主の腕の中にあるのを感じました。

初等協会の会長会で、また後にステーキの初等協会会長会で働いたときに得た証により、わたしは教会員として支えられています。わたしは、愛によって教え、子供の目を通して世界を眺め、主に導きと靈感を求める方法を学びました。

毎日、2か国語を使う市内の学校で教えながら、これまで努力してきたこと、遭遇した問題、受けた祝福に思いをはせています。かつての初等協会の子供たちは今や10代の青少年となっていますが、彼らの目は今でも救い主と福音に対する愛で輝いています。

わたしは知っています。わたしたちを召すときに主は、わたしたちを教え、訓練し、指導者を与えてくださり、この美しいイエス・キリストの福音に添って生活できるよう助けてくださるのです。■

注

1. トーマス・S・モンソン「召しの義務」『聖徒の道』1996年7月号、52参照



## 成長する機会

「あらゆる召しは奉仕し成長する機会となります。主は一人一人に奉仕の機会を提供するために、また、それがひいては個人の成長となるように教会を組織されました。どのような召しであれ、ほかの人々を強め、祝福する機会として、またそれだけでなく、天の御父が望んでおられる資質を身に付ける機会としてとらえるよう皆さんに勧めます。」

大管長会第二顧問  
ディーター・F・  
ウークトドルフ管長  
「自分の立っている場所で  
持ち上げる」  
『リアホナ』2008年11月号、  
56

# 福音に ふるさとを見いだす

ロゼル・ハストウェル・ハンセン

**わ**たしはオーストラリアの  
パースで育ちましたが、  
宗教に関してはどっちつ  
かずでした。メソジスト派の洗礼を  
受け、その宗派の学校に通い、時には  
祖母と一緒にバプテスト派の教会に  
行くという状態だったのです。わたし  
は教派間を漂っていましたが、祖母  
が信仰を分かち合い、聖書を読むこと  
を教えてくださいのおかげで、祈ることは  
自然なことのように感じていました。  
祖母が絶え間なく影響を与えてくれた  
ことに感謝しています。祖母のおかげ  
で、わたしはこの世の営みの中でイ  
エス・キリストを信じる信仰を理屈抜  
きに築き始めていたのです。振り返  
って考えると、回復された福音を受  
け入れることができるよう、天のお父  
様がわたしの心を備えてくださって  
いたのだと実感することができます。

そんな準備の一つとも思える出来  
事があったのは、フランス旅行中に自  
動車事故を起こしたときのことです。  
シートベルトを締めるようにという  
強い促しを受けた直後に、わたしの  
車は横滑りを始め、20フィート  
(6メートル)の堤防を一直線に落ち  
てしまったのです。警告の声があっ  
たことや、自分の両足がまた使えるよ  
うになったといったことから(同じよ  
うな負傷をした人には一生障がい  
の残る場合が多いのです)、神の力とい  
うものは、自分でコントロールできる

ことよりもはるかに偉大であることが  
分かり始めました。

2年後に、今度は交換留学生として  
再度フランスに行きました。そのとき、  
ケーラ・パースというカリフォルニア州  
出身の留学生が、大胆にも一緒に教会  
に行こうと誘ってくれたのです。ケー  
ラの福音に対する限りない熱意を知り、  
わたしは感動しました。彼女が救いの  
計画を話してくれる度に、その一言一  
言に聞き入りました。まるで以前聞  
いたことがあるような、懐かしい響き  
を持つ話だったのです。

初めてアングレームの礼拝堂に入  
ったとき、まるで温かい毛布にくる  
まれるような思いがしました。わたし  
は「ふるさと」に戻って来たのです。  
その同じ日、福音の基礎クラスで教  
えてくれた宣教師は、最初の示現につ  
いて実に力強い証あかしをしました。聖霊  
がどのように証されるか説明してく  
れていたときに、わたしの心から温か  
いものがわき出て、体全体を包み込  
んだのです。この力強い証は心に忘れ  
られない感動を与え、以後、信仰が試  
されるような試練に遭ったときにわた  
しを支えてくれています。

アングレームの礼拝堂に最初に足を  
踏み入れてから1か月ほどたったころ、  
バプテストを受け入れる決心をしました。  
もう18歳で、親の許可を得る必要は  
ありません。ところが、このうれしい  
ニュースをオーストラリアにいる家族

にも伝えようと電話をしたところ、家  
族が教会について好意を持っておら  
ず、バプテストを受けたいというわた  
しの望みにも反対だということが分  
かり、ショックを受け、落胆しました。

そんな家族の態度はわたしの胸に重  
くのしかかりました。心から愛する家  
族の意向に反してもこのまま進むべ  
きでしょうか。それともオーストラ  
リアに戻るまで、バプテストを延期  
するべきなのでしょうか。でも、戻  
れば戻ったで、もっと反対されるか  
もしれません。

そんなときマタイによる福音書第  
19章29節を読んで決意が固まりま  
した。「おおよそ、わたしの名のため  
に、家、兄弟、姉妹、父、母、子、も  
しくは畑を捨てた者は、その幾倍も  
を受け、また永遠の生命を受けつぐ  
であらう。」わたしはたとえ家族を置  
いてでも、喜んで救い主を第一にし  
るのでしょうか。答えは「そうしよ  
う」でした。こうしてわたしは1989  
年12月16日にバプテストを受け、  
末日聖徒イエス・キリスト教会の会  
員として確認を受けたのです。フラン  
スでの残りの時間は、かつて味わ  
ったことがないほど、実に平安で満  
たされたものになりました。

パースに戻ると、家族は喜んで迎  
えてくれました。でもわたしが福音  
を分かち合おうとすると、かたくな  
に反対しました。そのうえ宗教の「  
専門家」なる人物に会わせてわたし  
を「啓発」

し、選んだ道が「誤っている」ことに気づかせようと思いました。わたしの信仰にとっては大きな試練でした。こうして反モルモンの主張をまくし立てられた結果、自分の決断は間違っていたのかもしれないと思うようになったのです。

でも、心の奥では、フランスでの経験は神からもたらされたものだとすることを否定できませんでした。そこで、力を得るために主の御霊を求めすることにしました。何週にもわたって日曜日ごとに断食し祈りました。聖文に没頭することもありました。導きと強さを求めて神権の祝福を受けました。毎週教会に通い、聖徒たちと交わりました。理解できないことや知らないことにこだわるのではなく、自分が確かに知っていることに集中するようにしました。わたしは神の子です、イエスはキリストです、ジョセフ・スミスは主の教会を回復しました、モルモン書と聖書は神の言葉です、家族は永遠です、と。こういう新しい見方ができたおかげで、証が再び深まり、強くなり始めたのです。

その年にわたしが直面した最後の問題は、家族が参入できない神殿で結婚するということでした。フランスで出会い、文通していた一人の青年がカリフォルニア州から会いに来て、3週間滞在しました。わたしたちは二人とも、結婚したいとはっきり感じました。でもまた新たな困難に直面することになりました。この世と永遠にわたって結び固められるために神殿で結婚するのか、それとも家族が式に出席できるほかの場所ですのかという問題です。

わたしはステーキ会長の勧告に従い、1991年2月に神殿で結婚しました。そのとき家族

はひどくがっかりしましたが、今では、教会の存在はわたしの人生にとって祝福なのだということを知ることができるようになりました。子供たちが福音の中で成長するのを見るにつけ、わたしたちが親として教えている事柄や、子供たちが理想に向かって成長している姿を見て感謝を表すようになったのです。

最近子供の一人から、わたしが福音を受け入れたことと、子供たちを主に近づけようとして育てたことを感謝されました。娘の真剣なまなざしを見て、わたしは心を動かされ、涙が流れました。それは、福音に従って生きるという決意がわたしの人生だけでなく、娘の人生をも祝福してきたことが分かったからです。イエス・キリストの福音というふるさとへ導いてくれた地上の天使たちの奇跡と彼らの影響について、わたしは天のお父様に永遠に感謝し続けます。20年が過ぎ、すべての試練、心痛、家族の怒りを買う危険性などは無駄ではなかったと分かります。わたしにとって福音はすべてです。福音は真実です。福音はわたしのふるさとです。■

初めてアングレームの  
礼拝堂に入ったとき、  
まるで温かい毛布に  
くるまれるような  
思いがしました。  
わたしは「ふるさと」に  
戻って来たのです。



# 性的な清さが 人生にもたらす祝福

**純**潔とは、思いにも言葉にも行動にも、道徳的に汚れないことを意味します。この性的な清さは「神にとって喜ばしいこと」<sup>1</sup>です。天の御父は、子供を世にもたらし、男女間の結婚生活で愛情を表現するために、生殖という神聖な力をわたしたちに与えてくださいました。同時に、結婚外での肉体的な愛情表現が招く危険を避けるために、純潔の律法もお与えになりました。

天の御父は、純潔を守らせるために明確な境界線をお定めになりました。結婚前にはいかなる性的な関係も持つてはならないと命じておられます。そして一度結婚したら、わたしたちは伴侶に完全に忠誠を尽くさなければならないと命じられています。<sup>2</sup> もし純潔の律法を破れば、重大な罪を犯すこととなります。<sup>3</sup> 預言者アルマは、性的な罪は殺人を犯すことや聖霊を否定することを除いて、どのような罪よりも重大であると教えました。<sup>4</sup>

サタンは純潔や結婚の神聖さをあざ笑い、結婚外の性的な愛情表現は男女が愛し合っていさえすれば容認できることだと

信じ込ませようとしします。これは誤った考えです。生命を生み出すために神が賜った力を汚すことは、重大な罪なのです。<sup>5</sup>

わたしたちの天の御父は、人は皆純潔の律法に従って生きなければならないとお命じになりました。この戒めに従うことによる祝福と、それを破ることによる結果は、衝動や望み、性的な誘惑の軽重にかかわらず、だれにとっても同じです。

性的な罪を犯した場合であっても、ほんとうに悔い改めれば、主は赦してくださいます。<sup>6</sup> 赦しのもたらす平安が、罪を犯してしまったという絶望感に取って代わることができるのです。<sup>7</sup>

性的に汚れない状態を保っていると、聖霊の導きに対して感覚が研ぎ澄まされていき、力や慰めや守りを受けます。<sup>8</sup>



1. 皆さんは今、純潔を守ると決意して、決して揺るがずにいることができます。後で悔い改めればいからと考えて性的な罪を犯してもかまわないと思っている人もいるかもしれませんが、しかし、そうした考え方は主の戒めを敬っておらず、悔い改めと義について理解が欠けているとしか言いようがありません。<sup>9</sup>

「**あ**なたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。

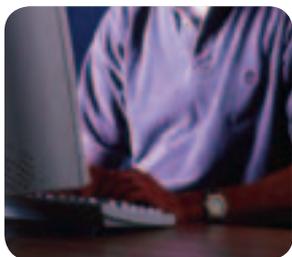
あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。」(1コリント 6:19-20)



2. 慎み深い服装や身だしなみをすることによって、自分の体が神の神聖な被造物であると認めていることを、神に示すこととなります。慎み深さは純潔を擁護します。<sup>10</sup>



3. ポルノグラフィーは常習になりやすく破壊的です。自尊心や自制心を失わせ、多くの場合、もっと深刻な性的な罪を犯させる恐れがあります。<sup>11</sup>



4. 同性に心を引かれることも含み、自分が性的な誘惑と闘っていると分かったら、そうした誘惑に抵抗する道を選択することができます。「それに耐えられるよう」、主が「のがれる道も備えて下さる」からです。<sup>12</sup>



5. 万一性的な罪を犯した場合、皆さんのビショップが支部会長のところへ行って相談してください。悔い改めの過程を歩めるよう、助けてくれるはずで。<sup>13</sup>



6. 強姦、近親相姦、虐待あるいは性犯罪の犠牲になった場合、皆さんにその罪の責任はありません。精神的な癒しの過程を歩めるよう、ビショップや支部会長は助けることができます。<sup>14</sup>



7. 独身でデートする場合、相手に敬意をもって接してください。建設的な活動を計画し、性的な思いを刺激するような会話や活動は避けてください。



8. 既婚者なら、思いにも言葉にも行いにも伴侶に誠実であってください。<sup>15</sup> 伴侶以外の人とふざけ合うのは適切とは言えません。誘惑に駆られそうな状況とは距離を置いてください。<sup>16</sup> ■

「わたしたちは宣言します。  
すなわち、増えよ、地に満ちよ、という  
神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。  
またわたしたちは宣言します。  
生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した  
夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。」<sup>17</sup>

#### 注

1. モルモン書ヤコブ 2:7
2. 教義と聖約 42:22 参照
3. 出エジプト 20:14; 1 テサロニケ 4:3 参照
4. アルマ 39:5 参照
5. 1 コリント 7:2-5 参照
6. イザヤ 1:18 参照
7. 教義と聖約 58:42-43 参照
8. 詳しくは『若人の強さのために』26-28; 『福音の原則』225-231; 『真理を守る』『純潔』97-102 を参照してください。
9. アルマ 42:30 参照
10. 『真理を守る』『慎み深さ』148-150 参照
11. アルマ 39:9; 3 ニーフエイ 12:28-30; 教義と聖約 42:23; 121:45 参照
12. 1 コリント 10:13。創世 39:1-12 も参照
13. 『歴代大管長の教え——スベンサー・W・キンボール』37-39, 40-42, 43-45 参照; モーサヤ 26:29 参照
14. 『真理を守る』『虐待』50-51 参照
15. エベソ 5:28; 教義と聖約 42:22-23 参照
16. 1 テサロニケ 5:22 参照
17. 『家族——世界への宣言』『リアホナ』2004年10月号, 49

# 開拓者は何をもたらしたのか



スティーブン・L・リチャーズ管長は1879年6月18日にユタ州メンドンで誕生しました。使徒に召されたのは1917年、大管長会第一顧問に召されたのは1951年のことです。以下の記事は1947年4月の総大会で行った説教の抜粋です。この年は開拓者がソルトレーク盆地に到着してちょうど100年目に当たる年でした。

大管長会第一顧問  
スティーブン・L・リチャーズ管長（1879 - 1959年）

**開**拓者とその業績について理解しようとするとき、わたしたちは何が彼らをそのように動かしたのか、詳しく見る必要があります。……彼らは、ほかの人々同様、自由と平和を求めてやって来ました。ほかの人々同様、自分たちのために家庭を作るつもりでやって来ました。ほかの人々同様、良心に従って心行くまで神を礼拝し、宗教の教えを实践するためにやって来ました。しかしわたしが知るかぎりほかの開拓者の移住にはない、ある一つ

の目的がありました。一つの社会を建設するという公然たる目的をもってやって来たのです。そのような社会を築くことにより、自分たちをそこまで導いた生活と行動の原則、靈感と団結と成功と幸福の源となった原則を、かつて追われた文明の地へ、つまり自分たちを迫害した人々のもとへ、携えて行けると考えたのです。……

では、開拓者がもたらしたものは何でしょうか。彼らは、まれに見る勤勉さをもたらしました。また、労働こそ成功と幸

福の基盤であるという良いおとずれを教え、実践しました。

……

彼らは教育をもたらし、芸術と美を愛する心をもたらししました。

……

彼らは忠誠心という高度な秩序や、信奉する大義に確固として献身する偉大な力をもたらししました。……

しかし開拓者がもたらした最も大いなるもの、それは、わたしが知恵——人生の大切なものに関する知恵——と呼んでいるものです。……

最初に、人の体について考えましょう。……開拓者は体に関して新しい考え方もたらしました。体に神聖な意味を込めたのです。開拓者はこう教えました。すなわち、体は神の文字どおりの子供である人間の霊を覆う幕屋であり、毒物や有害なものを取り込むことによって体を汚したり、<sup>ほうとく</sup>冒瀆したり、何らかの方法で粗末に扱ったりすれば、必ず神を、その中に宿られる神を侮辱することになると。……開拓者は健康の規則をもたらししました。……

次に、人の性格、あるいは人格について。……〔開拓者は〕こう教えました。すなわち、人は神の子であって、最も気高い血統を継ぐ者であるばかりか、もしそれに値する生き方をするならば、やがて天の御父と交わり、とこしえに神の永遠の業を推し進めていくことになる。……

次に、家族について。……家族に関して開拓者がもたらした知恵とは何でしょうか。開拓者は、家族というものの気高く崇高な属性を世界史上最も高く評価しました。彼らは教えました。すなわち、家族は地上で

**開拓者がもたらした  
ものの中で、  
最も偉大なものは  
知恵〔でした〕。**

幸せに暮らし向上するための基本単位であるだけでなく、日の栄えの至高の昇栄にあずかる望みを抱くまさに基盤であると。実際、わたしたちが求めている天とは、家庭を永遠の世に投影したものと考えてよいでしょう。このような家庭、家族の崇高な概念は、家族生活の崩壊のために生じた離婚、家族離散、関心も持たれずわがままになった子供たち（彼らは虐待よりも<sup>あわ</sup>憐れみを受けるべきなのです）といった、現代の家庭生活に見られる痛ましい悪とは、どれほど異なっていることでしょうか。……ああ、この<sup>けんそん</sup>謙遜な開拓者がもたらした知恵は、世の家族が応用したら、人類全体の慰めと幸福と進歩にどれほどの祝福となることでしょうか。

最後に、……兄弟愛について。開拓者は最も現実的な方法で教えました。すべての国家、血族、国語の民、民族が神の家族の一員なのであるという概念を。……彼らは信じていました。……世界に平和をもたらす唯一の本質的な希望は、

この兄弟愛の教義を世界中の人々に広めることの中にあると。……

……わたしが今述べたこのような知恵やそれ以外の知恵は、預言者ジョセフ・スミスを通じて回復された主イエス・キリストの福音の原則にすぎません。……開拓者が「もろもろの山のかしら」（イザヤ2:2）に主の宮を設立したのも、命と真理に関するこの並外れたメッセージを絶対的に信じていたからにほかなりません。一つの共同体を作り上げ、砂漠を、わたしたちが今享受しているような家庭や学校や施設のある市や町、村に作り変えたことは、実に偉大なことでした。しかし、はるかに偉大な業績だったのは、神の王国を設立し、シオンから全人類に向かって希望と信仰、そして神から託された永遠の知恵というメッセージを送り出したということです。これこそ、気高い開拓者がもたらし、わたしたちやわたしたちの友人に残してくれた、ほんとうの意味の遺産でした。……それは人生で最もかけがえのない賜物です。神の助けがあって、わたしたちがそれを大切に、広めていくことができますように。■

原文〔英語〕では句読点、つづり、大文字を現代の用法にしています。



# 神殿を選ぼう

教会機関誌  
リチャード・M・ロムニー

そのように助言する  
インドの末日聖徒はますます増加しています。  
彼らは主の宮へ行くことによって  
得られる祝福を知っているのです。

**彼**らの目を見れば皆さんもそのことに気づく  
でしょう。喜びと希望と信仰が見て取れ、  
「神殿についてどのように感じていますか」  
と尋ねただけで、楽観的なほほえみがこぼれます。

インドの末日聖徒にとって、神殿結婚がもたらす  
ものは、深い理解と、達成感と、永遠の約束を大切  
にしながらか聖約を永遠に守るという決意です。最も  
近い香港<sup>ホンコン</sup>神殿でも数千キロ離れていますが、それ  
でも、主の宮に参入する<sup>みなま</sup>会員の数は増え続けています。  
祈りと信仰と御霊に導かれることによって、彼らは  
神殿で結び固めを受けることを選んでいるのです。  
以下に数例を挙げましょう。

## 強さを見いだす

バンガロール第2支部のウィリアム・プラブダス  
は裁判所に勤務しています。彼は結婚が破綻する<sup>はたん</sup>  
のを見ることがどれほど痛ましいかを知っています。  
それが一つの理由となり、夫婦で神殿に強さを見い  
だしたいと切望したのです。

「ほとんどの夫婦と同じように、わたしたちにも解  
決すべき小さな問題があります」と彼は言います。  
「けれども、二人が永遠の観点を共有している分、  
解決しやすいです。」

妻のシーラは、神殿へ行ったことが、夫婦だけ  
でなく、子供たち（13歳のセレストと7歳のドリス）  
の助けにもなっていると語りました。「わたしたちは  
家族の結び固めを受けました」とシーラは言います。



「わたしたちは  
家族の結び固めを  
受けました。  
とても良い気持ち  
を感じました。  
外の世界のことを忘れ、  
まるで  
天国にいるようでした。  
わたしたちは  
いつもそのことについて  
話しています。」

セレスタ・ブラブダス



「とても良い気持ちを感じました。外の世界のことを忘れ、まるで天国にいるようでした。わたしたちはいつもそのことについて話しています。」

「妻と結び固められたのはすばらしい祝福でした」とブラブダス兄弟は言います。「それから、白いドレスをまとった娘たちが入って来ました。それを見て、清さについて思いました。生活と家庭における清さです。清さと神殿には密接な関係があります。わたしたちが清くあれば祝福を受けると、主は御自身の宮で約束されています。」

セレスタは神殿に行くために家族が2年間働き、計画し、貯金したときの思い出を語ってくれました。記憶に残っているのは、両親と一緒に神殿にいたこと、そして家族の結び固めにおじとおばといとこたちが参列してくれたことです。「結び固めが終わってから、皆で手をつなぎ、鏡を見

上——  
結び固めを  
受けるために  
中国香港神殿  
(左)へ旅した  
ブラブダス家族。  
香港神殿は  
インドから  
最も近い  
神殿である。

て、永遠について思い巡らしました」と彼女は当時を思い起こしながら言いました。「とてもすばらしかったです。永遠にこの家族の一員でいたいと強く感じました。」

## 二つの経験を、二人一緒に

ハイデラーバード第4支部のトーマス家の息子たちは、長年互いに良い模範となるよう努力してきました。二人は10代で同時に教会の会員になりました。一緒に母親を励まし続け、改宗に導きました。二人ともインド・バンガロール伝道部で伝道しました。父親が亡くなったときは一緒に母親を慰めました。そして、最近二人とも結婚しました。

レジーと妻のメチルダが神殿の結び固めを受け、レニーと妻のカーシがその模範に従い、近い将来結び固めを受けることにしています。

「教会に入ったときから、変化と向上を続けてきました。

救いの計画を学び、それに従ってきました」とレジーは言います。「しかし、ほんとうの目標は愛に満ちた天の御父のもとへ帰り、ともに住むことです。御父はわたしたちがみもとに戻って来ることを強く望んでおられ、わたしたちを罪と永遠の死から救うために御子イエス・キリストを救い主として備えてくださいました。イエス・キリストの福音がわたしたち家族を変えてくれたことに感謝しています。そのすべての頂点にあるのが神殿参入なのです。」

レジーの説明によると、メチルダとの結婚を互いの両親に承認してもらうに当たり、二人が違う地域の出身で異なる方言を話すことが問題になりました。「でも、神殿ではそんな違いは存在しません。このことはわたしたちに大切なことを思い起こさせてくれました。」レジーは、インドの未来は若者たちの肩に懸かっていると感じています。

「世の中を良くしていくのはわたしたちです」とレジーは言いながら、メチルダに目をやります。「わたしたちはそんなビジョンを共有しています。わたしたちは家庭の夕べを開き、家族の聖文研究と祈りをして、神殿に目を向け続ける必要があります。それがわたしたちの未来なのです。」

メチルダも同じ意見です。「彼にどうしてそんなに思いやりがあって優しいのか尋ねると、福音のおかげで、より善い人間になれるのだと言います。伝道中、彼は伝道部長が尊敬と愛をもって妻に接するのを目にしたそうです。そして神殿でも、同じ模範を見ることができます。そのような模範を、生活の中で周りの人たちや将来子供たちに示していけば、その影響によってインドの教会は強められると思います。」



レニーは求道者だったときに出席していたセミナーで将来の妻に出会ったときの話を話してくれました。「クリケットをしに行きたかったのですが、セ



「イエス・キリストの福音がわたしたち家族を変えてくれ[ました。]そのすべての頂点にあるのが神殿参入なのです。」

レジー・トーマス

上、左から——  
レジー・トーマス、  
メチルダ・トーマス、  
カーシ・トーマス、  
レニー・トーマス。  
下——  
毎週日曜学校を  
楽しみにしている  
レニーとカーシ。

ミナリーの教師が『神を第一にきなさい』と言っていたのを思い出してセミナーに出席することになりました。当時のわたしは内気だったのですが、クラスに行くと、後列の席に座りました。前列にいるカーシの姿がレニーの目に入りました。当時彼女は会員になってまだ6か月しかたっていませんでした。二人は友達になりましたが、デートを始めたのは彼が伝道を終えてからでした。カーシは、二人がついに結婚を決意し、互いの両親のところへ行って二人の選択が正しいものであると説得したときのことを覚えています。

「セミナーで父母を敬うべきだと学び、それを覚えていました」とカーシが言いました。

レニーが次のように付け加えました。「親は、わたしたちは先に教育を終えるべきだし、兄が結婚するまで待つべきだとも言いました。それで、わたしたちは働きながら待ちました。最高だったのは、わたしたちの卒業と同時に兄が結婚し、兄たちの結婚式

に出席したカーシの父親が大きな感銘を受けたことでした。彼らの模範を見て、わたしたちの結婚を許してくれたのです。そのようにして、わたしたちは両方の両親に敬意を示すことができたと同時に、結婚に向けてふさわしく備えることができたのです。」

レニーは、カーシと自分の経験は教会員同士の結婚に対する理解が広がりつつあることを示す良い例だと言います。「わたしが教会員になったころは教会員同士の結婚は珍しかったですし、神殿で結び固めを受けるのはさらに珍しいことでした。でも今では、わたしたちはどうすれば教会員同士で結婚できるか知っています。わたしたちは、神殿参入にふさわしく備えることを肝に銘じています。神殿がその鍵だからです。」

### 支部会長の模範

ハイデラーバード第4支部のベンカット・ダンナと妻のリンダ・ダンナのアパートに一歩足を踏み入れれば、この新婚夫婦がとても愛し合っていることを示すものをたくさん目にすることができます。壁には妻の

誕生日に夫が贈った手作りの旗がテーブルではられています。ソファの近くのテーブルには結婚写真を収めたアルバムが置かれています。話しながら、彼が彼女の肩に腕を回すと、彼女はほほえみます。その笑顔

て友好的ですが教会員ではありませんでした。また、新築中の家が完成するまで結婚式を出したくないという意向でした。「両親は結婚に反対ではありませんでしたが、数か月、場合によったら1年程度待つように望



「わたしたちは『主がきっと助けてくださる』  
と思ひ続け、  
主はそのとおりに  
助けてくださいました。」

ベンカット・ダンナ

に周りの皆もほほえまずにはいられません。

彼らは、教会の活動を通してどのように二人が出会ったか、また、リンダの母親が教会でベンカットを知っていたので二人の婚約をどれほど喜んだかについて話してくれました。しかし、問題が一つありました。ベンカットに未婚の兄がいたのです。インドでは今でも、年上のきょうだいから順番に結婚する伝統を重んじる人々があります。ベンカットの両親は教会に対し

んでいました」とベンカットは思い出します。

「助けてくれたのは御霊です。わたしたちは御霊のささやきを感じて皆に話しました。自分たちは二人とも働いているので費用は自分たちで賄うつもりであること、大切なのはできるだけ早く結婚すること、大切なのは神殿へ行ってスタートすることだと訴えたのです。わたしたちは『主がきっと助けてくださる』と思ひ続け、主はそのとおり助けてくださいました。」

上——  
ベンカット・ダンナと  
リンダ・ダンナは  
総勢7人で神殿へ  
行ったときのことを  
思っています。  
二人が夫婦の  
結び固めを受けた  
同じ日に、  
リンダは  
亡くなった父親との  
結び固めも  
受けました。

彼らの結婚を待っていたかのように完成した末日聖徒の集会所で結婚式と披露宴が行われ、その直後に二人は中国香港ホンコン神殿で結び固めを受けるために出発しました。「わたしたちは7人で神殿へ行ったんです」とリンダは言います。「ベンカットとわたしが結び固められた同じ日に、母と妹とわたしは亡くなった父との結び固めを受けることができました。どこをとっても、素晴らしい一日でした。」

「わたしたち二人は家族と友人と、  
御霊<sup>みたま</sup>の導きのおかげで一緒になれたのです。  
御霊がいつもわたしたちの結婚生活を  
導いてくれるように願っています。」

バラト・パウエル

現在支部会長を務めるベン  
カットは、いつかインドに神殿  
が建つ日が来るのが何よりの  
望みだと言います。「すばらし  
い祝福になるはずです。この  
地にシオンを建設するうえで  
大きな助けになるでしょう。」

### 導かれた結婚

チェンナイ第2支部のバラ  
ト・パウエルとイシュラ・パウ  
エル夫妻の話は、実はバラトの  
両親サシアドハス・パウエルと  
スリヤ・クマリまでさかのぼり  
ます。両親は1981年に結婚し、  
1991年に改宗しました。1993  
年、サシアドハスは支部  
会長に召されました。香港  
神殿が奉献される前、長年貯金  
し、備えた二人は、フィリピン  
・マニラ神殿へ旅し、結び固め  
を受けました。

家族が福音の中で成長し、  
成熟していく中、彼らは二人の  
息子に神殿参入の大切さを教  
えました。(末の息子は現在  
伝道中です。) 長男のバラトが  
婚約したときに、まず神殿結  
婚を計画したことを知ったパウ  
エル家族は感激しました。フィ  
アンセのイシュラは新会員で  
した。イシュラは「初めて宣  
教師と会ったその日から、福  
音が真実であることが分かり  
ましたし、福音が大好きにな  
りました」と

右——  
バラトと  
イシュラの話は、  
実は  
バラトの両親  
(次ページ)まで  
さかのぼります。  
「わたしたちは  
若い世代に  
神殿の重要性を  
教えています」と  
バラトの父  
サシアドハスは  
言います。



言います。彼女は、現在支部  
会長を務めるアイザック兄弟と  
その家族と親しくなりましたが、  
そのアイザック家族をかつ  
て教会に紹介したのがパウ  
エル家族だったのです。

彼女がバプテスマを受けたと  
き、バラトは伝道期間を4か月  
残すばかりになっていました。  
「アイザック家族はずっと、バラ  
トこそわたしにぴったりの人だ  
と言っていました、わたしは  
結婚を後回しにして自分自身も  
宣教師として奉仕したいと思っ  
ていました」とイシュラは言  
います。

宣教師志願書は支部会長と伝道  
部会長に承認されましたが、  
イシュラは次のように説明し  
ます。「突然、思いがけず、思  
いが完全に変わってしまいました。  
結婚のために祈りたいという気  
持ちになったのです。」

伝道から帰ったバラトは、何  
人かの人にイシュラが彼にぴ  
たりだと言われて驚きました。  
それから少しして、二人はアイ  
ザック支部会長の娘の結婚式  
で顔を合わせる機会がありま  
したが、ほとんど話せませんでした。  
インドでは男女交際に



ついて形式が重んじられるため、二人とも不適切な振る舞いを慎みたかったからです。

3週間後、イシュラはどうすればよいか分からず祈っていました。それはバラトも同じでした。「主は様々な方法でバラトこそ結婚すべき相手だと示してくださいました」とイシュラは言います。「でも、わたしはとても控えめな性格なので、『主よ、これが正しいのなら、どうしたら彼と話せるか道をお示ください』と祈りました。」

バラトは言います。「彼女について何人かの人に話してみましたが、返ってくるのは良いことばかりでした。急に『今すぐ彼女と話さなくては』という思いが浮かんできましたが、どうしたらよいか分かりませんでした。それで、アイザック会長のお姉さんに電話し、イシュラに電話してもよいものか尋ねたのです。」

イシュラは言います。「祈っていると、支部会長のお姉さんから電話があり、『バラトがあなたと話したがっているけど、電話番号を上げてもいいかしら』

と尋ねられました。」それから30分後、二人は話すことができました。バラトは「まるで何年も前からの知り合いのような気がしました」と言います。

イシュラはインスティテュートで神殿結婚について学び、神殿結婚以外考えられないと思っていました。バラトも同じです。しかし、そのためには神殿までの費用を貯金しなければなりませんし、経済的な理由からバラトの両親を含め、多くの友人や家族が同行できないということになります。

「神殿は遠いですし、旅費はとても高いのですが、二人が神殿に行くべきだという

点で皆の意見が一致しました」とサシアドハスは思い返します。「二人が出発する前に一緒に民事結婚式を祝い、結び固めの後にたくさん写真を撮ってくるように頼みました。そして戻ってからもう一度お祝いすることにしたのです。」

「わたしたちは若い世代に神殿の重要性を教えています」とサシアドハスは説明します。「皆に神殿に行くよう勧めていますし、自分の子供にも行ってほしかったのです。」特に、バラトとイシュラが両親を敬い、民族の慣習を尊重し、自らの選択の自由を行使したことをうれしく思うと言います。

「インドではよく『見合い結婚』と『恋愛結婚』という言葉聞きます」とバラトは言います。「わたしたちの場合は両方だと感じています。」ほんとうのことを言うと、バラトとイシュラは自分たちの結婚を「導かれた結婚」と呼びたいと思っています。「わたしたち二人は家族と友人と、御霊の導きのおかげで一緒になれたのです」とバラトは言います。「御霊がいつもわたしたちの結婚生活を導いてくれるように願っています。」■

#### 地元の文化と福音の文化



「福音は、普通の人を日の栄えの人に変えるためにあり、それゆえ、変わるように人に求めるのです。……

神のえり抜きの祝福を受けられるようになりたいと願うならば、これまで従ってきた言い伝えや文化、生活様式の幾つかを変えることが必ず求められます。……

末日聖徒イエス・キリスト教会のあらゆる会員は、ユニークな福音文化、つまり独特の価値観と標準、慣習を共有しています。福音に基づくこの生活習慣は、救いの計画、神の戒め、生ける預言者の教えが原点となっており、子供を育て、個人の生活を営む方法が明確に示されています。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老  
「悔い改め、変わる」『リアホナ』2003年11月号、37、38、39

下——1923年8月26日、ヒーバー・J・グラント大管長はアルバータ州カードストーン神殿を奉獻した。この神殿は、合衆国以外で最初に奉獻された。右——1915年、デビッド・O・マッケイ大管長が神殿の隅石を置くときに使った銀製のこて。



# 地を満たす



左——預言者ジョセフ・スミスの弟であるサムエル・H・スミスは、合衆国内で福音を宣べ伝えるように最初に遣わされた宣教師の一人だった。上——イングランドに遣わされた初期の宣教師たちは、スカンジナビア諸国や他のヨーロッパ諸国に遣わされた宣教師と同じように、福音を宣べ伝える業において大きな成功を収めた。

トーマス・S・モンソン大管長は、末日聖徒に、「教会が限られた範囲でしか影響力を及ぼすことのできない地域、現在のところ福音を自由に伝える許可が下りていない地域」の門戸が開かれるように、信仰を込めて祈り続けるよう呼びかけました（25ページの差し込み記事参照）。スペンサー・W・キンボール大管長（1895 – 1985年）は1974年に開かれた大会で、伝道活動を全世界に広めるために、そして「これまで失われていたように見える多くの国々の扉の鍵を見いだし、国々の門戸を開くことができるように」歩幅を広げ、さらに大きなビジョンを抱くように教会指導者に呼びかけました。モンソン大管長は、その記念すべき集会に出席していました。<sup>1</sup>

モンソン大管長は、わたしたちがこれからも信仰をもって祈りをささげるなら、数々の奇跡が起こると約束しています。大管長は経験から、それが真実であることを知っています。キンボール大管長の呼びかけの後、宣教師と改宗者のバプテスマの数が劇的に増加するのを目にしたのです。<sup>2</sup>モンソン大管長は、末日聖徒がキンボール大管長の呼びかけに従い、世界の国々の門戸が開かれ、福音が宣べ伝えられるように祈ったとき、それが多くの地域で成就するのを目にしました。モンソン大管長はドイツのフライベルク神殿の建設に当たり、大きな働きをしました。1989年のベルリンの

左——サムエル・H・スミスの銅像（D・J・ボーンマン）。右——「リパブリック」で乗船する聖徒たち（ケン・ハースター画）



左と上——イングランドのマルバーンにあるゴッドフィールド・エルム礼拝堂は、末日聖徒の最初の、最も古い礼拝堂である。1840年、ウィルフォード・ウッドラフ長老は、ここに集った「同胞教会」の会員600人を改宗に導いた。彼らは自分たちの使っていた礼拝堂を教会に寄付し、それがその地の伝道活動の拠点となった。後にこの礼拝堂は売却され、その地の会員がシオンに集合するための資金に当てられた。



「教会が  
限られた範囲でしか  
影響力を及ぼすことの  
できない地域、  
現在のところ  
福音を自由に伝える  
許可が下りていない  
地域のために、  
これからも  
信仰をもって祈りを  
ささげてください。  
そうするならば、  
奇跡が起こるに  
違いありません。」

トマス・S・モンソン大管長  
「大会へようこそ」  
『リアホナ』2009年11月号、  
5-6



1851年2月1日、イングランドのリバプールからアメリカへの出航の準備をするエレン・マリア号。当時、5万人以上の末日聖徒がイギリス諸島に住んでいた。移住が可能に

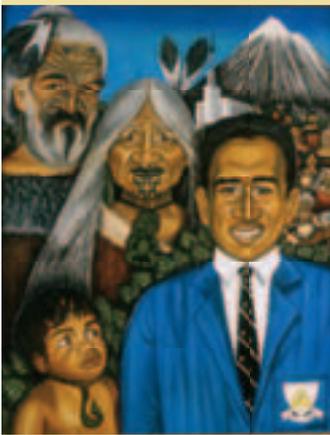
なったのは、永代移住基金のおかげだった。これは、困窮した末日聖徒に資金を貸し出す制度で、ほかの人々も移住できるように返金するという約束に基づいたものだった。この

基金のおかげで、何千人もの改宗者がアメリカの聖徒たちに加わった。



壁崩壊後、福音に対して多くの国々の門戸が開かれるのを目にしたのです。<sup>3</sup>

モンソン大管長をはじめ、福音の回復以降召されたすべての末日の預言者は、1842年3月に預言者ジョセフ・スミスが記した次の言葉が真実であることを知っています。「いかなる汚れた者の手も、この業の発展を止めることはできない。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊が集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれない。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国々に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、御業は成ったと告げられることだろう。」<sup>4</sup>



左—1882年に撮影された集会所の写真、教会歴史博物館の厚意により掲載。上—「約束」アル・ラウンス画。左下—「永遠に向けて今を築く」シルビア・ヒュージ・デ・サービル画、第4回国際美術コンテスト作品。下—「リーハイの夢」アラセリ・アンドレド作、第7回国際美術コンテスト作品。

19世紀に福音が根ざし始めた地域の中には、「海の島々」も多く含まれていた。

左端—1882年にはハワイのこの地に礼拝堂が立っていた。後にこの場所はハワイ州ライエ神殿の用地となり、1919年に神殿が完成した(左)。

左下—1854年、宣教師がニュージーランドに赴いた後、福音が開花した。

下—メキシコのチアパス州イサバに残された80の石碑の一つである石碑5号の複製。これは「命の木」の石として知られている。リーハイの夢を描写しているように見ると言う人たちもいる(1ニーファイ8章参照)。



右—1960年代、ナイジェリアとガーナにおいて、多くの人が教会の出版物を読んで証を得た。1978年に宣教師が到着したときには、何百人というアフリカ人がバプテスマを受ける備えができていた。1年もたたないうちに、1,700人がバプテスマと確認の儀式を受けた。



## わたしは信じました

1964年、ジョセフ・ウィリアム・ブリー・ジョンソンは、預言者ジョセフ・スミスの証とモルモン書を読み、それらが真実の神の言葉であると知りました。間もなく、彼は御霊に促され、家々を回ってメッセージを分かち合うようになりました。やがて彼は1,000人以上の信者から成る10のグループを設立しました。1978年6月、彼はラジオでイギリスの公共放送を聞くようにという強い促しを感じました。彼は当手を回想してこう語ります。「スペンサー・W・キンボール大管長が、世界中のすべてのふさわしい男性会員は神権を受けることができると語るのを聞きました。喜びのあまり、涙があふれてきました。」

E・テール・レバロン,  
“Steadfast African  
Pioneer,” *Ensign*,  
1999年12月号, 45 参照。



上—1978年のナイジェリア人のバプテスマの写真/ジャンス・キャンノン。  
上—「シエラレオネにおける末日聖徒による聖任」エミール・ウィルソン画。  
右—「シエラレオネにおけるバプテスマ」エミール・ウィルソン画





現在閉ざされている地域の門戸が開かれ、数々の奇跡が起こるように、わたしたちがモンソン大管長からのチャレンジを受け入れ、一致して信仰の祈りをささげることができすように。■

注

1. スペンサー・W・キンボール「全世界に出て行って」『聖徒の道』1974年11月号、481-483参照
2. "Status Report on Missionary Work: A Conversation with Elder Thomas. S. Monson, Chairman of the Missionary Committee of the Council of the Twelve," *Ensign*, 1977年10月号、8参照
3. ジャロルド・デービス、ノーマ・デービス「壁の向こうで——旧東ドイツの教会」『聖徒の道』1992年2月号、12-21参照
4. *History of the Church*, 第4巻、540
5. "President Hinckley Visits Asian Saints, Dedicates Hong Kong Temple," *Ensign*, 1996年8月号、74

左——この刺しゅうの色や風合いから、メキシコ、中央アメリカ、南アメリカにおいてこの50年にわたって教会が驚異的な発展を遂げてきたエネルギーが伝わってくる。その地の会員たちはモルモン書を愛し、神殿に心を向けている。この作品では、グアテマラシティー神殿がモチーフになっている。

下——第二次世界大戦で深い傷を負ったポーランドには、現在1,500人以上の会員が住んでいる。彼らの証は、すべての末日聖徒と同じように、最初の示現といった信仰に根ざしている（ポーランド人芸術家の作品）。



左——ジョゼ・スミの最初の示現「シヤヌゲ、モステル画、教会歴史博物館の厚意により掲載。右——フィンレー大管長の写真、グリ・エイバウト撮影  
中央上——色あざむき宣教師たち「シリエリン、チン画、第4回国際美術コンテスト作品、撮写は禁じられていません  
右左端——日本の宣教師の写真、教会歴史博物館の厚意により掲載。右——ロシアの奉獻「エミン、スルフロフ撮影



日本 —  
アジアで発展する教会

**19**96年に東京で開かれたファイヤサイドで、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は会員たちに向けて、ヒーバー・J・グラント長老が1901年に十二使徒定員会の会員として日本を訪れたことについて話しました。「彼と3人の宣教師は……人目に触れない静かな場所へ行き、福音を宣べ伝えるために日本を奉獻しました。」

日本における教会の発展について触れた後（現在の日本の会員数は12万3,000人）、ヒンクレー大管長はこう言いました。「グラント大管長が今ここにいたら、喜びの涙を流すでしょう。」<sup>5</sup>



左上 — 1996年、ゴードン・B・ヒンクレー大管長と妻のマージョリー・ヒンクレー姉妹の訪問を祝うアジアの会員たち。  
中央上 — アジア的なものと末日聖徒的なものが台湾の会員を取り囲んでいる

この風景は、福音がどの文化にも良い影響を与えることを示している。  
右上 — 1901年9月1日、この地でヒーバー・J・グラント長老（中央）と宣教師たちが伝道活動のために日本を奉獻した。

下 — 1903年8月、十二使徒のフランシス・M・ライマン長老が他の教会指導者とサントペテルブルクに集まり、伝道活動のためにロシアの地を奉獻した。





# 自信をもって 福音を分かち合う

わたしたちは神の御子の教えに従い、神の戒めを守るために最善を尽くすとき、  
自分を弁護したり正当化したりする必要はありません。

**今**日は非常に大きな苦難に満ちています。それは人類の歴史が始まって以来、常に変わることがありません。いつも善と悪が存在し、わたしたちはそのいずれかを選択する権利があります。真理を固く守ることについて、少しわたしの考えを述べたいと思います。

先日、末日聖徒のことをほかの人がどのように見ているかという調査の結果を目にしました。わたしは長年この問題に関心がありました。これまで教会の責任で伝道にかかわることが多かったからです。人々がわたしたちをどう見ているかを知ることは、自分たちについて説明する最良の方法を知るために重要です。この特別な調査から一つの興味深いことが分かりました。教会員は時々、教会員でない人に対して非常に防衛的な態度を示すように見えるということです。モルモン教徒は自分たちの信念を説明するとき、批判を予期しているかのような言葉遣いをするまで言った回答もありました。

このような結果について聞いたのは、これが初めてではありませんでした。しかし、この問題に

ついて考えれば考えるほど分かったのは、わたしたちは注意していないと、他人とのコミュニケーションにおいて、自分を弁護しているような印象を相手に与えてしまうかもしれないということです。

わたしにはその理由が少し分かるような気がします。1820年の春、ジョセフ・スミスが聖なる森から出て来たとき以来、わたしたちのメッセージに対して否定的に反応し、ときには敵意を抱く人さえいました。ジョセフは自分が見たことを家族以外の人に初めて話そうとしたとき、心地よい経験をしなかったと、自分自身の言葉で述べています。彼のメッセージを聞いたプロテスタントの牧師はこう言いました。それは「すべて悪魔から出たものであって」、もはや「示現や啓示のようなものはな [い。]」(ジョセフ・スミス—歴史 1:21)

ジョセフがその経験をひどいものだったと思っていたとしたら、それは悪魔の容赦ない力にまだ気づいていなかったからにはかなりません。教会が発展すればするほど、ますます多くの敵意が向けられるように思われました。忠実な聖徒の小

さな群れが住居を次々に追われました。ミズーリ州知事が教会員に対する撲滅令を出し、続いて預言者と数人の者がリパティエの監獄で苦難に遭ったとき、ジョセフはこれ以上事態が悪くなるはずはないと思ったことでしょう。ところが、事態はまさに悪化したのです。ジョセフとハイラムは自分たちの業と証と信仰<sup>あかし</sup>に対して、命の代価を支払いました。この最後の残虐行為の後、聖徒たちは西部への大移住に着手し、ブリガム・ヤングに率いられてアメリカ大陸の荒野を横断し、合衆国のロッキー山脈の中にある安息の地へと向かったのです。

末日聖徒の苦難と犠牲の話は、今では消すことのできない歴史の一部となっています。当時を生き抜いた先祖を持たない改宗者でさえ、教会歴史の初期の人々や出来事を、自分自身の遺産の一部として大切にしています。当然のことながら、その話はわたしたちを鼓舞し励ましてくれます。当時と比べれば快適な暮らしをしているわたしたちが、勇敢で忠実な末日聖徒たちのことや、彼らから学べる教訓を決して忘れないことを望み、祈っています。

けれども、現在は1830年ではありません。もはや教会

員は6人だけではありません。他の人々の目に映るわたしたちの防衛的な態度は、わたしたちが今でも、嫌われ者の少数派として扱われ西部へと逃れるしかなくなるのではないかという恐れを表しているのではないのでしょうか。他の人と接するとき、いつも自己弁護をしなければならないと思っ  
てはいないのでしょうか。もしそうなら、行動を変える必要があると思います。絶えず批判や反対を予期していると、不健全な自意識に陥ったり、他人と調和しない自己防衛の態度を招いたりすることがあります。それは教会として、またイエス・キリストに従う大きな団体として、今日わたしたちが示す立場と相いれないものです。

### 救い主の模範に心を向ける

あらゆる事柄において、わたしたちは救い主を模範として仰ぎ見ることができます。救い主は教えを説き始めたときから激しい敵対行為に直面しました。ナザレにあるユダヤ人の会堂で初めて説教したとき、崖<sup>がけ</sup>から主を突き落とそうとした者がいました(ルカ4:28-29参照)。しかし主はひるみませんでした。ほとんどの場合において、誤解される

ことを御存じでした。しかし主は「……とされていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあなたがたに言う」(マタイ5:21-22)のような言葉を用いて、恐れずに福音を宣言されました。主は御自分の言うべきことを御存じであり、堂々と語られました。聖文にはこう書かれています。「律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように、教えられた[。]」(マタイ7:29)

今日、もし自分の信念に敬意を払ってほしいなら、自信をもって行動する必要があります。自分が何者であり、何を擁護しているかについて確信するのです。自分の信念



について弁解しなければならないと思う必要はありません。傲慢で横柄な人になるべきだという意味ではありません。他人の見解を尊重することは、わたしたちにとって常に基本的な原則であるべきです。それは「信仰箇条」にも書かれています(信仰箇条 1:11 参照)。しかし、あたかも迫害を受ける少数派であるかのように、あるいは誤解や批判を予期しているかのように振る舞うなら、人々はそれを感じ取り、それに応じた反応を示すでしょう。

帰還宣教師の皆さんは、この点について特に注意してください。皆さんは2年間、家々のドアをたたき、考えられるあらゆる質問や異論に対応してきました。皆さんは会話の中で、戸別訪問をしているような気分になりやすいでしょう。しかし皆さんはもう戸別訪問をしているのではありません。

自分が信じていることを伝える立場に置かれたら、最初から批判を予期しかわそうとしているかのように、細心の注意を払う必要はないのです。使徒パウロはこう述べています。「わたしは福音を恥としない。」(ローマ 1:16 参照) わたしたちのだれもが福音を恥とすべきではありません。わたしは回復されたすばらしいメッセージに対する自分の証を述べ伝えるあらゆる機会を待ち望み、その機会に心から感謝しています。そのようにしたときに、だれかに不快感を与えたという記憶は一つもありません。

このテーマに今日的な意義がある理由の一つは、教会がますます発展してきているからです。合衆国では、今や4番目に大きな教会になっています。末日聖徒は合衆国の東海岸から西海岸、北の果てから南の果てまで、どの町にもいます。

どちらかというと西部に集中していますが、アメリカに住む人々が末日聖徒と個人的な知り合いになる機会はますます増えています。さらに、多くの教会員が社会的な名声を獲得しています。最近の『タイム』(Time) 誌に載った教会に関する記事はこの事実を物語っており、著名な末日聖徒の写真が幾つか掲載されました。<sup>1</sup>

これだけ顕著な特性を見ただけでも、教会のことがますます話題になり、末日聖徒は自分たちが福音について話す機会がよりいっそう増えていることが確かであることが分かります。

わたしたちは正直であり、隠しだてせず、率直で、魅力を放ち、他人の見解を尊重し、自分の見解については少しも弁護しない態度を示す必要があります。

自己弁護をせずに話すにはどうしたらよいか、二つ提案をしましょう。

こんにち  
**今日、もし自分の信念に  
敬意を払ってほしいなら、  
自信をもって行動する必要があります。  
自分が何者であり、  
何を擁護しているかについて  
確実に知るのはです。**

**第1に、あまり関係のない問題にとらわれず、重要な問題について話しましょう。**

教会員は相手に話題の方向を決めさせてしまう傾向があります。一例を挙げると、一夫多妻結婚です。これは1890年に正式に廃止されました。今は2010年です。なぜまだそのような問題について話すのでしょうか。過去に行われていましたが、もう終わったことです。わたしたちは前進しています。もし人から多妻結婚について聞かれたら、かつて行われたが、現在は行っていないこと、わたしたちの教会と多妻主義者を混同すべきではないとだけ伝えてください。日常の会話では、旧約聖書の時代に多妻結婚が行われていたことを引き合いに出したり、19世紀に一時、多妻結婚が実施された理由を憶測したりして、時間を浪費しないでください。歴史

家や学者にとっては適当な話題かもしれませんが、わたしたちが教会について話す際におもな話題にすると、ただ固定観念を強めてしまうことになるだけだと思います。

時々、こうした会話はメディアに採り上げられた話から始まることがあります。だからと言って、何も変わることはありません。2009年に、あるケーブルテレビが放映した多妻主義者についての番組で、神殿の神聖な儀式が描写されました。その描写は教会員の間大きな懸念を引き起こしました。それはもっともなことです。わたしたちは皆、不愉快な思いをしました。

しかし、その描写に対して教会広報部がウェブサイトのニュース欄に掲載した記事を読んでいたのだと思います。この記事の論調に注意してください。自己弁護らしい点はまったくありません

が、わたしたちの最も神聖な宗教的儀式の一つに対する不適切な描写に対して発言しています。

「ほかの大きな宗教団体と同様、末日聖徒イエス・キリスト教会は時々、ハリウッドやブロードウェイ、テレビ番組や書物、報道メディアから注目の的になることがあります。教会と教会員に対する描写が非常に正確なこともあります。間違ったイメージや固定観念を伝えていることもあります。ときには、驚くほど悪趣味なこともあります。

カトリック教徒やユダヤ教徒、イスラム教徒が何世紀もの間経験してきたように、社会的組織や宗教団体が耳目を集めるほど大きく発展したり著名になったりすると、そうした注目を避けることはできません。」

その記事は続いて、ケーブルテレビのネット

ワークや関連事業に対する組織的な不買運動の考えを思いとどめさせようとしています。一部の教会員の間でそのような運動が積極的に推進されていたのです。

「末日聖徒イエス・キリスト教会は組織として不買運動を求めてはいません。そのような措置は単にメディアが好むような論争を引き起こし、結局は番組の視聴者を増加させるだけです……末日聖徒は品位を保ち、思慮のある行動を取るべきです。

これはイエス・キリストが御自身の生涯の中で教え、行いで示された模範であるだけでなく、今日強くなり、成熟した教会員の現実の姿を反映しています……

もし教会が批評家や敵対者に論争の根拠を選ぶ余地を与えるなら、ほぼ180年もの間成功してきた伝道の業という

本筋から離れてしまうでしょう。そうではなく、教会はこれからもイエス・キリストの回復された福音を世界中に<sup>①</sup>宣べ伝え続けていくうえで、自らの進路を定めるのです。」<sup>2</sup>

もう一つの例を紹介しましょう。2007年にある独立映画会社のプロデューサーが「マウンテンメドローの虐殺」に関する映画を封切りました。これを実にお粗末な映画であると評することは寛大すぎるかもしれません。率直に言うと、ひどいもので、ハリウッドの批評家でさえ酷評したほどです。興行主はあらゆる手段を尽くして、その映画を大きな話題にするよう教会を挑発しました。しかし、実際には教会はそれを完全に無視しました。彼らに論争の音頭を取らせるのを拒否したのです。その結果、興行は大失敗し、プロデューサーの経営は赤字になりました。一

わたしたちとわたし<sup>あかし</sup>たちの証について  
最も重要なことは、  
イエス・キリストの教えに基づいた信念を持ち、  
主に従う努力をしている  
ということです。

方、教会はマウンテンメドーで起きた悲惨な出来事に巻き込まれた人々の子孫たちに、建設的で賢明な方法で対応し、手を差し伸べ続けているのです。

最近オックスフォード大学出版社が、この悲劇にかかわる事実を立証する『マウンテンメドーの虐殺』(Massacre at Mountain Meadows)と題する十分に研究された本を出版しました。

## 第2に、末日聖徒はイエス・キリストの教えを教え、実践しており、主に従う努力をしていることを強調しましょう。

結局のところ、わたしたちとわたしたちの証について最も重要なことは、イエス・キリストの教えに基づいた信念を持ち、天の御父と御子に受け入れられるように生活することにより、主に従う努力をしているということです。

これがわたしたちの礎であり、ジョセフ・スミスの礎です。預言者ジョセフ・スミスはこのように教えています。「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。」<sup>3</sup>

教会について話すときにはいつでも、ここに焦点を置くよう努めるべきです。わたしたちはイエス・キリストに従い、主が教えられたように生活する努力をしています。それがわたしたちの信仰と生活の土台であり、自己弁護の必要などない確固とした立場です。神の御子の教えに従い、その戒めを守るために最善を尽くすとき、わたしたちは自己弁護や正当化をする必要はありません。

イエス・キリストの教義を知っていることはすばらしい祝福であり、その教義は、聖文を研究し主の教えを受け入れる人にとっては明瞭

です。主の教義に従うにつれて、わたしたちは皆神の子供であり、神から愛されていることが分かるようになります。キリストに従うことによって、わたしたちが生まれる前にどこにいたか、なぜ地上に来たか、この地上の生活を終えた後はどこへ行くかが分かります。救いの計画は明確なものです。それは神の子供たちの永遠の幸福のために作られた神の計画なのです。

神はわたしたちが守るべき戒めを与えてくださいました。それらは神の戒めであり、だれにもそれを変える権利はありません。例外は、神がお選びになった預言者に直接啓示された場合のみです。

世界中の人々は主の教えからますます離れ、使徒パウロが述べた世俗的な社会へ近づいています。

「人々が健全な教おしえに耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにかまかせて教師たちを寄せ集め、

そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれいく時が来るであろう」(2テモテ4:3-4)。

現代はパウロが予見した時代です。神もキリストもない、



## キャシーを救う

ダーウィン・リチャードソン

1976年1月のことでした。社会福祉の仕事をしている友人から電話がありました。里子を一人迎えるつもりはないかというのです。当時わたしたちには幼い子供が二人いましたが、妻とわたしは17歳のキャシーを我が家に受け入れることに同意しました。

キャシーは我が家に来ると、一緒に教会に出席してもいいかと聞いてきました。もちろんわたしたちは賛成でした。そして、間もなくキャシーは毎週教会に行くようになりました。キャシーが以前に通っていた教会の友だちの多くは、キャシーが教会に来ていないことに気づき、末日聖徒の教会に通っていることを知って心配し始めました。

ある日、学校から帰ると、キャシーは以前に行っていた教会で青少年教導集会が「キャシーを救う」夕べを計画していることをわたしたちに話してくれました。その集会に来て一緒に教会を擁護してくれないかとキャシーが頼むので、わたしはしぶしぶ承知しました。というのは、教義の違いについてキャシーの友達と論争したくなかったからです。でも、キャシー

にはまだ、教会を擁護できるほどの知識がないことも分かっていました。そこでわたしは、伝道から帰って来たばかりのリチャード・ジョーンズをもう一人のゲストとして連れて行くことにしました。

「キャシーを救う」夕べが開かれる日は、わたしたち皆にとって断食と祈りの日でした。わたしは、その会に御霊が<sup>みなま</sup>あって論争が起らないようにと祈りました。

その日の夕方その教会に着くと、多少の敵意を感じはしましたが、青少年担当の牧師はわたしたちを温かく迎えてくれ、わたしたちの教会と信条について、集まった人たちに説明する機会を与えてくれました。まずリチャードが当時の宣教師たちが最初に紹介していた事柄を話し、回復について教えました。すると部屋にいた15歳前後の青少年たちは熱心に耳を傾けました。青少年担当の牧師までもが話に引き込まれていました。

リチャードの話が終わると、後は質疑応答の時間となり、福音についてすばらしい話し合いが行われました。わたしたちの信仰につい



救いの計画も<sup>あがな</sup>贖いもない、悔い改めも<sup>ゆる</sup>赦しもない、死後の生活も復活も、永遠の命も永久に結び固められる永遠の家族もないと信じる人がますます増えています。

イエス・キリストの回復された完全な福音の祝福がなければ、人生はどれほど空虚なものでしょうか。末日聖徒としてわたしたちはイエス・キリストに従っています。わたしたちは幸福の計画、すなわち主イエス・キリストを通して成就される偉大な贖いの計画を知っています。イエス・キリストの教義を知っています。今も、そして常にその教義に従って生活するよう努めなくてはなりません。主の教義を教え、主の教会を築く方法を知る責任が、教会の若い世代の肩にかかっています。自分の信念を正当化しなければならないと感じる必要はないことを、どうか忘れないでください。ただ愛と思いやりの精神で説明すればよいのです。真実の

教義が教えられるとき、真理は常に何物にも勝るのです。

幾つか例を挙げましょう。

1. わたしたちはイエス・キリストの教義に従い、隣人への奉仕をしています。教会員だけでなく、教会外の人にも奉仕します。世界中の人道支援活動で行われている大きな働きは、人々の苦痛と苦難を軽減しています。わたしたちは、教会員と宗教を異にする人々の両方の必要を満たすために、使うことのできる時間と金銭を分かち合うことに最善を尽くしています。なぜならわたしたちは、「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイ 25:40)と理解しているからです。
2. わたしたちはイエス・キリストの教義に従い、「知恵の言葉」に従って生活するよう努力しています。「知恵の言



て穏やかに説明すると、最初に感じた敵意はすぐに影を潜めました。わたしたちは互いの立場を尊重し合っていました。わたしたちが証を述べ、質問に答えていると、部屋中が聖霊に満たされました。

話し合いの最後に、牧師は来てくれたことに感謝していると言いました。そしてわたしたちが帰ろうとすると、言いたいことがあると言って、一人の若い女性が立ち上がりました。彼女は、モルモンはキリスト教徒ではないと思っていたそうです。でも、今ではモルモンは自分よりもすばらしいキリスト教徒なのではないかと思えるようになったと言ってくれました。

この話し合いがこれほどすばらしい終わり方をするなど、想像すらできませんでした。わたしたちが断食して祈り、御霊があるようにと心から願わなかったとしたら、また、論争がないようにと主に祈り求めていなかったとしたら、この集会在かほどうまくいくことは決してなかったはずですが、福音のメッセージは聖い御霊とともに伝えてこそ、うまく分かち合えるものなのです。■

葉」は身体の健康を保つ健全な方法です。わたしたちはあらゆる種類の薬物の乱用を避けます。肉体には永遠の霊が宿り、この世における幸福は霊的な強さと身体の健康により得られるからです。

3. わたしたちはイエス・キリストに従い、純潔の律法を守っています。神はこの戒めをお与えになり、決してそれを取り消したり変更したりされたことはありません。この律法は単純明快です。だれも主が定められた枠外で性的な関係を持つてはならないというものです。これにはあらゆる種類の同性愛と婚姻外の異性関係が該当します。純潔の律法を破ることは罪です。

4. わたしたちはイエス・キリストに従い、神が定められた一夫一婦制の結婚の律法に従っています。この戒めはまさしく時の初めから定められたものです。神はこう言われました。「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世2:24) 神はアダムとエバに「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ」とお命じになりました(創世1:28)。

近代の預言者と使徒たちは、1995年に発表された「家族——世界への宣言」の中でこの戒めを再確認しています。

「生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。……

家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。」<sup>4</sup>

5. わたしたちはイエス・キリストに従い、福音の第一の原則、および回復されたその他のすばらしい教義をすべて教えています。それらの教義を受け入れ実践するなら、神の息子娘に平安と喜び、幸福がもたらされます。それはこれほど単純なものなのです。

主イエス・キリストの教えを知り、従い、相手に不快感を与えずに回復された福音に関する会話に引きこむことにより、わたしたちが幸福を求め努力をするときに、神がわたしたちを祝福してくださいますように。■

2009年8月13日にブリガム・ヤング大学で行われた卒業式の説教からの抜粋。全文〔英語〕は、[www.newsroom.lds.org](http://www.newsroom.lds.org)に掲載されています(“News Releases & Stories”をクリックする)。

#### 注

1. デビッド・バンビューマ, “The Church and Gay Marriage: Are Mormons Misunderstood?” *Time*, 2009年6月22日号, 49 - 53 参照
2. “The Publicity Dilemma,” [newsroom.lds.org/ldsnewsroom/eng/commentary/the-publicity-dilemma](http://newsroom.lds.org/ldsnewsroom/eng/commentary/the-publicity-dilemma), 強調付加
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』, 49, 50
4. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49 参照

## 神殿に行く

2001年にバプテスマを受けてから、家族と一緒に神殿に行って永遠の結び固めを受けることについて夫と何度も話し合ってきました。しかし、夫が肝臓病と診断され、神殿に行けるようになる前に亡くなったため、計画は止まってしまいました。

わたしは悲しみに打ちひしがれていましたが、家族を永遠に結び固めたいという望みは夫の死後、ますます強くなりました。とはいえ、カンボジアから1,600キロも離れた中国香港<sup>ホンコン</sup>神殿まで家族で行く費用をためるのは、夫に先立たれ、4人の子供を抱えるわたしにとって容易でないことは分かっていました。

収入は乏しいものですが、家族が永遠に結び固められるために神殿に行く必要があることは子供たちにもわたしにも分かっていました。わたしは引き続きホテルのランドリーサービスの仕事に精を出し、子供たちはアルバイトをしました。ようやくわたしたちは旅費をほんの少しためられるようになってきましたが、全額

をためるのは不可能だということに悟るまでに時間はかかりませんでした。

家族が永遠に結ばれることはこの世で得られるどんなものよりも価値があることが分かっていたため、わたしたちは亡き夫のオートバイを売ることに決めました。それは、わたしたちの持ち物の中で唯一、金銭的な価値のあるものでした。オートバイを売ってかなりのお金を手にしたわたしたちは、心が弾みました。子供たちの父親であり、わたしの夫である人ともうすぐ結び固めが受けられるのです。

しかし、その幸せも長くは続きませんでした。オートバイを売った1週間後、教会から帰ると、家がどろぼうに入られていたのです。

**ようやく**  
わたしたちは  
旅費をほんの少し  
ためられるように  
なってきましたが、  
どろぼうに  
入られてからは、  
旅費を工面することは  
不可能になりました。



オートバイを売ったお金がなくなっていることを知ったときの悲しみは、耐え難いものでした。でも、この事件以来、数か月間、神殿に行く方法が見つかるようにとわたしたちは祈り

続けました。

そして、わたしたちの祈りはこたえられました。教会の中央神殿参入者援助基金\*から援助が受けられると言われたのです。この知らせに子供たちもわたしも心から喜びました。そして間もなく、待ちに待った神殿への旅に出発したのです。

末日聖徒の惜しみない支援のおかげで、わたしたちは今、永遠の家族になりました。■

チョム・コムリー（カンボジア）

\*中央神殿参入者援助基金とは、神殿に行く費用を工面できない教会員に経済的な援助を与えるために創設された基金です。

## 扇風機と掃除機と一皿のクッキー

あの年の夏のことです。幼い子供を持つわたしたち家族は、夫の新しい仕事のために大陸を横断する3,200キロの大移動を行いました。この新たな冒険に胸を躍らせる一方で、家や家族、親しんできたすべてのものはるか遠くへ行ってしまったようにも感じました。わたしたちは土砂降りの雨の中で新居の前に車を止めると、敷き詰めただけのカーペットがぬれないように、頭の上に傘を差し、足もとにはシートを敷いて、トラックから荷物を降ろしました。豪雨のときには地下室に水が流れ込むことがあるのを知っていたので、荷降ろしを終えてからは、特に地下室に神経をとがらせていました。

その晩はすべてがうまくいったように思えました。3人の幼い子供たちがやっと眠ってくれたところで、夫のグレッグとわたしはそそくさと寝床の



## 真夜中に 玄関のベルが

鳴りました。

ドアを開けると、

リンゼー・スーウェル

兄弟でした。

わたしたちが

このワードで唯一

知っている人です。

準備をしました。二人とも疲れ果てていましたから、ベッドに倒れ込んだらさぞ気持ちがいいだろうと思いました。ところが、なぜか、ダンボール箱をもう一つ開けないといけないとグレッグが言い始めたのです。

「お願いだから今は寝ましょうよ。朝になってから開ければいいじゃないの」とわたしは言いました。

夫は首を振ると、地下室に向かいました。すると2、3分後、夫の叫び声が聞こえました。何がなんだか分からず地下室に走って行くと、目に入ったのは、小さな鉄砲水でした。冷たい雨水は肩を寄せ合って立つわたしたちのくるぶしまで達しようとしていました。わたしたちは直ちに作業に取りかかり、次々に箱を急な階段に引き上げました。わたしは途方に暮れてしまいました。床にあふれた水の上に涙がこぼれ落ちました。

わたしは、新しいワードで唯一わたしたちが知っている教会員のリンゼー・スーウェル兄弟に電話しました。家にある排水ポンプを使って水をかき出す方法を教えてもらいたかったのです。スーウェル兄弟から手短な説明を聞くと、わたしは荷物の救出作業に戻りました。そして真夜中に玄関のベルが鳴りました。ドアを開けると、スーウェル兄弟でした。両腕に扇風機と水の吸える掃除機、それに一皿のチョコチップクッキーを抱えていました。

「何か助けがあったほうがいいかと思ったのでね」とスーウェル兄弟は明るい笑顔で言いました。突然、実家から遠く離れた所にいるという感覚がなくなりました。

スーウェル兄弟は一晩中わたした

ちのところにおいて、洪水と戦ってくれました。地下室の水位が30センチを超えた段階で、スーウェル兄弟は消防署に電話した方がいいのではないかと言いました。消防署員が運び込んでくれた大型ポンプによって、最終的に問題は解決しました。

翌朝、スーウェル姉妹や新しいワードの会員たちが食べ物や延長コード、掃除機を携えてやって来ました。わたしたちは彼らの善良さに圧倒されてしまいました。結局わたしたちの荷物は全部無事だったのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることにとっても感謝しています。どこに行こうとも、兄弟姉妹が両腕を広げて待っていてくれます。わたしたち家族を受け入れ、困ったときに助けてくれるのです。■

リンディー・ホーズ・ジェイコブセン  
(アメリカ合衆国ユタ州)

## 奉仕ができないほど 忙しかっただろうか

1997年のことです。支部会長が、支部として集会所近辺で奉仕プロジェクトを行うと発表しました。末日聖徒の開拓者のソルトレーク盆地到着150周年を記念して世界中の教会員が行事を行っていました。わたしたちはその一環としてこの活動を計画したのです。

活動には、道路の清掃や、道にできた穴を埋めることなどがありました。体や服は汚れるけれども、この活動を通して教会のことを人に伝える機会が与えられるかもしれないと支部会長は言いました。

わたしは行くつもりはありませんで

した。同じ時間帯に、教授の追加講義が予定に入っていたからです。だれもが理解してくれるだろうと思いましたが、でもそのとき、「信仰こめて一歩ずつ」というタイトルのパンフレットがたまたま目に入ったのです。聖徒たちが行った合衆国西部への旅の苦難に関する話の抜粋を読むと、感動で涙があふれました。中には、居心地の良い家を後にして、何が待っているかも分からない砂漠へ旅立った聖徒もいました。また、旅の途中で自分以外の家族が全員死んでしまったにもかかわらず旅を続けた人もいました。病や苦痛、飢え、貧困の中で、彼らは西部に入植すれば抑圧から解放されると信じていました。

わたしは自分を恥ずかしく思いました。教会初期の聖徒たちは、教会の発展のために大きな犠牲を払うことを余儀なくされました。場合によっては自分の命すら犠牲にしなければなりません。彼らの犠牲と信仰のおかげで、今わたしは福音の祝福にあずかっているのです。

そして、彼らに比べればわたしが払う犠牲など小さなものだということが分かりました。たった2時間奉仕して数人に福音を伝えるよう言われているだけなのです。それなのにわたしは、行かない口実を考えていたのです。

わたしは講義のことは忘れて活動に参加しました。体や服は汚れましたが、人々は教会のことを聞きに来てくれました。参加してよかったと思いました。その後も何度か講義に出席しなかったことはありましたが、わたしは無事大学を卒業しました。■

ヌゴジ・フランシスカ・オコロ(ナイジェリア)

## シチリアで自分を顧みずに働く

「わたしはオマール・インテルドナードと申します。フィオレーラ・イタリアの息子です。母のバプテスマのことを覚えていらっしゃるとうれしいのですが。」その電子メールはこのような始まりでした。30年前、わたしは宣教師として同僚とともにシチリア島に赴任し、シラクーザという地中海沿岸の美しい都市で奉仕していました。日曜日にはエリア内の何人かの末日聖徒たちと一緒に古い家で集会を開き、聖餐会はその居間で行っていました。

伝道活動は困難で、バプテスマはほとんどありませんでした。シラクーザで働く宣教師は16人で、どの家も繰り返し戸別訪問を受けていました。しかし、ある日、同僚と一緒に市内地図を調べていると、市の外れにあったわたしたちのアパートから2、3キロの所に小さな集落があることに気づいたのです。

わたしたちは田園地帯を通過してその集落の近くまで来ると、盆地を見下ろす高台の縁にひざまずいて心からの祈りを神にささげました。そして、その集落のあちこちにある共同住宅で戸別訪問を始めました。

そしてついに、黒い服に身を包んだ40代の女性が戸口で歓迎してくれました。イタリアでは、愛する人が亡くなると黒い服を身につける習慣があります。わたしたちは玄関先でいつも話す内容を少し変えて、救いの計画を中

心に話しました。招かれて中に入ると、その女性のほかに10代の娘が二人とその友達が一人いました。女性は最近夫を亡くし、扶養すべき10代の子供が4人いるということが分かりました。わたしたちは『幸福の探求』というスライドを見せました。そして、翌週また訪問するよう招かれました。

その女性は結局、長男と10代の二人の娘、子供たちの祖母、娘の友達とともにバプテスマを受けました。伝道後もその家族とは連絡を取り合っていました。娘の友達だったフィオレーラについては、この電子メールを受け取るまでその後どうなったのか分かりませんでした。

「母はこれまでずっと福音に忠実な生活を送っています。1983年にメッシーナ支部の立派な教会員と結婚

**同僚とわたしは**  
**盆地を見下ろす**  
**高台の縁にひざまずいて**  
**心からの祈りを**  
**神にささげ、**  
**戸別訪問を始めました。**



し、神殿で結び固めを受けました。」  
フィオレーラの息子のメールは続きます。  
「わたしは1984年、妹のペロニカは  
1987年に生まれました。皆、活発に教  
会に集っています。わたしはイタリア・  
ローマ伝道部で2005年から2007年  
まで伝道しました。フロリディアとい  
う小さな集落で福音を宣べ伝える決心を  
してくれた二人の宣教師の苦勞対し  
て、主に恩返ししたかったからです。」

わたしは伝道中、2年間を犠牲にす  
る価値があるのかと疑問に思ったこ  
とが何度かありました。しかし、同僚  
とわたしが出て行って自分を顧みず  
にシチリア島の人々のために奉仕す  
ることを決意した結果、フィオレーラの  
人生は永遠に変わったのです。このこ  
とを知って、わたしの喜びはいかに大  
きかったことでしょうか(教義と聖約  
18:15 - 16 参照)。■

ルイス・メンディット(アメリカ合衆国ネバダ州)

## わたしは、どこから来たのでしょうか?

**子** 供のころ、わたしはよく考えたも  
のです。「わたしは、どこから来  
たのかしら?」今のわたしになる前に  
どこかで暮らしていたと心の奥底で確  
信していましたが、それがどこなのか  
分からなかったのです。

何年もの間、わたしはこの疑問につ  
いてだれにも、両親にさえも話させ  
ませんでした。気は確かかと思われたく  
なかつたからです。しかし10代に  
なったばかりのある日、わたしは勇気  
を奮い起こして、当時所属していた教  
会の牧師に尋ねました。「わたした  
ちは地上に来る前、どこに住んでいた  
のですか。」牧師は、そのようなこと  
について考えるべきではないと言いま  
した。人は生まれる前にどこかに住  
んでいたことなどない、どんな形であ  
れ人は生まれる前には存在していな  
かつたというのです。

牧師の言うことが正しくて自分  
の方が正気ではないのではと不安にな  
りましたが、自分の考えを打ち消すこ  
とはできませんでした。答えを探し続  
けたにもかかわらず、だれ一人、答えを  
知っている人はいませんでした。

わたしが18歳のとき、家族は  
引っ越しました。新しい町の牧  
師は以前の町の牧師より知識が  
あるかもしれないと考えたわた  
しは、同じ疑問について一人の牧  
師に尋ねてみようかと決心しました。  
ところが今度も以前と同じで、牧師  
はそのような考えは正気と思えないと  
言ったばかりか、精神科医に診てもら  
うようわたしに勧めたのです。

間もなく、わたしは教会に行かなく  
なりました。仕事に就いた後、

ある青年と出会って結婚しました。  
5年後、結婚生活は離婚という結末を  
迎えました。そこで、わたしは持ち物を  
すべて荷造りし、二人の子供を連れて  
うえに妊娠中の体で故郷へ帰りました。

わたしが結婚していた5年の間に、  
わたしの母は末日聖徒イエス・キリスト  
教会に加入していました。母の家を訪  
れたとき、母から教会について聞き、  
教会の宣教師と話すよう勧められました。  
最終的には母の勧めに同意したもの  
の、レッスンの前に心に決めていたこ  
とがありました。それは、わたしが今  
の自分になる前にどこに住んでいたか  
を長老たちに教えてもらえたらレッス  
ンを受けるとするということでした。

驚いたことに、宣教師はわたしの疑  
問に答えてくれたばかりでなく、その  
答えをすぐに聖書から導き出したの  
です(ヨブ38:4-7; エレミヤ1:5; ユダ  
1:6 参照)。その後も彼らは、わたし  
の関心を引き付けて離れませんでした。  
宣教師の答えによって、わたしはそれ  
までの生涯を通じてなぜ自分が現世  
の前から存在していたと感じてきた  
のか、その理由が分かりました。今や、  
天の御父とともに自分が前世に存在  
していたことをわたしは理解したの  
です。

それから程なくして、わたしは教会  
員になりました。人生で初めて、わた  
しは自分が何者であるかを自覚する  
ようになり、故郷である天の御父の  
もとに帰れるよう努力するという目  
標を持ったのです。

宣教師たちが、ほかにだれも答え  
られなかつた疑問に答えてくれたこ  
とに感謝しています。■

ベティ・ハロウエル(アメリカ合衆国インディアナ州)



# フリーダへ

あるヤングアダルトの姉妹がボーイフレンドと暮らすかどうか答えを求めています。  
ヤングアダルトの何人かが彼女にアドバイスの手紙を書いてくれました。

**価** 値観が目まぐるしく移り変わる世にあって教会の標準に忠実であり続けることは、霊性を守り抜くうえで重要です。交わした聖約を忠実に守ると固く決意することによって、誘惑に立ち向かう力が強められます。

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926 - 2004 年）は、わたしたちが真理にとどまる助けとなる決断について話しました。「ヨシュアは、自分の仕える者を来年選べとは言いませんでした。日のまだ明るいうち、闇が勢いを増して辺りを覆わないうちに、『きょう』選べと言ったのです（ヨシュア 24：15 参照）。……今、行動しなさい。これから1千年たって、あなたがこの時を振り返って、あれは大事な時だった、大事な決断の時だったと言えるように。」<sup>1</sup>

フリーダ\*はヨーロッパに住むヤングアダルトの教会員ですが、まさに、そのような決断の時に直面しています。フリーダはいつの日か神殿で結婚したいと言いつつも、教会員ではないボーイフレンドと暮らすことを真剣に考えています。彼女の計画によると、数年後には悔い改めて教会の活動に戻り、ほかの誰かと神殿で結婚するつもりなのですが、今はただ楽しく過ごしたいと言うのです。

スカンジナビア地方のヤングアダルトたちは、フリーダに手紙を書くよう勧められました。彼らはフリーダの本名や住所を知らなかったが、フリーダが正しい選択をするのを助けるために自分自身の証や体験を分かち合ってくれました。以下に、フリーダと同年代のヤングアダルトたちが書いた手紙の抜粋を、本人の同意を得て掲載します。

## 神殿で結婚すると決心してください

**わ** たしの友人エリカ\*は、教会員ではないボーイフレンドと暮らし始める前に、福音からは決して離れないと約束して家族を納得させました。しかし、いったんそのような状況に足を踏み入れてしまったエリカにとって、そこから抜け出すのは困難のようです。正しい道に戻るときの苦痛や困難があまりにも大きすぎるとエリカは考えています。

残念なことに、エリカと同じような状況に陥った友人が多くいます。教会の標準から外れた生活をしながらも自分自身を管理していけると考えたせいで、結局は教会から離れてしまったのです。実際、指導者の教えを無視すると、サタンの支配力に捕らわれやすくなります。

そのことを、わたしは友人たちの経験から学びました。17歳のとき、わたしは岩のように固い証を得ると決心しました。霊的に生き延びるためには揺るぎない証が必要だと確信したのです。天の御父がわたしのために計画をお持ちであることを理解し、強い証を得ることによって、わたしは救われました。

わたしがはっきりと心に決めている事柄が一つあります。それは神殿で結婚するという決意です。神殿は真の幸福に続く唯一の道であり、わたしたちがいつか天の御父とイエスキリストとともに住むことができる唯一の道です。神殿に行きたければ、福音の教えに従うことが必要です。わたしは福音に従った生活をすると決意しています。たとえ困難であろうと、そうすることが正しいと知っているからです。

少し時間を取って、今、自分がどこに向かっているか思い描いてください。さらに、今日の



**ボ**ーイフレンドと互いに心から愛し合っているなら、彼を神殿の敷地に連れて行ってください。永遠の結婚に関するあなたの夢について、またあなたの信仰について彼に話してください。あなたにとって神殿結婚がなぜ大切なのかを学ぶことにボーイフレンドが興味を示さないようなら、彼はあなたにふさわしくありません。神殿結婚をするという夢を持ち続けてください。

スティーン・ハイランダー (デンマーク)

**愛**する人と一緒にいたいという思いは抑え難いものだということは理解できます。また人は時折、単に周りの皆と同じ行動を取りたくなることも分かります。後で悔い改めるための時があると考えるのは簡単ですが、そのような時はありません。御霊が告げることを無視し続けるうちに、以前は聞こえていた御霊の声を聞き取る力を失ってしまうのです。そのままいくと、自分がしていることが間違っていると思わなくなり、もはや悔い改めの必要性を感じなくなってしまうのです。

匿名

**わ**たしの証をあなたにお伝えします。わたしたちの羊飼いはあらゆる必要を満たすことができになります。実際、羊飼いである主の道に従ったとき、主はわたしの必要を満たしてくださいました。

あなたは完全になれますし、言葉で表せないほどの永遠の幸福を手にすることができます。なぜなら、イエス・キリストはあなたのために罪を贖<sup>あがな</sup>ってくださいましたからです。

アンナ・バーム・ゲルボ (スウェーデン)

**わ**たしは自分がしてしまったことを恥じています。天の御父はわたしを赦してくださいと信じていましたし、実際、赦してくださいと感じています。しかし、自分自身を赦すことができないのです。自分を赦すことは簡単だとずっと思っていたのですが、そうではないと分かってきました。

匿名

**だ**れかと愛し合うようになったにもかかわらず、神殿結婚ができる見込みがないために二人の関係を深めることができないとき、どんな気持ちになるかわたしは知っています。とてもつらく、胸を引き裂かれるような気持ちです。でも、この世のどんな悲しみも天の御父と交わした聖約を破ることによって招く永遠の悲しみとは比べものになりません。あなたには希望があります。もっとすばらしい祝福があなたを待っています。

マーリ・ベルティルソン・オルソン (スウェーデン)

**現**在、わたしは妻となる人を求めています。過去に犯した罪のことを考えると苦しい気持ちになります。将来、妻となる人に「君と出会う前からぼくは君を愛していたんだ。だから君のために、世の汚れから身を守ってきたんだよ」と言えたらいいのですが、現実にはそう言えません。犯した罪を悔い改めるためにこの3年間わたしが感じてきた苦痛を、たとえわたしの最大の敵に対してであっても、味わってほしいとは思いません。最初から神の近くにとどまる強さを持ち、神の戒めを守っていられたらどんなによかったでしょう。

匿名

選択が明日どのような結果をもたらすことになるか考えてみてください。

アマンダ・パーンスコフ (デンマーク)

ほんとうに必要な事柄を見いだしてください

**愛**されることはこの世の何にも増して万人に共通の願いだとわたしは思います。しかし真の愛には、単に魅力的である以上の意味があります。真の愛は信頼することであり、相手にとって最善を求めることです。無私な精神と熱意により、ときには自分を犠牲にします。つまり、必要ならば人は真の愛のために進んで自身をささげ、苦しみに耐えるのです。

フリーダ、あなたやほかの多くの人の人生は、あなたが近い将来に下す選択にかかっています。自分がだれの側に立つかをまだ決めていない人にとって正しいことを選ぶのは難しいかもしれませんが、サタンは家族を打ち砕くために絶えず働きかけていることを思い起こしてください。勇気を持って、あなたが正しいと知っていることに従ってください。永遠にかかわる神殿結婚を危うくする状況に身を置かないでください。

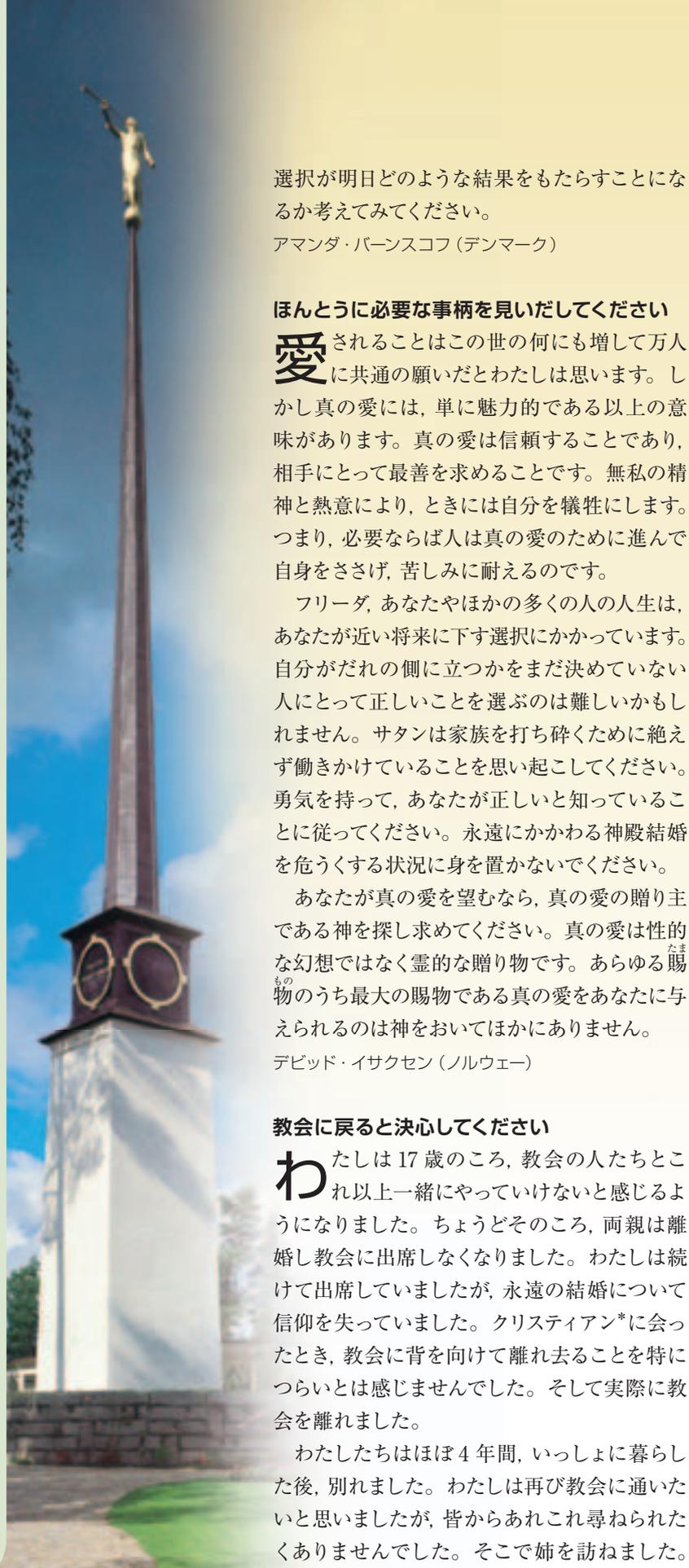
あなたが真の愛を望むなら、真の愛の贈り主である神を探し求めてください。真の愛は性的な幻想ではなく霊的な贈り物です。あらゆる賜物のうち最大の賜物である真の愛をあなたに与えられるのは神をおいてほかにありません。

デビッド・イサクセン (ノルウェー)

教会に戻ると決心してください

**わ**たしは17歳のころ、教会の人たちとこれ以上一緒にやっていけないと感じるようになりました。ちょうどそのころ、両親は離婚し教会に出席しなくなりました。わたしは続けて出席していましたが、永遠の結婚について信仰を失っていました。クリスティアン\*に会ったとき、教会に背を向けて離れ去ることを特につらいとは思いませんでした。そして実際に教会を離れました。

わたしたちはほぼ4年間、いっしょに暮らした後、別れました。わたしは再び教会に通いたいと思いましたが、皆からあれこれ尋ねられたくありませんでした。そこで姉を訪ねました。



姉が集っているワードでは、わたしがだれか、どれくらい教会を離れていたか、だれも知らなかったもので、その滞在中にわたしは再び教会に行くようになりました。自宅に帰ってからは地元のワードに通い続けました。地元での最初の日曜日、わたしは不安でたまりませんでした。皆、わたしが教会に顔を見せたことをひたすら喜んでくれました。

自分の立場を一つに決めるべきだとわたしには分かっていました。片足を主の側に置き、もう一方の足をこの世の側に置いたまま歩み続けることはできません。ビショップとの面接が始まりました。ビショップは贖いについて理解するようわたしを助けてくれました。悔い改めの道は長く、しばしば非常に困難でした。わたしは現在も悔い改めを続けていますし、まだ学ぶべきことが多くあります。けれども今は以前よりずっと幸せです。教会に戻ると決心したときに自分が正しい道を選んだと知っています。自分が正しいと感じ、知っていることに対してどう生きるか心に決め、後は決意に沿って歩み続けるだけです。

匿名

### 正しい決断を下し、堅く立ってください

以前わたしの友人は、あなたと同じ決断を迫られていました。友人のサラ\*は教会とその真実性について常に強い証を持っていました。幼いころから、サラもわたしも神殿で結婚したいという強い望みを抱いていました。

サラは17歳か18歳になったとき一人の青年と出会い、デートをするようになりました。非常に好感の持てる魅力的な人柄の青年でした。彼は教会員ではありませんでしたが、二人が付き合いを始めた当初、それが問題になるとは思いませんでした。

交際を続けるうちにサラは、その青年と結婚した場合の生活について考えるようになりました。彼とは神殿で結婚できないことを知りながら、サラはこう考えたのです。「大丈夫。お互いに歩み寄ればいいし、そのうち彼は変わるでしょう。多分、彼が福音に興味を持つよう仕向けることができるわ。」



### あなたは決して独りではありません

「標準を定めるのはわたしたちではありません。わたしたちは標準を教え、守るよう命じられているのです。結婚前の自制と結婚後の完全な貞節に関する標準は変わりません。世の中の標準からどれほど懸け離れても、嘲笑されても、多くの人が誘惑に負けても、わたしたちは屈しません。誘惑には負けないのです。……

青少年の皆さん、もし孤独を感じているなら、教会にいる何百万もの仲間のことを思い出してください。……学校にいるときも、働いたり、遊んだりするときも、軍務に就いているときも、皆さんは決して独りではありません。」

十二使徒定員会会長 ボイド・K・バックナー会長  
「真理の標準は確立された」『リアホナ』2003年11月号, 25 - 26

サラはボーイフレンドとの結婚についてよく考え、熱心に祈りました。自分がこれまで常に神殿結婚を望んできたことを心の奥底でよく分かっていたのですが、ボーイフレンドに対する感情のために、なかなか決断を下すことができませんでした。最終的に、サラはボーイフレンドと別れました。サラにとってこれまでで最もつらい決断でしたが、彼女は主を信頼することにしたのです。

2007年の春、サラはすばらしい男性と結婚しました。二人は今、この世から永遠にわたって結ばれています。神殿で結婚できる、愛する男性を見つけるまで待つと決心してほんとうに良かったとサラは思っています。

どのように決断すればよいか分からないなら、それが実際に分かるまで祈ってください。主を信頼してください。主を信頼して祈るとき、主は必ず祝福してください。このことを、サラの経験を見ていて、またわたし自身の生活を通して、わたしは知っています。

アンナ・リングレン (スウェーデン)

\*名前は変更しています

注

1. ニール・A・マックスウェル「なぜ引き延ばすのか」『聖徒の道』1975年4月号, 185

# そこが知りたい

教会が奉仕をととても重視しているのはなぜでしょうか。  
なぜ楽しむだけではいけないのでしょうか

**イ** エス・キリストの福音は同胞を助けることを強調しています。助けの必要な人に同情するだけでは不十分です。わたしたちの責任は行動することです。「御言を行う人になりなさい。……ただ聞くだけの者となつてはいけません。」(ヤコブの手紙 1:22)

救い主はこのように教えられ

機会を通じて人に仕えるとき、人を強めるだけでなく、わたしたち自身もより善い人になります。<sup>1</sup>

さらに、適切な態度で取り組み、奉仕はとても楽しいものです。あなたの才能や特技は何か、それを人の役に立てるにはどうしたらよいかを考えてみましょう。個人的に奉仕するの

適切な態度で  
取り組み、  
奉仕はとても  
楽しいものです。



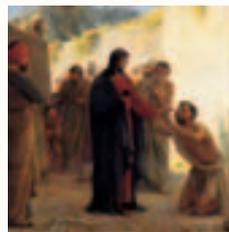
祝福師の祝福を受けたいときは、だれに話せばよいのでしょうか

**大** 管長会第二顧問のジェームズ・E・ファウスト管長(1920 - 2007年)はこのように述べています。「祝福師の祝福は、その本質と重要性を理解するに十分な力を備えた教会員に与えられる、たぐいなきすばらしい特権です。……他の多くの祝福同様、祝福師の祝福も、それを望む個人、家族からの求めがあって与えられるものです。」<sup>1</sup>

祝福師の祝福を受けるための霊的な準備ができていると感じたら、まずビショップあるいは支部会長と面接の約束を取ります。彼はあなたの準備の状態とふさわしさを判断します。準備ができていると確認できた場合、推薦状を受けます。その後、ステーク祝福師に連絡し、日程を組みます。■

注

1. ジェームズ・E・ファウスト「祝福師の祝福」『聖徒の道』1983年6月号、26



ました。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ 25:40) また、ベニヤミン王は「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである」と教えました(モーサヤ 2:17)。奉仕とは主や主の子供たちの幸福のために自分をささげることです。

奉仕は単に人を助けるだけではありません。わたしたちの霊的な成長にもつながるのです。教会の召しやそのほかの奉仕の

友達と楽しく奉仕することもできます。何人かで集まり、新しい、独創的な方法でできる奉仕について話し合みましょう。奉仕によって得られる大きな達成感にきっと驚くことでしょう。■

注

1. ディーター・F・ウクトドルフ「自分の立っている場所で持ち上げる」『リアホナ』2008年11月号、56 参照

「盲人を癒されるイエス」カール・ヘフリック・ブロック画、アンマーク・ヒレリスのフレックスボウ城内にある国家歴史美術館の許可を得て掲載

**開拓者記念日には  
どのような意味があるのでしょうか。  
世界中の教会で祝っているのでしょうか**

**開**拓者記念日は、1847年7月24日、ソルトレーク盆地に最初のモルモンの開拓者が到着したことを祝う日です。ユタ州では州の祭日になっていて、パレードなどの一連の記念行事は“Days of '47”（デイズ・オブ・フォーティーセブン）と呼ばれています。これは宗教や背景を問わず、ユタ州を築くうえで貢献したすべての人の業績をたたえる行事です。

世界各地の末日聖徒も、わたしたち全員が共有する開拓者の受け継ぎをともに祝うことができます。

どこに住んでいるかにかかわらず、7月24日は初期の末日聖徒がわたしたちのためにしてくれたことを思い起こす良い機会です。

開拓者を記念した野外劇、パレード、コンサート、手車の旅の再現などを行う地域もあれば、家族で出かけたり、個人的に開拓者に思いをはせる時間を作って過ごしたりする人もいます。どこに住んでいるか、正式な記念行事があるか、瞑想の時間を取るだけかにかかわらず、開拓者記念日は、あなたが住んでいる国で教会を強めた人も含め、初期の末日聖徒たちがわたしたちすべてのためにしてくれたことを思い起こす良い機会です。

大管長会第二顧問のディーター・F・ウークトドルフ管長はこのように語りました。「世界

に広がるこの教会の一員であること、そして預言者、聖見者、啓示者から教えを受け、高められるということは何と大きな喜び、そして特権でしょうか！……回復されたイエス・キリストの福音のメッセージが世界中で喜びをもって受け入れられている今、わたしたちは皆、自分の影響の及ぼせる範囲、また自分がいる環境の中での開拓者です。」<sup>1</sup>

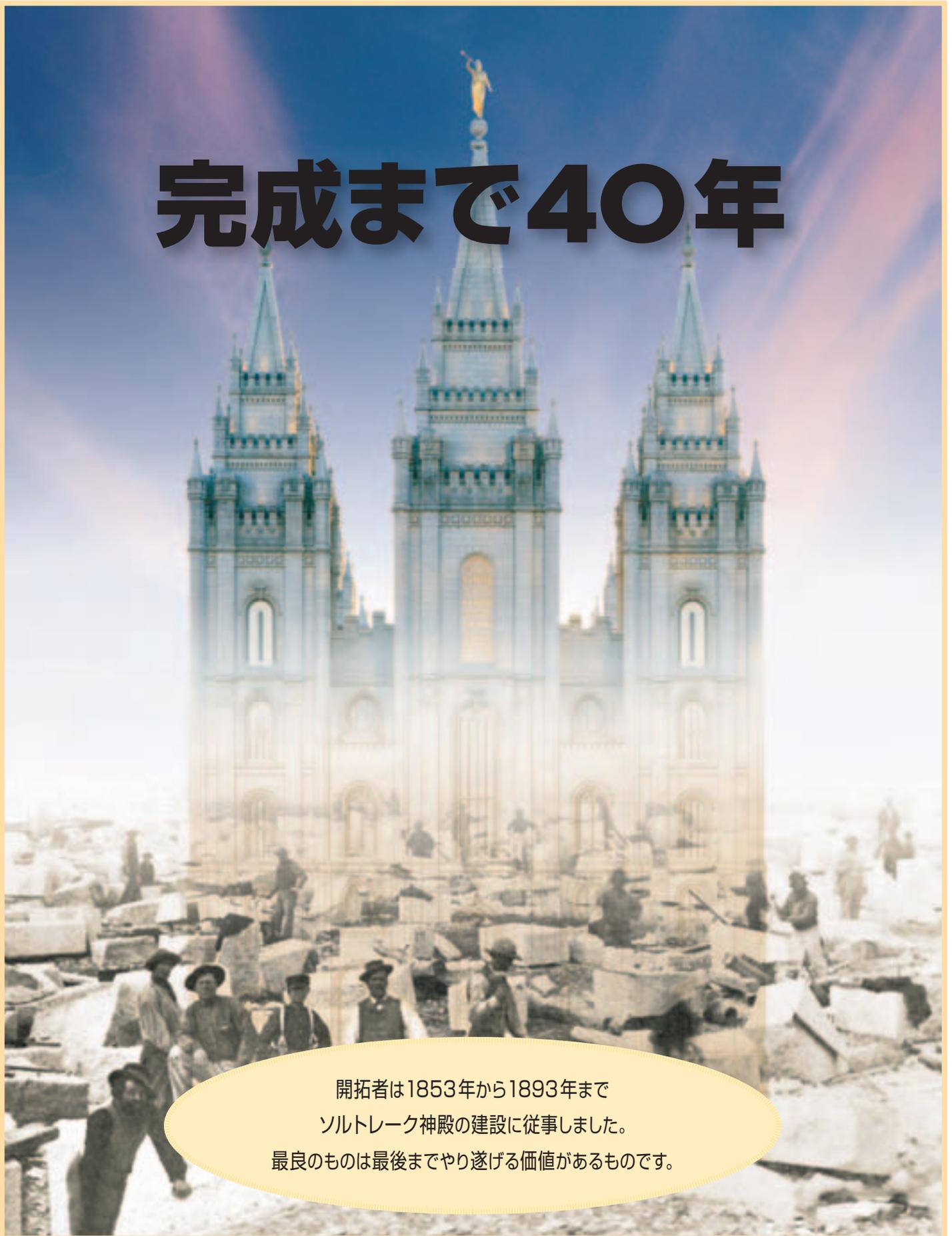
皆さんに靈感を与えた開拓者の話を [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) までお送りください。■

**注**

1. ディーター・F・ウークトドルフ「預言者の声を心に留める」『リアホナ』2008年7月号、3



# 完成まで40年



開拓者は1853年から1893年まで  
ソルトレーク神殿の建設に従事しました。  
最良のものは最後までやり遂げる価値があるものです。

# わたしたちのスペース



## 開拓者を記念して

**毎**年7月、世界中の多くの教会員が1847年7月24日にソルトレーク盆地に入植した開拓者の功績をたたえます。ある若い女性が以下のような経験談を分かち合ってくれました。

アナリー・Bという名のその若い女性は、合衆国バージニア州バークに住んでいます。「時々、わたしのワードでは開拓者の活動をします。皆で開拓者の衣装を着て『旅』に出るのです（実際かなりの道のりを歩きます）。開拓者について話したり、開拓者がしていたゲームをしたりします。バージニアの夏は蒸し暑いし、活動はいつも外でするので、開拓者のような気分になります。

個人的には、教会歴史についての本をいつも読んでいます。本を読むことで開拓者への感謝が深まり、彼らが経験した事柄をよく理解できるようになります。」

あなたが住んでいる地域では、過去や現在の教会の開拓者をどのように記念していますか。ここで言う開拓者とは、ほかの人に先駆けて道を切り開いた人を指しています。



## わたしの好きな聖句

### 第2ニーファイ第32

### 章5節は初等協会の

ときから大好きな聖句です。ここには聖霊の賜物を受けた後にすべきことが書かれているからです。聖霊の賜物を受け、それにふさわしくあって初めて、聖霊が正しい道に導いてくださるのです。

ピーチズ・C, 16歳  
(西インド諸島, トリニダード)



「まことに、季節に応じて地から生じるすべてのものは、人の益と利用のため、目を楽しませ、心を喜ばせるために造られている。」

(教義と聖約 59 : 18)

## 証を得る方法

**証**は教会員として生活するうえでとても重要な役割を持っています。証を得るにはモロナイの勧めを実行する必要があります。まず真実かどうか知りたい事柄や原則について深く考えます。次にそれが正しいかどうかイエスキリストの御名を通して神に尋ねます。この手順を踏み信仰をもって尋ねる人は、聖霊の力によって真理の証を得ます(モロナイ 10 : 3-5 参照)。信仰を込めて一生懸命心から祈るなら、天の御父は祈りにこたえてくださるでしょう。

求道者だったとき、学んでいたことが全部真実かどうか天の御父に祈って尋ねてみようかと決心しました。そのとき受けた気持ちは、一生かけても言葉で言い尽くすことはできないでしょう。しかし、その答えを通してたくさんの祝福を受けたので、それが天の御父の答えだったことを知っています。

ジョルディ・R, 18歳  
(ドミニカ共和国, サントドミンゴ)

右—開拓者の旅の手持り行書の写真、ウエルテン・C・アンダーセン。自然の写真、ディアンナ・ハン・カンベン

# 徐々に知る

ソニア・パディーヤ-ロメロ



福音の教義を学んでも  
困難な状況は  
変わりませんでした、  
幸福感は増していきました。

14歳のとき、末日聖徒の宣教師がわが家に来て母とわたしに福音を教えてくださいました。間もなくしてバプテスマを受けるように勧められました。母は断りましたがわたしは受けました。今思えばほんとうに改心できていたのかわかりません。多くの10代の青少年と同じように変わったことをしたかっただけではないかと思います。

それから1年間、わたしは一人で教会に通いました。周りに溶け込めず、教えられていることもあまりわかりませんでした、活発に出席していました。そのさらに1年後、わたしは家を離れてメキシコシティにある教会の高校に通いました。初めて高校を見学したときにとっても気に入って、入学できるよう（そして両親に許可してもらえるよう）頑張りました。しかしいざ独り暮らしをしてみると楽ではないことがわかりました。わたしはまだ証あかしを持っていませんでした。ジョセフ・ミスがどんな人で、モルモン書が何を教えているか、あまりわかりませんでした。何よりも自分の居場所を見つけ

られずにいました。

もちろん両親には言いませんでした。この学校に行かせてもらえるよう、多くの時間をかけて説得したからです。今さら、やっぱり合わなかったなどと言えるはずがありません。プライドがじゃまして独り心の中で苦しみました。

両親が離婚するという知らせを受け、わたしはますます悩みました。まるで自分の世界が全部崩れ落ちていくようでした。

そんなときビショップがわたしに声をかけてくれ、調子はどうかと聞いてきました。わたしは悩みや悲しみを




---

**新会員のときに学んだのは、  
福音の教えを全部理解できなくても  
問題ないということです。**

**救い主がわたしの罪を  
あがな  
贖ってくださったこと、  
だれも理解してくれなくても  
主がわたしを完全に理解してくださる  
ということを理解することが  
大切なのです。**

---

全部打ち明けました。「何もかも分からなくなっていました」とわたしは言いました。

優しいビショップは福音について教え始めました。まず、天の御父と真に交わる方法について一緒に話し合いました。それから贖いについて話しました。あがなビショップが福音の真理を教えてくれたおかげで、わたしは生まれて初めて自分に証があると実感できました。揺れ動いていたその時期にしっかりとすがれるものがあってうれしかったです。家族を助けることについては自分の無力さを感じるばかりですが、天の御父に近づくことによって幸福な気持ちになれました。

御父がわたしを御存じであると分かり、すべてが変わりました。

新しい会員がわたしのように教会になじめないと感じるのはごく普通のことかもしれません。わたしが学んだのは、福音の教えを全部理解できなくても問題ないということです。大切なのは、天の御父との関係を理解し、御父がわたしの人生に目的と計画を用意しておられるということを理解することです。救い主がわたしの罪を贖ってくださったこと、だれも理解してくれなくても主がわたしを完全に理解してくださっているということを理解することが大切なのです。これらの教義を知ってからは、ほかのことも落ち着いてきました。

ビショップの愛と忍耐強い教えのおかげで、高校時代は人生の中で前

向きな時期となりました。教会の高校に通ったことで、わたしは自分が何者であり、わたしの人生はどのようなものになり得るかについて見方が変わりました。卒業後、わたしはメキシコシティにとどまりました。住む場所が見つかった後に最初にしたことは地元のワードを見つけることでした。わたしの避け所、すなわち福音の中で成長できる場所を持ち続けられるようにするためです。

それから程なくして、わたしはソルトレーク・シティのテンプルスクウェアで伝道しました。人生の波乱に満ちた時期に、確固とした土台を与えてくれた真理を人に分かち合うことに大きな喜びを感じました。

教会員であることに感謝しています。天の御父が一人一人を見守っておられること、わたしたちのために計画をお持ちであることを知っています。わたしの人生で主の計画が展開されていくのを目にするのは大きな祝福です。■

# 万事 うまくいきます



七十人  
エリック・W・  
コビシュカ長老

主を信じ、信頼しなさい。  
そうすれば主は  
必要なものを与えてくださいます。

**わ** たしはドイツで生まれ、教会員だった両親は善良で思いやりのある人でした。第二次世界大戦中、父は10歳のときに、今はポーランド領となっているシュテッティンで、友達を通して福音を知りました。戦時下のシュテッティンには宣教師は一人もいませんでした。福音を受け入れた父は家族に福音を伝えて改宗へと導きました。その後、東ドイツに住んでいた母と出会いましたが、そこにも宣教師はいなかったため、父は母に福音を教え、母も福音を受け入れました。結婚してわたしが生まれる少し前に、二人は西ドイツに移り住みました。

当時ドイツにいた教会員は少なく、学校ではわたしだけでした。子供のころに、神が生きておられること、そして、これが神の真の教会であるという強い証あかしを持ちました。福音が真実であることを疑ったことは一度もありません。その証を持ち続けたので、青少年の時期を活発な教会員として過ごすことができました。

## 教会から離れることへの恐れ

わたしには同じ年頃の友達が二人いて、二人とも活発な教会員でした。二人は兄弟で、わたしたちは一緒に成長しました。しかし25キロほど離れたところに住んでいたため、会える

のは日曜日の神権会と若い男性の活動のときだけでした。1週間に1度しか会えなかったにもかかわらず、互いに良い友達だったので、わたしたち3人はずっと教会で活発に過ごすことができました。

その後、年上の多くの青少年が教会にあまり来なくなったことに気がついて、自分もいつか証をなくしてしまうのではないかという強い恐怖を覚えるようになりました。そのころドイツの教会には、ほんのわずかな青少年しかいなかったため、だれかが来なくなればすぐに分かったのです。わたしの両親もそのことを恐れていました。それまで、あらゆることを犠牲にして宗教的に自由な環境で子供たちを育ててきた両親は、「エリックを失わないために何ができるだろうか」と考えました。

わたしが14歳のころのある日、家族で車に乗って教会から帰る途中のことです。わたしたちは、また数人の青少年が教会に背を向けてしまったことを知っていました。わたしは両親に言いました。「21歳になるまでは、ほくを教会に引っ張って連れて行ってほしいんだ。その後は、自分のことは自分でするから。」わたしはほんとうにそう言ったのです。そのときのことについて母は繰り返し話してくれました。

## 教育に関する決断

そのような不安があったので、わたしが10歳くらいで小学生だったときに、両親はある決断をしたのです。ドイツでは、高等教育への道は子供の時期に始まります。しかし、高





セミナーや  
インスティテュートのクラスで、  
「自分の名前を入れて  
この聖句を読んでごらん」と  
教師はよく言いました。  
そうすると、自分がまるで  
ニーファイやヒラマン、  
モロナイになったように  
聖文を読めることを発見しました。

### わたしが受けた高等教育

もう一つ、青少年時代のわたしの信仰を強く保つ助けになったのがセミナーです。ドイツにセミナーが導入されたのは、1972年、わたしが14歳のときでした。セミナーはわたしの人生にほんとうに大きな影響をもたらしました。わたしに強い印象を残し、良い影響を与えてくれたセミナー教師のことを今でも覚えています。

青少年のときのセミナーでの経験と個人の聖文研究のおかげで、聖文がとても好きになりました。研究によってわたしの証は強められました。そして、セミナーとインスティテュートの授業を愛する気持ちは今でも変わりません。わたしは、ドイツにおける最初の早朝セミナーで一つのクラスを教えました。すばらしいクラスでした。若い人たちは心から楽しみ、毎朝出

席してくれました。その中の何人かは、かなり遠くから通っていました。そのクラスに出席していた若い男性の全員が伝道に出て、若い男性も若い女性も、そのほとんどが今でも活発に教会に集っています。

自分がどのように証を得たか、何にいちばん良い印象を持ったかを考えてみると、それは、セミナーとインスティテュートの授業だったと心から言うことができます。それは、聖典から、友人たちと一緒に、そして敬愛する教師から、福音の原則と教義を学ぶ場でした。

聖文を研究するときに実践するべき最善の事柄の中に、聖文を自分自身に当てはめるといふことがあります。「自分の名前を入れてこの聖句を読んでごらん」と教師はよく言いました。そうすると、自分がまるでニーファイやヒラ

マン、モロナイになったように聖文を読めることを発見しました。聖文を読んでいるときに、心の中の情景が一変しました。まるで夢のように、突然、そのときに読んでいる人物と同じ立場に自分自身がいるように思えたのです。

聖文のおかげで、わたしは信仰とは現実のものであることが分かりました。信仰とは、聖文について単に理論的に知ることではありません。信仰とは、わたしたちと現実の主を結びつけてくれるものなのです。これが、わたしが青少年のときにセミナーで得たことなのです。わたしには確かな信仰があります。それは、主から何らかの割り当てを受けるとき、わたしたちは「行って……行〔う〕」（1ニーファイ3：7）ことができ、主はそれを成し遂げるために必要なものを備えてくださるという信仰です。

## 聖文からの力

青少年のわたしにとって大きな助けとなった聖句は、ヨシュア記第1章6節から9節です。「強く、また雄々しくあれ。……律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲<sup>まが</sup>ってはならない。……そうするならば、あなたの道は栄え〔る〕。」

若い男性だったわたしはこう考えました。「主から何か割り当てを頂いたら、右にも左にも曲がることはしない。」その結果として、何度か良い経験をしました。たとえば、仕事の研修期間中のある日、教会の集会に行かなければならなくなりましたが、わたしには郵便物を扱う責任がありました。わたしとほかの研修社員たちがこの仕事をするときは、1時間残業するのが常でした。しかし、教会の集会に間に合うためには、午後5時半の電車でハンブルクに行かなければならないのです。同僚に窮地に陥っていることを話すと、彼らは「幸運を祈るよ。無理だと思うけど」と言いました。

「いや、絶対大丈夫さ。これは重要な集会なんだから」とわたしが言うと、彼らは肩をすくめ、皮肉をこめて言いました。「そうだろうよ。君は信仰深いからな。信仰が篤<sup>あつ</sup>ければ万事うまくいくって、君は思っているわけだろ。でもそのためには、5時10分前には郵便物の処理を終わらせなきゃいけない。これまでそんなこと、一度もできたためしがないじゃないか。」そこでわたしは言いました。「心配してもしょうがない。とにかくぼくは今夜、時間どおりにハンブルクに行かなければならないんだ。」

さて信じようと信じまいと、3年の勤務の中で最初にして最後の出来事とその日に起きました。5時10分前

にすべてが終了し、わたしは電車に間に合ったのです。同僚の研修社員たちは驚き、そのおかげで彼らと福音について話すことができました。

主が割り当てをお与えになるとき、わたしたちが「右にも左にも曲」がらずにそれを行おうとするならば、結局うまくいくという完全な信頼と信仰がわたしにはあります。その日わたしは、郵便物の処理が早く終わるということを知りませんでした。そのようなことについて、いつも事前に分かるとは限りません。主に対して「それはこのようにして起こるべきです」と言うこともできません。しかし、主への信仰と信頼があれば、うまくいくことが多いのです。

聖文の研究と両親の模範は、まだ青少年だったわたしに非常に大切なものを与えてくれました。それは、日々の生活の中で主がわたしを助け、祝福してくださるという強い信仰を早くも助けとなったのです。■



## 伝道はあなたの道を見通しよくしてくれます

**若**い男性ができるもっとも重要なことの中に、伝道に出る準備をすることがあります。霊的、肉体的、教育的な面で準備が大切です。熱心に聖文を研究してください。セミナーやインスティテュートの助けを借りて毎日聖文研究を行ってください。そして伝道に出て、できる限り最善を尽くして行動し、最高の自分になってください。

皆さんは伝道の経験が自分にとって最高の教育であることを理解するようになるでしょう。伝道とは、家庭で、教会で、そしてセミナーやインスティテュートで学んだ善いことのすべてを実践する方法です。それを望む若い男性、若い女性の皆さんが伝道に備え、宣教師として奉仕するなら、皆さんの歩む人生は見通しのよいものとなるでしょう。わたしの息子たち、娘たち、教会の青少年の皆さんに望むことは、皆さんが適切な年齢に達したときに、伝道に出るにふさわしくあるように、そして、その機会を心からつかみ、大いなるものとしてほしいということです。

わたしが皆さんすべてとわたし自身の子供たちのために望んでいるのは、皆さんが主に対して大きな信仰と信頼を抱くようになり、その結果、皆さんに対する主の驚くべき約束が成就するようになることです。わたしは、主が皆さんにお与えになる経験や課題や祝福は、主が皆さんの益になると御存じのものばかりであるということを知っています。わたしたちが主を大いに信仰し信頼するならば、主が養<sup>あかし</sup>ってくださるという確かな証が、わたしにはあります。

七十人 エリック・W・コビシカ長老



# 永遠の家族

ユアンシー・キバルーに初めて会ったとき、彼女は満面の笑顔を浮かべていました。しかし、座った途端に深刻そうな口調になったので、この愛想のいい16歳の少女はどんな話をするのだろうかと思いました。「神殿についてお話をしたと思います」と彼女は言いました。

ユアンシーはトンガ出身です。トンガは島国で、高くそびえるココヤシの木や堂々としたバナナの木、広大なタロイモ畑が広がっています。島で見たほとんどの青少年は人生に満足し、ユアンシーがついさっきまで見せてくれたようなすてきな笑顔を見せてくれます。彼女と同じ年代の青少年はダンスや歌、ネットボール（訳注——女性用バスケットボール）をしたり、家族と時間を過ごしたりするのが好きです。普段はみんな陽気な若者たちです。しかしユアンシーの深刻さは、つかみどころのない深い感情と混ざり合っていたので、わたしは驚いてしまいました。

「神殿について話したいと思います。」彼女は繰り返しました。

「小さいころから」と、ユアンシーは話し始めました。「わたしときょうだいは教会員でした。日曜日は毎週母と一緒に教会に行きました。神殿が大好きで、青少年の活動で死者のためのパプテスマに行くのが好きでした。神殿に行くとき御霊を感じました。でも、父は教会に来ませんでした。」



最初は悲劇だと  
思っていたことが、  
やがて  
ユアンシーの  
家族を  
神殿に導くこと  
になったのです。

ユアンシーの声は震え始めました。メモ帳から彼女に視線を移すと、目には涙が浮かんでいました。

「ある日、弟のアレキシオがおしりに傷ができ、そこから感染症にかかってしまいました。」彼女は続けました。「しばらく良くなった時期もありました。そのころ父は教会に戻って来ました。でも、しばらくしてまた離れていってしまいました。」

涙はユアンシーの頬を伝っていました。差し出したティッシュはすぐにびしょびしょになりました。止まらない涙をぬぐおうとして、それでもぬれてしまいました。

「弟の病気は悪化し、そのまま死んでしまいました。まだ12歳でした。」

ユアンシーは自分の感情にのみ込まれ、しばらく黙り込んでいました。わたしは彼女がなぜあれほど深刻そうにしていたのか理解しました。この若い女性は人生の中で大きな悲劇を経験していたのです。しかしそれでも、彼女の目には希望の光が輝いていました。

「その後、」彼女はまた話し始めました。「父はついに教会に戻る決意をしました。初め、それは父にとって難しいことでした。ビショップや指導者、親戚、そしてわたしたち家族は、家族がまた一緒になり、弟にまた会うための唯一の方法は神殿で結び固めをすることだと言って父を励ました。」

「弟が亡くなってからわたしたちは苦しみと



### 神殿で得る平安

「神殿に参入するのにふさわしい人、また参入が可能な人は、頻繁に参入するようお勧めします。神殿は平安を見いだす場所です。神殿で、わたしたちは福音に献身する気持ちを新たに、戒めを守る決意を強めることができます。」

トーマス・S・モンソン大管長  
「また逢う日まで」  
『リアホナ』2009年5月号, 113

闘っていました。」ユアンシーは続けました。「しかし両親は一生懸命努め、儀式を受けました。そしてついに2008年10月10日、アレキシオが亡くなってちょうど1年がたった日に、わたしたちは神殿で結び固めを受けました。弟が立つべき所にはビショップが代わりに立っていました。わたしは今まで感じたことのない、言葉にならない気持ちを感じました。」

ユアンシーの涙は悲しみの涙ではなく、喜びの涙となっていました。家族と一緒に主の宮に行き、神殿で結び固めを受け、それがどういう意味を持つか知っていたのです。家族が聖約に従って生活するならば、永遠に一緒にいられるのです。

ユアンシーについて考えるとき、リアホナ高校のキャンパスを歩いている彼女の姿が思い浮かびます。リアホナ高校は教会がトンガで所有する学校で、神殿の近くにあります。ユアンシーが歩きながら神殿の尖塔を見上げると、天使モロナイの像が太陽の光できらきらと輝いています。目には涙がまた浮かんでいますが、顔はにこやかです。アレキシオにまた会えると知っているからです。■

# 「絶対にはだめだ」

「あなたがたの中のだれかがぶどう酒や強い飲みものを飲むならば、  
見よ、それはあなたがたの父の目に良いとされず、父の目になわなない。」  
(教義と聖約 89 : 5)

トルーマン・E・ベンソン  
証言をもとに書かれました。

**親**友のチェイスはどんなことでもする人だと思っていました。玄関の階段のいちばん上から飛び降りるとけしかけると、ほんとうにそうするだけでなく、助走までつけてやるのです。

宙返りするジェットコースターに乗ってみると言う、ただ乗るだけではなく、いちばん前の席に乗ります。

そして学校でいちばんかわいい女の子、ジュリアにあいさつするのはできないだろうと言うと、ただあいさつするだけではなく、すわって5分間話をしました。

チェイスは何でもやると思っていました。今日のことがあるまでは。

チェイスはほとんど毎日うちに遊びに来ます。家がとても近く、間に1けんはさんだとなり同士です。でも、チェイスは日曜日と月曜日は遊びに来ません。日曜日は教会に行っています。月曜日は夜、家族と一緒に過ごしているみたいです。多くのことも何回かさそてくれました。ブラウニーを食べたり、ゲームをしたりしてけっこう楽しかったです。

チェイスは普段、学校が終わると遊びに来ます。その時間はお父さんもお母さんもまだ仕事に行ってい

るので、来てくれるとうれしいです。チェイスと遊ぶのは楽しいです。冗談を言ったりするのも大好きです。チェイスはだれとも仲良しです。ほかの人の悪口を言うのを聞いたことがありません。周りのみんなが人の悪口を言っている、チェイスは人の悪口は言わないのです。

今日はチェイスと一緒にバスケットボールをしていました。けっこう暑い日だったので、チェイスに何か飲み物はほらないかと聞きました。

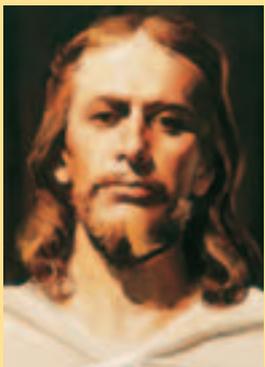
「もちろん」とチェイスは言い、ボールをしばふに転がして玄関の方に走って行きました。

ぼくたちは家に入り台所に行きました。冷蔵庫を開けると冷たい空気が勢いよく流れ出て、うでに鳥肌が立ちました。冷蔵庫をのぞくと、最初にジュースと牛乳が目に入りました。それから、冷蔵庫のすみにあった、

ふたの開いた  
かんに目が  
きました。

お父さんがビールを開けたままにしていた





「主はあなたの体を大切に使うように命じられました。そうするためには知恵の言葉を守らなければなりません。」

『若人の強さのために』, 36

のです。ちょっと飲んでもお父さんは分からないでしょう。ぼくはかんを取り出しました。

「ちょっと飲んでみる？」 ぼくは聞きました。

「それ何？」 チェイスは聞きました。

「ビールだよ。」 ぼくは言いました。

「お父さんがいつも飲んでいるんだ。ちょっと飲んだだけなら分からないさ。」

チェイスはぼくを見ると、まゆげをつり上げ、手をこしに当てました。そして思いもよらないことを言ったのです。

「絶対にだめだ！」 チェイスは言いました。

「今、だめって言った？」 ぼくは聞きました。

「ビールは体に良くないよ。」 チェイスは言いました。「飲んじゃだめだ。飲んだらおかしいことをしてしまう。」

「一口だけなら平気さ。」 ぼくは言いました。「ほら、見てろよ。」

ぼくはかんを口にもっていき、ちよつとすすってにっこりして見せました。まずかったです。かっこ悪いところは見せたくありませんでした。

「ほら？ おかしくなったように見えるかい？」 ぼくは聞きました。

「ぼくはもう家に帰るよ」とチェイスは言いました。「もうそんなものを飲むんじゃないよ。良いことじゃないよ。」

チェイスがドアを出て自分の家に向かって歩道を走って行くのを見て、ほとんど何でもするのに、どうしてビールは一口も飲まないのか不思議で仕方ありませんでした。

チェイスが帰った後、ビールをもう一口飲みました。「うわっ、ほんとうにまずいな。」 ぼくは冷蔵庫のすみにかんをもどしながらそう思いました。

チェイスが言ったことは、今思うと正しかったのかもしれませんが。■

# わたしを助けて、導いて

アン・メット・ハウランド

実話をもとに書かれました。

10才のころ、わたしの家族はデンマークからカナダに引っこしました。カナダに住んで間もないころのことです。新しい家の向かいに住んでいた二人の女の子がわたしと12才のお兄さんのポールをさそって、バスに乗って街を見に行こうと言いました。

ポールとわたしは行くのを楽しみにしていました。お母さんはあまり賛成していませんでしたが、最後には行くのを許してくれ、二人の女の子にわたしたちの分のバスの運賃をわたしました。お兄さんとわたしは英語がまだ話せなかったので、お母さんは二人にわたしたちの面倒を見るように言いました。二人はちゃんとそうすると約束しました。

わたしたちはみんなバスに乗り、出発しました。しばらくしてバスが止まったとき、二人の女の子は降りるように合図しました。そしてわたしたちは二人について行き、街を歩き始めました。

すると突然二人の女の子は別々の方向に走り始めたのです。ついて行こうとしましたが、見慣れない曲がり角へと姿を消してしまいました。最初、わたしたちをからかっているだけで、すぐにもどって来ると思っていました。でも、しばらくしてわたしたちは迷い、取り残されているこ

とに気づきました。「だれかに道を聞いた方がいいかしら？」わたしはポールに聞きました。「英語もしゃべれないし、家の住所も知らないよ。」ポールは答えました。「お母さんに電話しよう。」わたしは近くの電話ボックスを指して言いました。



中央若い女性会長 イレイン・S・ダルトン  
「信じましょう！」  
『リアホナ』2004年5月号, 110

「自分を信じましょう。決して独りではないことを信じましょう。常に導かれていることを信じましょう。」

「お金もないし、電話番号も知らないよ。」ポールは言いました。

わたしは泣き始めました。ポールはわたしをだくようにしてうでを回しました。「落ち着いて、アン・メット。おいのりしよう。」

わたしたちは身を寄せて、家に戻る道が見つかるように天のお父様においのりしました。

おいのりした後、ポールは一つの道の方を指しました。「こっちに行くべきだと思う。」

わたしはまた泣き始めました。どうしてどの道を行ったらいいのかが

わかるのでしょうか。

ポールはわたしをまたはげまして言いました。「導きがあるという信仰を持たなくちゃいけないよ。」

そう言われたとき、平安な気持ちがありました。信仰を持って、お兄さんの導きについて行く必要があると感じました。

ずっと歩いていると、池にたどり着きました。「この池、覚えてる？」ポールは聞きました。「空港から新しい家に行ったとき、車で通った所だよ！」

お兄さんの声が明るくなっているのを聞いて、気持ちが楽になりました。池のそばにすわると、わたしたちはまたおいのりしました。

突然、ポールは遠くを見てさげびました。「あれ見える？」そして立って走り出したので、わたしも急いで立ち上がり、ついて行きました。

「何があるの？」わたしは言いました。

「家の近くにあるコインランドリーの看板だよ！」

看板を目指して行き、家の前の通りまで来ると、すぐに家のお母さんが立っているのが見えました。わたしたちは走って行き、お母さんにだきつきました。

家に入るとお母さんはこう言いま

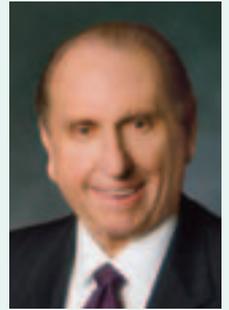


した。「二人の女の子が家に帰って来たとき、あなたたちがどこにいるか聞きに行ったのよ。向こうのお母さんはあんまり親切ではなかったわ。あなたたちは外国人なんだから、前にいた所に帰るべきだと言われたのよ。」

お母さんはわたしたちにうでを回し、だきめました。「ここにいるみんながそういう風にも思っているわけではないのよ。わたしたちを温かくむかえ入れて、友達になってくれる人もきっといるわ。今日、あの女の子たちはあなたたちのことを置いて行ったけれど、天のお父様は絶対にあなたたちをお見捨てにならないということを覚えていてくれてうれしいわ。」

わたしたちはひざまずき、天のお父様に無事に家まで導いてくださったことを感謝しました。■

# 預言者の約束



トーマス・S・モンソン大管長

**18** 48年の春、高祖母の  
チャールズ・ステューア  
ト・ミラーとメアリー・  
マクゴワン・ミラーはスコットランド  
の家を後にして、聖徒たちと  
もにミズーリ州セントルイス  
を目指し、1849年に同地  
に到着しました。

ミラー家がソルトレー  
ク盆地までの旅費をた  
くわえるためにセントル  
イスで働いていたと  
き、地域一帯にコレラ  
が大流行しました。  
2週間で家族の4人  
がなくなってしまいま  
した。当時13才だっ  
た曾祖母のマーガレット  
をふくむ子供たちは孤児  
となっていました。

ミラー家の残された9人の  
子供は両親やきょうだい果たせな  
かった旅を続けるために働き、お金  
をためました。1850年の春に4頭  
の牛と1台の荷車とともにセントル  
イスを出発し、その年のうちにソルト  
レーク盆地に到着しました。

ほかの先祖も同様の困難に直面  
しました。しかし、かれらのあかし



は固く確固として、ゆるぎませんで  
した。わたしは先祖全員からイエス・  
キリストの福音に完全に従うという  
遺産を受けつぎました。

神は確かに生きておられるこ  
とを、全身全霊であかし、  
宣言します。イエスはお

ん子であり、肉における  
おん父の独り子です。

おん子はあがない主  
であり、おん父との間  
をとり成してください  
ます。主はわたした  
ちが完全に理解でき  
ないほどの愛をもって  
わたしたちを愛してお  
られます。主はわたした  
ちを愛しておられるので、  
わたしたちのために命を

ささげられました。わたし  
は言葉に表せないほどの感謝  
を主に感じています。

わたしは自分の命と力をもって、  
主に仕え、主のみこころと靈感に  
従って教会のあらゆることを導くこ  
とを約束します。■

このお話は2008年4月の総大会での説教をもと  
に書かれました。

## 信仰という遺産

遺産とは、先祖から受けついだ価値のあ  
るおくり物のことです。モンソン大管  
長の高祖母であるチャールズ・ミラーとメ  
アリー・ミラーは、モンソン大管長にイエス・  
キリストの福音に対するあかしという遺産を  
残しました。お話に出てきた言葉を使って空  
欄をうめてみましょう。

ミラー一家は\_\_\_\_\_年に長い旅を始め  
ました。

旅を最後まで続けるためにセント\_\_\_\_\_  
で働いてお金をかせぎました。

\_\_\_\_\_が\_\_\_\_\_してたくさ  
んの人がなくなりました。

両親と二人のきょうだいなくなった後、  
ミラー家の\_\_\_\_\_人の子供たちは旅を続  
けました。

かれらには、\_\_\_\_\_頭の牛と\_\_\_\_\_台  
の荷車がありました。

モンソン大管長の曾祖母のマーガレットは  
\_\_\_\_\_才でした。

かれらは、\_\_\_\_\_州のセントルイスを  
出発し、ソルトレーク\_\_\_\_\_に着きました。

モンソン大管長は「わたしは自分の\_\_\_\_\_  
と力をもって、主に仕えることを約束  
します」と言いました。

こんにち かいたくしゃ  
今日の開拓者

**開**拓者はどこかに初めて行ったり、何かを初めてやったりして、ほかの人が後に続いて行けるように道を示す人のことです。知っている人や家族のだからで、現代の開拓者だと思ふ人の絵をかいてください。



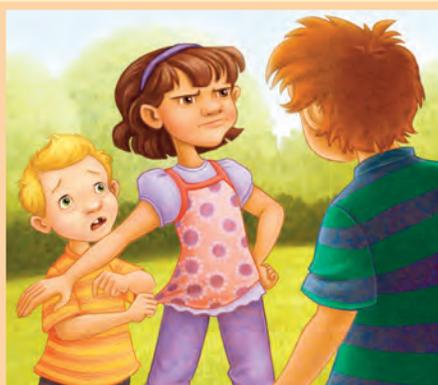
かぞく わか  
家族と別れて



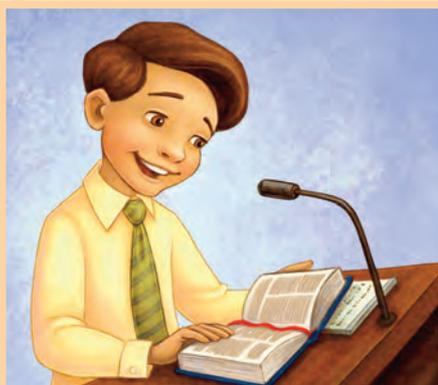
たび  
つらい旅



しなくてもなれる  
かいたくしゃ  
開拓者に



ゆうき  
勇気と

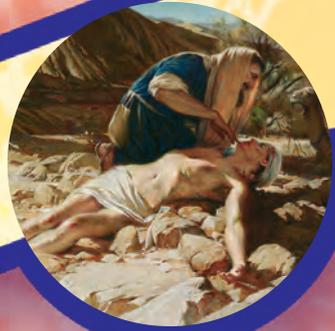
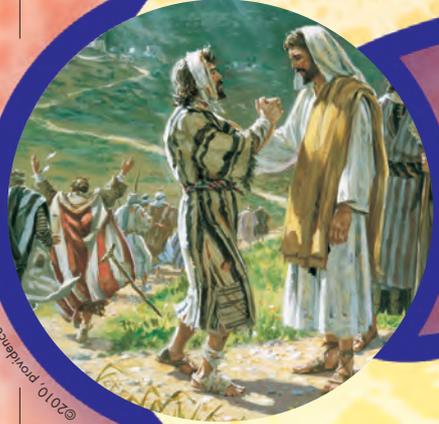
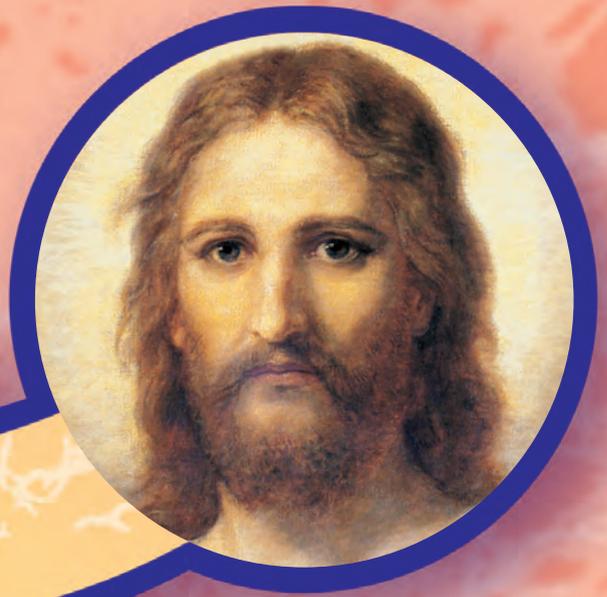


しんこうも つづ  
信仰持ち続け



せいぎまも  
正義守ればなれる  
かいたくしゃ  
開拓者に

「開拓者になろう」『子供の歌集』, 138 - 139



イエス・キリストの もはんに したがうために、  
\_\_\_\_\_と なかよくします。



イエス・キリストの もはんに したがうために、  
\_\_\_\_\_をして、 きょうだいを たすけます。



イエス・キリストの もはんに したがうために、 \_\_\_\_\_について  
天のお父さまに かんしゃの おいのりを します。



イエス・キリストの もはんに したがうために、  
\_\_\_\_\_をします。

©2010 pixta.com, 画像番号 9773



# わたしは イエス・キリストの もはんに したがうことが できます。

サンドラ・タナー、クリスティーナ・フランコ

**イ**エス・キリストは「わたしに したがって来なさい」と 言われま した。 イエスさまが 行われたよ うに することによって、 イエスさまに したがうことが できます。 左ページの 絵は、 どのようにして イエスさまに しんこうを も てばよいか イエスさまが 教えてくださった ほうほうです。 イエスさまは、 しゆくふくに かんしゃすることが 大切であると 教えられ ました。 また 子どもたちを ご自分の ま わりに あつめて、 ともにすごし、 教えられま した。 イエスさまは、 いっしょにいる人びとに あいを しめされ、 わたしたちに となり人を あいするよ うに 言われました。 よいサマリヤ 人の たとえを つかって、 イエスさまは 人を あいすることについて 教えられました。

あるたび人が だろほうに おそわれ、 今 にも しにそうなままで おきざりにされていま した。 さいしも レビ人も、 きずついた人を見 かけましたが、 たすけようとしな いで どちらも 通りすぎて 行きました。 さいごに やって来た サマリヤ人は 立ちどまって その人を たすけ て、 けがの 手当てをし、 やどに つれて行きました。 そして やど のしゆくじんに お金を わたし、 せわをしてくれるよ うに たのんだの です(ルカ10:30-37を 見ましょ う)。 この話は、 となり人を あいす るという いましめに したがうこと はどうい うことかを 教えてく れていま す。



## 2010年7月 せいぶん日記

ルカ18:22を 読みましょ う。

どのようにすれば イエスさまに したがうことが できるかが 分かるよ うに 天のお父さまに いのりましょ う。

ルカ18:22を あんきましょ う。

下の かつどうの 一つか、 自分で 考えた かつどうを 行いましょ う。

- ほかの人が ルカ18:22を あんきで きるよ うに たすけましょ う。
  - 64ページの かつどうを しましょ う。 足あとを 切りぬいてく ださい。 イエス・キリストの もはんにしたがって 何かを したとき、 そのことを 線の上 に 書いてから、 足あとを 道にはりましょ う。
  - 体が ふじゆうな人や ひとりぼっち の人と 友だちになりましょ う。 イエスさまの もはんに ついて 考える と 自分が 何をしたらよいか 分 かります。 その人の ところ に 行って、 いっしょにいてあげたり、 は げましたり、 お手つだいすることもで きます。
- 自分で えらんだ かつどうを す ることによ って、 この せいくを もつ とよく りかいできましたか。
- 自分がした かつどうについて、 日記に 文か 絵をかきましょ う。 ■

左 上から「イエス・キリストの絵」ハイリッヒ・ホルマン画、C「ハリソン・コンロイ社の厚紙に切り抜かれた」ジョン・ステイヤー画、横書きを添った「さいせきりや人ウォルター・レー」画、教員生指導の厚紙に切り抜かれた「ケリー・L・カン画、横書きを添った」画、右「絵」ジェームス・ジョンソン

# かいたくしゃのパラソル

「じあいは キリストの じゅんすいな あいであって、 とこしえに つづく。」(モロナイ7:47)

マーリ・ウォーカー

じつわをもとに書かれました。

「サラ、サラ、おきなさい！  
しゅっぱつする 時間よ。」  
5才の クリステアーナ・

ラーセンは、妹に 声を かけました。

3才の サラは、もぞもぞしながら 目を あけました。

「でも、お外は まだくらいじゃない。」サラは ねむそうに つぶやきました。

「そうだけど、ママが 早く 家を出ないといけないって 言ってるわ。もうすぐ アメリカ行きの 船が出るんだって。」

ラーセン一家は、デンマークで 教会いんに なりました。これから 一家は 長い たびをして、ソルトレークぼん地にいる せいとたちの ところに 行こうとしていたのです。

クリステアーナは サラの きがえを 手つだってあげました。それから、いごこちのよい 自分たちの しんしつを さいごに もう一ど 見回したとき、二人の おさない 少女たちの 目には なみだが あふれそうになりました。これから しばらくの間、ほんものの ベッドで ねることは ないと 二人は 知っていたのです。

「サラ、パラソルを わすれない ようにね。もうふと いっしょにもつに つめるって ママが 言ってたから。」そう 言いながら、クリステアーナは きぬばりの レースの パラソルを 手に とりました。

二人は りょうしんから、アメリ

カへ 行くには ひつようなものい がい、何も もって 行けないと 言われていました。ねむるときのもや ようふく、どうぐなどを つめると、ほかの ものを 入れる よゆうなど ありません。それでも 二人は、新しい いえに お気に入りのもを 一つだけは、どうしても もって行きたいと りょうしんに おねがいました。けっきょく、人形も 本も おもちゃも あきらめて、それぞれの きれいな パラソルを もって行くことに したのです。

日が のぼるころ、クリステアーナと かぞくは アメリカに むかう 船に のりこみました。友だちや しんせき、自分たちの家とも わかれなければなりませんでしたが、シオンに行けると 思うと みんなの心は 高鳴りました。

ひろい海を わたる 船たびは、長く、たいくつでした。あつい 昼下がり、船の上で 二人の少女は 日よけに、きれいな パラソルを さして、あつさを しのぎました。風が しんこうほうこうに ふくと、船は じゅんちょうに すすみましたが、風むきが かわると、船はおしもどされて、ときには こうろを かなり 後もどりするはめになりました。

アメリカに とうちゃくした ラーセン一家は、牛と にぐるまを 買い、ソルトレークぼん地を 目ざして 長いたびを はじめました。にぐるまの 上は はげしく ゆれ

るし、あつかったので、クリステアーナと サラは にぐるまを おりて 歩くことが よくありました。

ほかの たくさんの かいたくしゃの かぞくと 同じようにクリステアーナのかぞくも たびの間、くるしいことや かなしいことに見まわれました。生まれたばかりのクリステアーナの 弟は たびのちゆうで なくなり、へいげんに ほうむられました。

1857年に ラーセン一家は ソルトレークぼん地に たどりつきました。そのときから、クリステアーナは、同じ年ごろの 子どもと 教会に行くのが 楽しくて たまりませんでした。毎週 日曜日になると クリステアーナと サラは、あつい さばくの 日ざしを さえぎるために パラソルを さして うれしそうに 教会に 行きました。

日が たつにつれて、かぞくのお金や しょくりょうが そこを つきはじめました。あるばん、クリステアーナは、りょうしんが そのもんだいについて 話し合っているのを 耳にしました。こううんにも こくもつがたくさんとれた かぞくを知っていると お父さんが 言いました。わが家の もちもの と 引きかえに 小麦こを いくらか 手に入れられる かもしれないと いうのです。でも

何か こうかんするものがあるでしょうか。

「パパ、サラとわたしのパラソルとこうかんすればいいわ」とクリスチアーナが声を上げました。

「でもクリスチアーナ、おまえたちがとても大切にしているパラソルじゃないか。そんなことはできないよ。」

「へいきよ、パパ。パラソルより食べものの方がだいじでしょ」とクリスチアーナが言いました。

つぎの日、クリスチアーナのお父さんは、うつくしい

レースのパラソルを小麦ことうかんしてもらいました。こうして、かぞくぜんいんをやしなうに十分なりょうの小麦こを手に入れることができました。

そのばん、クリスチアーナはねるしたくをしながら、大すきなパラソルを立てかけてあったへやのすみをかなしげに見つめま

した。でも、ゆうはんに食べたおいしいパンのことを思い出すと、かなしみはよろこびに変わりました。その夜のおいりの中で、クリスチアーナは自分が大切にしていたパラソルが、かぞくの食べものを手に入れるのにやく立ったことを、天のお父さまにかんしゃしました。■



「きせいはふくいんのきゆうきよくのテストです。つまり、自分の時間とさいのうと体力と地上でしよゆうするすべてのものを、かみのわざをおしすすめるためにささげるのです。」

十二使徒定員会 クエンティン・L・クック長老  
「あなたは聖徒ですか」『リアホナ』2003年11月号, 96



ベアトリス・ダ・S, 10才 (ブラジル)

ぼくが小さいころ、お母さんはよくバプテスマ会につれて行ってくれました。でも、きょねん、自分がバプテスマをうけられるねんれいになったとき、とてもこわくなりました。これまで見てきた人たちのように、正しくぎしきをうけられないかもしれないとふあんになったのです。とくに水の中に入るのがしんばいでした。でも、せいれいがぼくをたすけてくれました。「こわがらないで、だいじょうぶだから」ということがずっと聞こえていた気がします。せいれいがたすけてくれたので、ぼくはふあんをのりこえてバプテスマをうけることができました。このけいけんは、ぼくにとってとても大切で、大きなしゅくふくでした。水からあがったとき、もう水をこわいと思わなくなり、とてもよい気もちがしました。



ブライアン・K, 9才 (台湾)

## 一生懸命に学んで備える

ぼくは、1学期のマレー語の試験がよくできなかつたので、クラスでの順位がひどく下がってしまいました。とてもショックでしたが、自分が悪いことだけは分かっていました。放課後、宿題や勉強をしないで何時間も友達と遊んでいたからです。そこでぼくはお母さんと、成績を上げるために計画を立てました。毎日、お母さんに言われたら文句を言わずに宿題を終わらせることと、2学期のテストがよくできるように、お母さんと二人でおいのりすることにしたのです。2学期の間中ぼくは一生懸命に勉強しました。試験の1週間前のことでした。お母さんは、試験の一つである作文のために、あるテーマについてぼくに準備させるよう、うながしを受けました。作文のテーマは先生が決めることになっていて、そのテーマについて書いた作文のできによって成績がつけられるのです。

試験の当日、先生が選んだテーマを見ておどろきました。まさにぼくが準備していたテーマ

だったのです。そのテーマが試験に出るとは思ってもみませんでした。ぼくは一生懸命に勉強して準備したおかげで、とても良い作文を書くことができました。その結果、最高の点をもらうことができました。ぼくの成績がすごく上がったことを、先生もおどろいていました。

ぼくは勉強することについてあかしを得ました。おいのりして一生懸命に勉強すると、靈感を受けて成績を上げることができると思ったのです。

エタン・D, 11才 (マレーシア)





キノ・A, 6才 (フィリピン)



メキシコに ずんでいる 3さいの メラニエ・Aは、あそんだあと おもちゃを あつめて おかあさんが かたづけるのを てつだうのがすきです。3さいになった メラニエは、にちようびに きょうかいで しゅうかいが おわったあと、いすを つぎつぎに 手わたして かたづけをする ひとたちの おてつだいをします。メラニエは、モンソンだいかんちょうが だいすきです。そうたいかいのときに テレビで だいかんちょうを みるのを とても たのしみにしています。



コスタリカの 9才になる エドウィン・Mは、歌が 上手で、「こどものいのり」を 歌うのが すきです。すいえいも すきです。学校では 友だちによく ふくいんについて 話をしたり、わるいことばを つかわぬように ちゅういしたりします。



わたしは ベッドに ねているとき、もし 家がかじになったら どうなるんだろうと そうぞうして、とても こわくなることがあります。そんなとき、わたしは 天のお父さまに おいのりします。そうすると 心が おちついてすぐに ねむることができます。ふあんになったり かなしくなったり するときは いつでも、天のお父さまに おいのりすることができます。天のお父さまは どんな もんだいでも かいけつできるように、わたしを たすけてくださいます。

レア・M, 9才 (ドイツ)

「わたしたちのページ」に 絵や しゃしん、けいけんだんや あかし、手紙をおくりたい人は、けんめいの ところに「わたしたちの ページ」(Our Page)と書いて、電子メールで おくってください。おくり先は [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) です。

応募の際には、必ず子供の氏名と年齢、それに親の名前、ステーク、地方部、ワード、支部名を明記し、子供の写真や提出物の使用に対する許可書(電子メールでも可)を添えてください。紙面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために、編集されることがあります。

「イエスさま ともだち そばにいて」(『<sup>こども</sup> <sup>かしゅう</sup>子供の歌集』37)

# イエスさまって だれ?

エリアーナ・オズボーン

じつわを もとに かかれました。

1. 「きをつけろ! アロサウルスが  
おまえをつかまえにいくぞ!」  
アロサウルスをもった テディーは  
ながいすのまわりで コールの  
きょうりゅうをおいかけながら  
おごえでさげびました。

「だれも ぼくをとめることは  
できない。ぼくは ティラノサウルス  
のおおさまだ。」きょうりゅうを  
かべづたいに はねさせながら  
コールが いいました。



2. ふたりはおかあ  
さんがおやつをもっ  
てきてくれるまで、おな  
かをすかせた そう  
ぞうしいきょうりゅう  
のまねをして いえ  
じゅうをどすんどすん  
とあるきまわりました。

3. 「かべに  
はってあるあの  
えはだれ?」  
ほうチーズをほおば  
りながら テディーが  
たずねました。

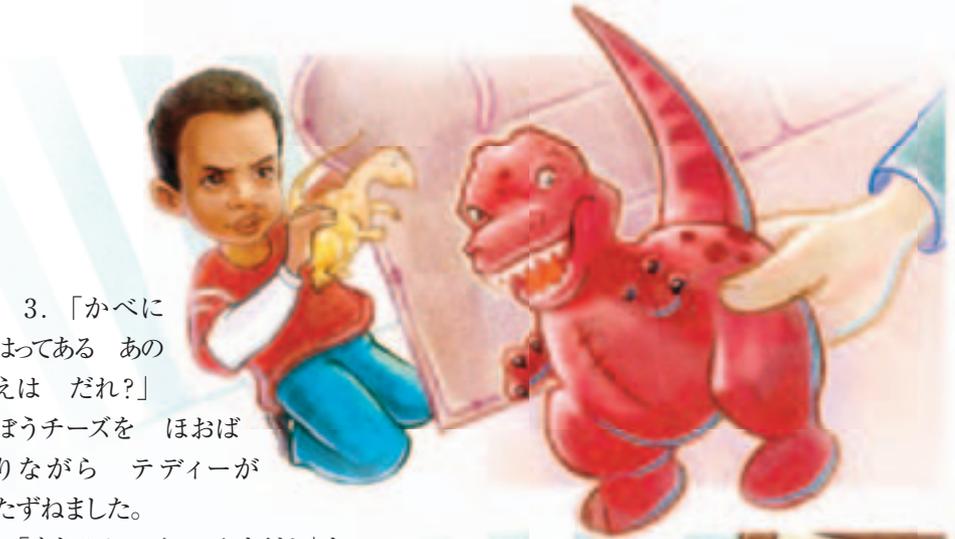
「もちろん イエスさまだよ」と、コ  
ールがこたえました。

「イエスさまってだれ?」と、テディー  
がききました。

コールはなんとこたえてよいか  
わかりませんでした。イエスさまのこ  
とはだれでも知っているとおもっ  
ていたからです。

「イエスさまは てんに すんでいて  
みんなを あいしておられるんだ。」  
コールには そんなことばしか おも  
うかびませんでした。

「わかった。ねえ、そとで あそば  
ない?」と、テディーが いいました。



4. そのひのよる コールが ベッドの そ  
ばに ひざまずいて おいのりを しようとし  
ていると おとうさんが へやに はいってき  
ました。

「きょうは テディーと あそんで たのし  
かったかい?」と、おとうさんが たずねました。

「うん。すなばで あそんだり、きょうりゅう  
で あそんだりしたよ。おとうさん、テ  
ディーから イエスさまって だれって きか  
れたけど、ぼく どう こたえたらいいか  
わからなかったんだ。」

5. おとうさんは コールの ベッドの うえのかべに かけてある イエスさまの えを ゆびさしました。 イエスさまが こどもたちに かこまれている えです。「このえをみると どんなことを おもいうかべるかな?」と、 おとうさんが たずねました。



7. 「いまいったことを テディーに いえば いいんじゃないかな」と、 おとうさんが いいました。  
「たぶん テディーは いつか ぼくと いっしょに きょうかいに いきたいっていう かもしれないね。そしたら イエスさまのこと いっぱい べんきょう できるね。それって たのしいよね」と コールが いいました。

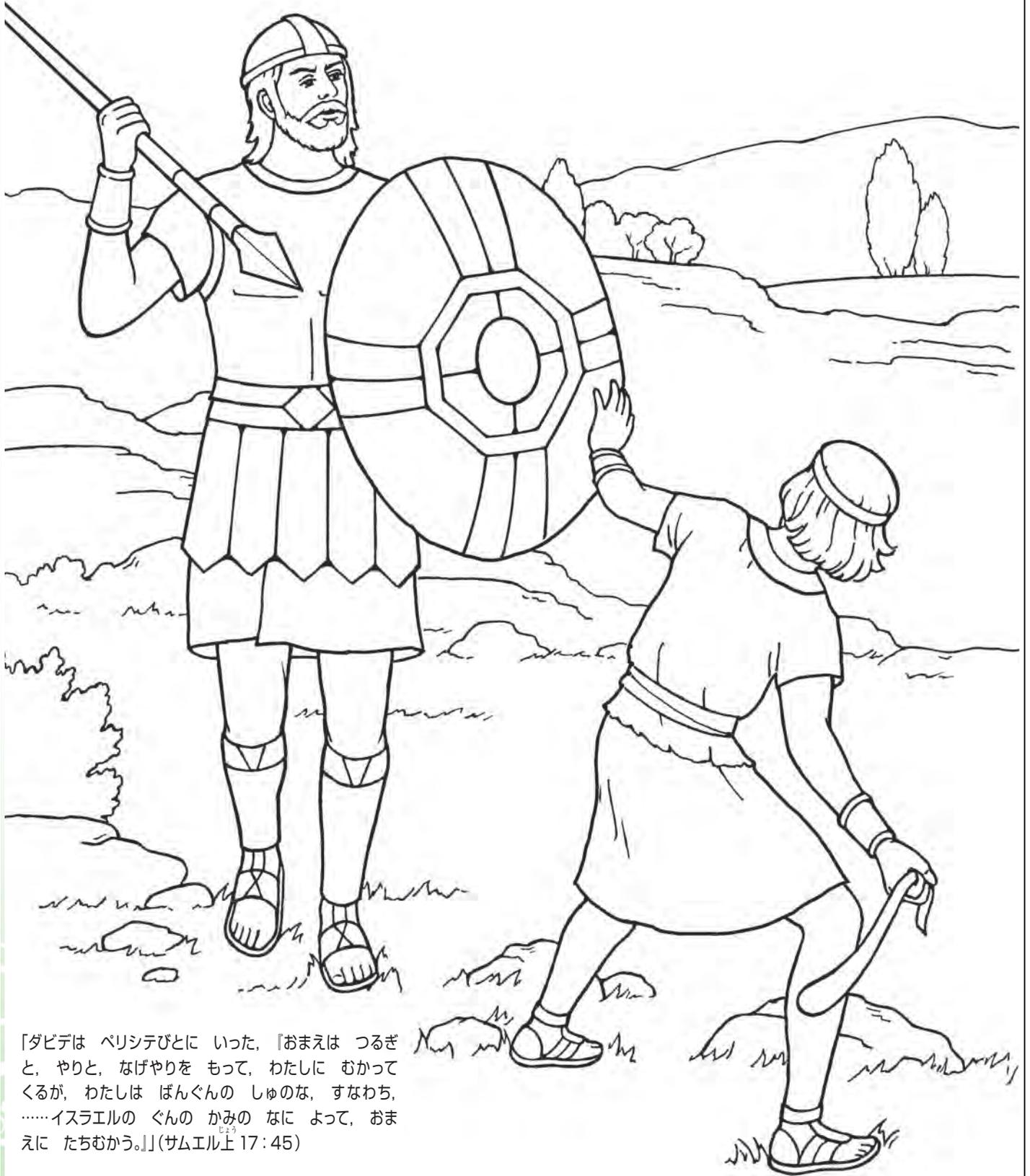


6. 「いつか イエスさまと てんのおとうさまと いっしょに すむこととか、 イエスさまが ちじょうに おられたとき ひとびとに しんせつに されたことを おもいうかべる」と コールが いいました。



8. おとうさんは コールの あたまに キスを してくれました。  
「コールは いいこだね。 てんのおとうさまも イエスさまも コールのことを えらいこだとおもっておられるよ。 テディーは きみのようなともだちがいて しあわせだね。」 ■

# ダビデと ゴリアテ



「ダビデは ペリシテびとに いった、『おまえは つるぎと、やりと、なげやりをもって、わたしに むかってくるが、わたしは ばんぐんの しゅのな、すなわち、……イスラエルの ぐんのかみ<sup>じょう</sup>のなによって、おまえに たちむかう。』」(サムエル上 17:45)

# かいたくしやのみち

アリー・パン・デ・グラーフ

かいたくしやたちは いえ  
にかえる みちを  
さがしています。 正しい  
みちが みつかるよう たす  
けてあげましょう。



## 大切な役割について学ぶ 日曜学校会長会

教会機関誌

ローレン・アレン

**ユ**タ州ハイランド第30ワードでは、日曜学校会長会のリチャード・クリスチャンセンとその顧問が毎週日曜日、どのユニットでもよく見かける義務を果たしている。各クラスに教師がいることを確認し、廊下にいる生徒を教室に誘導するのである。

ただし、クリスチャンセン兄弟は、自分の責任が生徒を誘導し、終業のベルを鳴らすことだけではないと思うようになってきた。

各定員会と補助組織の主要な役割の一つは、救いに必要な福音の原則を会員たちに教えることである。クリスチャンセン兄弟とその顧問のように日曜学校会長会の責任を受けている者の役割は、教師訓練のスペシャリストとしてワードで働き、補助組織の指導者と神権指導者がこの目的を果たせるよう助けることである。

「教えることは教会が持つ重要な手段です。教えられることによって強い会員が育ち、会員は回復に対する証あかしを深めて救いと昇栄が得られるようになります」と中央日曜学校会長のラッセル・T・オスガソープ兄弟は語る。

ワード日曜学校会長であるクリスチャンセン兄弟の責任は、親や指導者、教師が家庭や教会で行うレッスンの質を向上させるための資料や援助手段を提供することである。

「教えることこそが大切なのです。そして、教師が有能であれば、人は喜んで学ぶようになります」とクリスチャンセン兄弟は言う。

日曜学校会長会が活用できるものの一つに、日曜学校の時間帯に行われる福音の教え方コースがある。『教師、その大いなる召し』を手引きとし、12課から成るこのコースは、ビショップの指示の下で日曜学校会長会の一員が教師を務めることができる。

「これは、教授技術を磨きたいと思うすべての教員に役立つコースです。」しかも、家庭、教会を問わず役立つコースであると、オスガソープ兄弟は語る。「出席者は、御霊みたまによって教えるにはどうしたらよいか、生徒たちが自分から進んで熱心に学ぶようにするにはどうするか、生徒たちが学んだ原則を自分の生活で意欲的に応用するよう導くにはどのような教え方をしたらよいかを学ぶことができます。」

オスガソープ兄弟によれば、『教会指導手引き 第2部』に記載されているように日曜学校会長はワード評議会に毎回出席して、ビショップがワードの会員のためにどんな目標を掲げているかを理解できるようにする。そして、その目標を達成するために教え方をどのように改善していけばいいのかを一緒に話し合うのである。



日曜学校会長は、支部会長またはビショップの要請を受けて、ワードまたは支部の評議会での福音の教授法と学習法に関連した原則について指示を与えることができる。また、青少年や成人の日曜学校への出席状況を報告して、出席することが難しい会員を助けるようワードの指導者たちに勧められることもできるとオスガソープ兄弟は語る。

「教会において最も効果的なレッスンは家庭で行われます。忠実な親が福音の原則を実践し、子供にその原則を教えるのです。補助組織は、この最も神聖な義務が家庭で果たせるよう助けるために存在しています。日曜学校会長は、親と教師の双方がその責任をよく果たせるようにするためにワードに置かれている組織なのです」とオスガソープ兄弟は語る。

親と教会指導者が福音をうまく教えることができれば、会員の証は強まり、会員はキリストのもとに来るようになるとオスガソープ兄弟は言う。

「(ワードにおいて)福音が効果的に教えられているかどうかを正しく測る唯一の尺度は、会員の忠実さです。多くの若者が伝道に出るようになり、(成長して)神殿で結婚する若者が増え、聖文を読み、家庭の夕べを開き、神殿で定期的に礼拝する親が増えるならば、レッスンの内容は良くなっていると言えるのです。」■

## 教師改善のための資料

**聖**文および『教師、その大いなる召し』(カタログ番号 36123 300) のテキスト、『教会指導手引き 第2部』の「福音の教授と指導」の項を活用することによって、会員は教授法を改善し、イエス・キリストの福音を教えて「かつてなかった成果を上げ[てください]」というゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910 - 2008年)の呼びかけにこたえることができるのである(『なすべき業あり』『聖徒の道』1995年7月号, 94)。

「わたしたちは自分と自分の民を強め、教師が本からではなく自分の心から語れるようにし、教師が主を愛し、自分の携わる価値ある業を愛していることを伝えることができるようにしなければなりません。そのような教師こそが生徒の心に火をともすのです。」(Teachings of Gordon B. Hinckley [1977年], 619 - 620)



『教師、その大いなる召し』にある「福音の教え方コース」の目的は、教会員に教授能力を高めさせ、福音の教授法を改善することの大切さを認識させることである。このコースでは御霊によって教える、熱心に学ぶよう勧める、効果的な方法を用いるといったテーマを扱っている。

『教師、その大いなる召し』のテキストは、30以上の言語に翻訳されている。入手方法については地元の配送センターにお問い合わせください。■

## 教師改善の変更点の説明

**大**管長会は2006年11月17日付けの書簡で、教師改善に関する変更点を発表した。それについては

### 廃止

ステークおよびワードの教師改善コーディネーターという責任は廃止された。

四半期ごとの教師改善集会は廃止された。

いまだに幾らか混乱がある。廃止および継続に関する事項を以下に記載する。

### 継続

教師改善コーディネーターの責務は現在、ワードまたは支部の日曜学校会長が務めている。

『教師、その大いなる召し』にある福音の教え方コースは、必要に応じて教えてもよい。■

# 新伝道部会長が着任

**100**名以上の新しい伝道部会長とその夫人が、今月、全世界で3年間の務めを開始した。

伝道部	新伝道部会長
アイオワ州デモイン伝道部	ダーク・O・ジェルゼンセン
アイダホ州ボイス伝道部	ケント・H・キャン
アラバマ州バーミンガム伝道部	リチャード・N・ホルツアップフェル
アリゾナ州テンピー伝道部	ティーン・L・ハウス
アリゾナ州メサ伝道部	R・スベンス・エルスワース
アルゼンチン・コルドバ伝道部	アルフレッド・L・サラス
アルゼンチン・ブエノスアイレス北伝道部	リチャード・M・グランドセン
アルゼンチン・ブエノスアイレス南伝道部	マイケル・J・ステープラー
アルメニア・エレバン伝道部	リース・A・カーター
イタリア・ミラノ伝道部	デビッド・R・ウォルフグラム
イタリア・ローマ伝道部	トーマス・ケリー
イングランド・リーズ伝道部	ジェレル・D・リンドリー
インディアナ州インディアナポリス伝道部	ケント・H・コリンズ
インド・バンガロール伝道部	ランディー・D・ファンク
インドネシア・ジャカルタ伝道部	ジョージ・H・グローバーク
ウイスコンシン州ミルウォーキー伝道部	ティモシー・M・ジョーンズ
ウガンダ・カンバラ伝道部	エリック・C・ジャクソン
ウルグアイ・モンテビデオ西伝道部	ロナルド・W・ヒートン
エクアドル・グアヤキル南伝道部	ハビエル・モンタルティ
オーストラリア・パース伝道部	ポール・L・カフーン
オーストラリア・ブリスベン伝道部	フリッツォフ・F・ランゲラン
オーストラリア・メルボルン伝道部	デニス・R・リファース
オクラホマ州オクラホマシティ伝道部	ノーラン・S・テラー
カナダ・エドモントン伝道部	クリス・W・キャンベル
カナダ・トロント西伝道部	ブラッドフォード・J・ブローワー
カナダ・モントリオール伝道部	ネルソン・C・キャン
カリフォルニア州カールスバッド伝道部	ブルース・M・クック
カリフォルニア州サンバーナーディノ伝道部	ウィリアム・E・ジャーティン
カリフォルニア州ロサンゼルス伝道部	ステイブン・R・ベーカー
カリフォルニア州ロングビーチ伝道部	テッド・F・ババート2世
韓国テジョン伝道部	マーク・C・ファーンズ
グアテマラ・レタレウ伝道部	ホセ・E・マラビージャ
ケニア・ナイロビ伝道部	ステイブン・H・ブロードベント
コロラド州デンバー南伝道部	アラン・R・メーンズ

コロンビア・バラキージャ伝道部	カルロス・A・ガビリア
コンゴ民主共和国ルブンバシ伝道部	ゲリー・L・パッカー
シエラレオネ・フリータウン伝道部	リチャード・ロジア
スペイン・マラガ伝道部	リチャード・R・クレッグ
台湾台中伝道部	クラーク・T・ピショップ
チェコ・プラハ伝道部	デビッド・R・アーウィン
チリ・アントファガスタ伝道部	リーランド・E・ブルース
チリ・コンセプション伝道部	ニール・W・ハンフリー
チリ・サンティアゴ西伝道部	リチャード・W・キング
チリ・ランカグア伝道部	ジェームズ・D・マッカーサー
テキサス・サンアントニオ伝道部	ステイブン・E・ジョーンズ
テキサス・フォートワース伝道部	ジョセフ・M・サガース
テキサス・マックアレン伝道部	ステイブン・J・トレイナー
デンマーク・コペンハーゲン伝道部	ジェンス・H・アンダーセン
トンガ・ヌクアロファ伝道部	アイサケ・K・トゥクアフ
ナイジェリア・エヌグ伝道部	ジョン・K・ブアー
ニカラグア・マナグア北伝道部	カルロス・F・アレドンド
ニカラグア・マナグア南伝道部	ハビエル・F・モネステル
日本名古屋伝道部	スコット・O・ベアード
ニューハンプシャー州マンチェスター伝道部	デビッド・L・ウィルキー
ニューメキシコ州アルバカーキ伝道部	ウエイン・K・ミラー
ニューメキシコ州ファーマーミント伝道部	スペンサー・V・ジョーンズ
ニューヨーク州ロチェスター伝道部	ジャック・R・クリスチャンソン
ネバダ州ラスベガス西伝道部	ジェリー・B・ブラック
バージニア州リッチモンド伝道部	ジェームズ・C・ペリー
パナマ・パナマシティ伝道部	クレイグ・L・ワード
パラグアイ・アスンシオン北伝道部	オラシオ・D・マダリアガ
ハワイ州ホノルル伝道部	ジョン・C・タルトン4世
フィリピン・イロイロ伝道部	ライアン・V・パガデュアン
フィリピン・カガヤンデオロ伝道部	ウィリアム・A・ヘルナエズ
フィリピン・カワヤン伝道部	ロドルフォ・A・カルロス
フィリピン・ケソンシティ伝道部	デビッド・W・デラメア
フィリピン・ナガ伝道部	ロナルド・D・ブリーズナー
フィリピン・ブトゥアン伝道部	メルナード・P・ドナート
プエルトリコ・サンファン伝道部	ホルヘ・M・アルバラード
ブラジル・カンピナス伝道部	R・マーシャル・タナー
ブラジル・クリティバ伝道部	デレク・L・コードン
ブラジル・ゴiania伝道部	ラモン・C・プリエト
ブラジル・サンタマリア伝道部	イザイアス・D・リベイロ
ブラジル・ジョアン・ペソア伝道部	ゴードン・J・ホール

ブラジル・リベイラン・プレート伝道部	ギルソン・R・プリエト
ブラジル・ロンドリーナ伝道部	エドアルド・L・M・タバレス
フロリダ州オーランド伝道部	ガス・V・ホール
フロリダ州ジャクソンビル伝道部	ジェームズ・W・バリー
フロリダ州タラハシー伝道部	テール・ジェンセン
フロリダ州タンパ伝道部	ブルース・P・サマーヘイズ
ベネズエラ・バルンシア伝道部	ホルヘ・G・モントージャ
ペルー・アレキパ伝道部	アルトゥーロ・フェルナンデス
ペルー・クスコ伝道部	ウィルソン・B・カルデロン
ペルー・トルヒージョ伝道部	テリー・D・ターク
ペルー・リマ北伝道部	ローレンス・P・ブランク
ペルー・リマ西伝道部	J・スコット・ダリウス
ベネズエラ州フィラデルフィア伝道部	ウィリアム・A・シエファメイヤー
ポーランド・ワルシャワ伝道部	スタンフォード・W・ニールソン
ポリビア・サンタクルス伝道部	フェルナンド・E・カルデロン
ポリビア・ラ・パス伝道部	ヘクター・K・キンタニーヤ
ホンジュラス・サン・ペドロ・スラ伝道部	ロナルド・L・ペイルス
ミシガン州デトロイト伝道部	ダグラス・D・ホームズ
ミズーリ州セントルイス伝道部	ステイブン・D・クラーク
南アフリカ・ダーバン伝道部	ジェームズ・C・フォン・ステッテン
メキシコ・クリアカン伝道部	ロランド・カントウー
メキシコ・チワワ伝道部	ジェラルド・アングロ
メキシコ・ビジャエルモサ伝道部	ニコラス・カスターニエータ
メキシコ・メキシコシティ西伝道部	カルロス・ビリャレアル
メキシコ・メキシコシティ東伝道部	ロバート・H・ヒッケン
メキシコ・メキシコシティ北西伝道部	トム・R・テルボート
メキシコ・メリダ伝道部	ネツァワルコヨトル・サリナス
メキシコ・モンテレー東伝道部	アラン・R・ワーカー
メキシコ・レオン伝道部	カリム・テル・バジェ
モンゴル・ウランバートル伝道部	クリス・J・メカム
ユタ州セントジョージ伝道部	ケース・G・レオナルド
ユタ州ソルトレーク・シティ伝道部	ブルース・R・ウィン
ユタ州ソルトレーク・シティ南伝道部	ブルース・E・ミラー
ロシア・サマラ伝道部	ラルフ・J・サルトリ
ロシア・モスクワ伝道部	ステイブン・J・ソレンソン
ワシントンD.C北伝道部	ジェームズ・R・松森
ワシントン州エベレット伝道部	D・ケース・ウィルソン
ワシントン州ケネウィック伝道部	レオナルド・D・グリーア
ワシントン州シアトル伝道部	トッド・S・ラーキン ■

## 伝道部が変更になる

**需**

要の変化に応じて力をうまく配分するために、教会は10の伝道部を新設し、そのほか近隣の伝道部との統合も行った。その結果、伝道部の数は計340となる。

新設された伝道部は以下のとおり。

コンゴ民主共和国ルブンバシ伝道部、グアテマラ・レタルレウ伝道部、メキシコ・メキシコシティー北西伝道部、メキシコ・ビジャエルモサ伝道部、ニューメキシコ州ファーミントン伝道部、ニカラグア・マナグア北伝道部（ニカラグア・マナグア伝道部は、ニカラグア・マナグア南伝道部に名称が変更）、ペルー・クスコ伝道部、ペルー・リマ西伝道部、フィリピン・イロイロ伝道部、ユタ州セントジョージ伝道部。

合併された伝道部は以下のとおり。

オーストラリア・メルボルン東伝道部とオーストラリア・メルボルン西伝道部は合併してオーストラリア・メルボルン伝道部となる。

オーストラリア・シドニー北伝道部とオーストラリア・シドニー南伝道部は合併してオーストラリア・シドニー伝道部となる。

プエルトリコ・サンファン東伝道部とプエルトリコ・サンファン西伝道部は合併してプエルトリコ・サンファン伝道部になり、プエルトリコ・サンファン東伝道部の一部はドミニカ共和国サントミンゴ東伝道部および西インド諸島伝道部に編入される。

ドイツ・ハンブルク伝道部は、ドイツ・ベルリン伝道部に吸収される。

ドイツ・ミュンヘン／オーストリア伝道部、スイス・チューリヒ伝道部、およびドイツ・フランクフルト伝道部の

一部は統合されて、アルプス・ドイツ語圏伝道部となる。

イリノイ州シカゴ北伝道部とイリノイ州シカゴ南伝道部は合併してイリノイ州シカゴ伝道部となる。

管轄区域の変更に伴い、イリノイ州ピオリア伝道部は、アイオワ州デモインおよびミズーリ州セントルイス、ネブラスカ州オマハの各伝道部に分割・吸収される。

アイルランド・ダブリン伝道部とスコットランド・エディンバラ伝道部は合併してスコットランド／アイルランド伝道部となる。

管轄区域の変更に伴い、イタリア・カタニア伝道部は、イタリア・ローマ伝道部およびイタリア・ミラノ伝道部に分割・吸収される。

管轄区域の変更に伴い、日本広島伝道部は、日本福岡伝道部および日本神戸伝道部に分割・吸収される。

韓国ソウル西伝道部は、韓国ソウル伝道部に吸収される。

管轄区域の変更に伴い、ニュージャージー州チェリーヒル伝道部は、ニュージャージー州モリスタウン伝道部およびペンシルベニア州フィラデルフィア伝道部に分割・吸収される。

管轄区域の変更に伴い、オハイオ州シンシナティ伝道部は、オハイオ州コロンバス伝道部およびウエストバージニア州チャールストン伝道部に分割・吸収される。

管轄区域の変更に伴い、スペイン・ビルバオ伝道部は、スペイン・バルセロナ伝道部、スペイン・マドリッド伝道部、スペイン・マラガ伝道部に分割・吸収される。■

## オックス長老、

ハーバード大学法科大学院の学生に向けて講話をする

**十**二使徒定員会のダリン・H・オックス長老は最近、ハーバード大学法科大学院において第5回年次「モルモニズム101シリーズ」の一環として、学生たちに講話を行った。

毎年、ハーバード大学法科大学院末日聖徒学生協会によって会員が一人招待され、モルモニズムの基本的な信条を話し、学生たちの質問に答えている。

オックス長老は、天の御父とイエス・キリストと聖霊が異なる御三方であって、別個の存在であるものの目的においては一致しているという末日聖徒の持つ信条について説明した。また、救いの計画を簡単に解説して、人生の目的についても説明した。

長老はイエス・キリストとその贖い<sup>あがな</sup>の力について証し、次のように語った。「わたしにとって、イエス・キリストの贖い<sup>あかし</sup>という奇跡は理解しがたいものですが、それが確かに起こったという証を聖霊が与えてくださいました。そして、わたしはこの贖い<sup>あがな</sup>について生涯宣言できることに喜びを感じています。」

これに続けて、教会は現代の預言者と聖典などの真理の源に信頼を置いていることを説明した。

「わたしたちの土台はこの世の知恵や人の哲学ではありません。これらのものは伝統もあり、尊重されていますが、イエス・キリストに対してわたしたちが持っている証は、神が預言者とわたしたちに個人的に与えてくださる啓示に基づいているのです。」■

## 宗教の自由の擁護への尽力を枢機卿が称賛

**ブ**リガム・ヤング大学の歴史上初となる枢機卿による演説の中で、フランシス・ジョージ枢機卿は、カトリック教徒と末日聖徒は合衆国の宗教の自由のために団結するべきだと語った。「政府が国民の良心を擁護できないのであれば、人類の自由を守る盾となる責任は宗教団体、特に、イエス・キリストの福音に

基づいて結成されている宗教団体にかかってきます。」

シカゴ大司教であり、カトリック教会司教の米国カトリック会議の議長を務めるジョージ枢機卿は、アメリカ合衆国ユタ州プロボのマリオットセンターにおいて1万2,000人の末日聖徒の学生と教職員を前に語った。

そして、次のように感謝の意を表した。「カトリック教徒と末日聖徒は、共通の道徳的な原則を擁護するための信頼できるパートナーであると認め合うようにな

りました。」

どちらの教会も、堕胎やボルノグラフィー、同性婚などの問題に対して、同じ立場で闘ってきていると枢機卿は語る。

「宗教の自由は礼拝の自由という小さな枠の自由に置き換えることはできませんし、ましてや個人の良心の自由に置き換えることもできません。宗教の自由とは、信仰を持つ個人とともに宗教団体も公共の場でその影響力を及ぼすことができるということの意味するのです。」■

## 世界の出来事

### オグデン神殿の改装工事始まる

40年近い歴史を持つオグデン神殿は、18か月から24か月間にわたる大規模な改装工事を行う。

神殿の基本的な内装デザインはそのままだが、外装は新たに石やガラスを用いてデザインを一新する。

建物は耐震基準を満たすように改築され、最新の技術を用い、エネルギー資源を効率よく使う設備も装備する。地下駐車場も新設される。

### 「オナー・ビー」チャームが加えられる

「成長するわたし」プログラムにいくつかの変更が加えられたことに伴い、基準となる条件を超える業績を達成した若い女性には「オナー・ビー」チャームを授けることになった。このチャームを獲得するためには、若い女性は「若い女性表彰」メダルの授与を受けた後にモルモン書をもう一度読み、さらに40時間の奉仕を行う必要がある。奉仕には、ほかの若い女性の「成長するわたし」の目標達成を助けることが含まれなければならない。この賞品は、メダルと同じチェーンに付ける小さな装飾品である。



### ラテンアメリカの聖徒に関する展示

教会歴史博物館では、最近、「ミ・ビーダ、ミ・イストリア——ラテンアメリカの聖徒たちの信仰と靈感にあふれる物語」という、二つの言語による新しい展示が行われており、24名の会員の霊的な経験が展示されている。会員たちの写真が展示場いっぱいにつり下げられ、双方向視聴覚コーナーでは入場者がこの会員たちの生活をさらに掘り下げて理解できるようになっている。この展示は、スペイン語および英語にてインターネットで視聴できる。lds.org/museumを開いて **Exhibits and Galleries** をクリックし、**Current Exhibits** をご覧ください。■

## 読者からの便り

### 救い主の愛を表す大管長会

わたしたちは大管長会のメッセージを研究しているときに、その教えを幼い子供と青少年に実行させるためのアイデアが載っていることに気づきました。このアイデアは、訪問先の家族だけでなく、わたしたちの家族のためにも役立ちます。大管長会が福音の真理を、簡単に個人が実行できるもの、決して廃れることのないものにしようと決意していると感じ取ることができます。モンソン大管長は神の預言者であり、大管長会の方々はわたしたちに教えを授け、わたしたちのために祈ることによって救い主の愛を示しているのです。わたしたちも、大管長会の方たちを愛していますし、彼らのために祈っています。

ディアス家族（ブラジル）

### 大切なポスター

教会機関誌に載っているポスターは、わたしたち家族にとって計り知れないほどの価値があります。教会の教えのメッセージを簡潔に分かりやすく視覚的に伝えてくれるのです。我が家では玄関のドアの横に額に入れてポスターを飾り、2、3週間ごとに新しいポスターに入れ替えています。こうしておく、家族全員が戒めを守ることを思い出すことができます。わたしたちは、インターネットで入手できるポスターを2001年からすべてプリントしています。ほんとうにすばらしい恵みです。ありがとうございます！

シュワルツウェルター家族（ドイツ）

ご意見、ご感想を [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) にお送りください。掲載されるお手紙は、紙面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

## 家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が掲載されています。以下に幾つか例を挙げます。

「召しによって祝福を受ける」11ページ——レッスンを教える際に、筆者が心を込めて奉仕したときに主が重荷をどのように軽くしてくださったかについて話し合ってもよいでしょう。主に仕えることによって祝福を受けた経験を家族に話してもらいます。

「開拓者は何をもちたのか」16ページ——記事にあるスティープン・リチャーズ長老が与える4つの知恵を挙げてもらってもよいでしょう。それぞれの知恵がどのように家族を強め、あなたの模範に倣う人の人生にどのように祝福が注がれるのかを話し合います。

「自信をもって福音を分かち合う」30ページ——記事にある以下の言葉をどのように実行すればよいのかを家族で話し合います。「自分の信念を正当化しなければならないと感じる必要はないことを、どうか忘れないでください。ただ愛と思いやりの精神で説明すればよいのです。真実の教義が教えられるとき、真理は常に何物にも勝るのです。」

「絶対にだめだ」58ページ——この話を読むか、または内容をかいつまんで話した後で、誘惑に遭ったときの対応の仕方をロールプレイしてもらってもよいでしょう。チェイスのように「絶対にだめだ」という練習を家族で行うこともできます。■



## 家庭の夕べはどうしたの？

「家庭の夕べはどうしたの？ 今夜は家庭の夕べをするんじゃないの？」6歳の娘、レイラニが尋ねました。わたしは後ろめたい気持ちでいっぱいになりました。夫とわたしは家庭の夕べを開こうと努力してきたのですが、いろいろなことに時間を奪われてしまい、その習慣がなくなっていたのです。レイラニの言葉にはっと気がつき、これからはどんな理由があっても家庭の夕べをおろそかにするまいと改めて決意を固めました。

レイラニとその姉のナディアは、大きくなると、初等協会で学んだことを家庭の夕べでレッスンしたりしました。教える原則を説明するために視覚資料まで自分で描きました。わたしたちは親として、子供たちが福音について話すのを見て喜びを感じますし、子供たちが選んだテーマをさらに発展させることもよくあります。

「家庭の夕べはどうしたの？ 今夜は家庭の夕べをするんじゃないの？」という言葉が子供たちの口から出ることがないようにわたしは必死で努力しています。幼いときが子供を教える絶好の時だということを知っています。世の中の影響はありますが、わたしたちが努力して子供たちとともに成長するならば、原則を守る男性や女性を育てるという目標を達成することができるのです。

パトリシア・カルデナス・デ・ブラド（グアテマラ）■

## 戦うか、逃げるか、それとも 甘んじて打たれるか？

教会機関誌

R・バル・ジョンソン

**当**時14歳だったある日の昼下がりのことでした。わたしはどうすればよいか分からないままに、校舎の外壁に背中を押し付けられ、一人のいじめっ子に殴られていました。彼の仲間6人に取り囲まれたときから、わたしは抵抗すまいと覚悟していました。

彼は何度も何度もわたしをげんこつで殴り、けり上げました。

ついに彼らが立ち去り、バスが来ました。わたしは這いつくばるようにしてバスに乗り込みました。バスを降りるまで、わたしはずっと下を向いたままでした。50年たった今でも、あのときの自分の行動が臆病おくびょうのせいだったのか、キリスト教徒として耐えていたのか分からずにいます。

この経験は、わたしたちが末日聖徒として直面する難解な問題を幾つか浮き彫りにしています。自分の信条を非難されたとき、立ち向かいますか、逃げますか、それとも抵抗せずにいますか。

救い主の御言葉みことばは明快です。「もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい。」(マタイ5:39) わたしは、この聖句について、思案することがよくありました。イエスは御自分に従う人々に侮辱された場合、当時としては当たり前とされていた血なまぐさい報復をしてはならないことを、たとえを用いて諭されたのでしょうか。おそらくそうだと思います。

さらに教義と聖約に記されている勧告について考えてみましょう。

1833年、教会は激しい迫害にさらされており、特にミズーリ州での迫害は激しさを増していました。教会員は自分たちの命を守るために武器を手に取りました。当時、主が下さった啓示が教義と聖約第98章です。その中で主は、限界まで耐えるよう教えられました。教会員には自分を守る権利がありましたが、仕返しを思いとどまるならば、主は報いを与えると約束されました。敵が赦しを請うなら、聖徒は「七の七十倍まで」(40節)赦すよう教えられました。



絵：アンソニー・オニオン

迫害に遭ったとき、わたしたちはキリストの弟子として、どのような態度を執りますか。

戦争を始めるに当たっては、まず平和を求めるべきであり、戦うのは主が命じられたときに限るとされました。

悲惨な迫害の日々は終わりを告げて時代は変わりましたが、今でも教会は何らかの形で攻撃を受けています。教会の教義は概して誤解されていますし、無知による憶測や、不合理な言いがかり、あからさまな偽りが、あたかも真実であるかのように世間に流布されています。

では、どうすればよいでしょう。「いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても、……神の証人になる」(モーサヤ18:9) ために努め励む弟子として、わたしたちは何か行動を起こさなければなりません。逃げるわけにはいきません。では敢然と立ち向かいますか、それとも何も手出しをしないのでしょうか。

この問題に関する預言者の言葉に注目してみましょう。最近の総大会において、論争的となる事柄について教会の立場を説明する言葉が頻繁に語られていることを、わたしは心に留めてきました。それは厳しい非難の言葉でも、ましてや譲歩の言葉でもありません。話者は何事につけても、意見を異にする人々と共通の基盤を見だし、敬意を払っています。相手を理解しようと努めると同時に相手から理解を得ようと努力しています。<sup>1</sup>

戦うか、逃げるか、あるいは甘んじて打たれる以外に方法がない場合があるかもしれません。しかし多くの場合、わたしたちにはより良い選択肢があります。イエスとその使徒なからに倣って、愛をもって手を差し伸べるのです。■

注

1. ダリン・H・オークス「愛と律法」『リアホナ』2009年11月号、26；ジェフリー・R・ホランド「魂の安寧」『リアホナ』2009年11月号、88；ジェフリー・R・ホランド「わたしの言葉〔は〕……決して絶えることがない」『リアホナ』2008年5月号、91；ロバート・S・ウッド「主の平安を広める器」『リアホナ』2006年5月号、93 参照。

## キリストの言葉

### 「運び手たち」 J・カーク・リチャーズ画

1856年11月4日、救助隊と、疲労と飢えに苦しむマレーン手車隊の人々は、ワイオミング州のスウウォーター川に差し掛かりました。大きな氷の塊が浮かぶ、幅100フィート(30メートル)の川には、腰まで浸かる深みもありました。この川を見た開拓者たちは、数日前にプラット川を渡ったときの苦難とその際に亡くなった人たちのことを思い出し、主の助けを叫び求めました。何人かの若い救助隊員が自発的に、女性や子供や弱っている人々を抱えて、氷が浮かぶ川を渡りました。ほとん

ど一日がかりで、運び続けました。彼らの慈悲と勇気は主の山上の垂訓の言葉を体現したものです。シオンへの困難な旅を耐え忍んだ手車隊の犠牲と苦難も、主の同じ言葉を体現しています。

「悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。……

義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。……

喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。」(マタイ5:4, 10, 12)



教公歴史博物館の展示に用いた挿絵

**中** 南米の教会は、今日も目覚ましい発展を続けています。その地の会員たちはモルモン書を愛しています（上の絵を参照）。

しかしながら、わたしたちが福音を宣べ伝えることをすべての国が許可しているわけではありません。トーマス・S・モンソン大管長は、ほかの預言者たちと同様、次のように呼びかけました。「教会が限られた範囲でしか影響力を及ぼすことのできない地域、現在のところ福音を自由に伝える許可が下りていない地域のために、これからも信仰をもって祈りをささげてください。そうするならば、奇跡が起こるに違いありません。」わたしたちの預言者の勧めを受け入れましょう。これまでにわたしたちの祈りがこたえられてきたように、新しい地域が福音に対する門戸を開くことでしょう。「地を満たす」24ページ参照。